

大川市議会第2回定例会会議録

令和7年3月6日大川市議会議場に出席した議員及び付議事件の説明のため出席した者の氏名並びに付議事件の内容は次のとおりである。

1. 出席議員

1番	永尾学	8番	龍誠一
2番	宮崎貴仁	9番	内藤栄治
3番	古賀寿典	10番	川野栄美子
4番	馬淵清博	11番	遠藤博昭
5番	永島幸夫	12番	永島守
6番	宮崎稔子	13番	平木一朗
7番	西田学		

2. 地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	江藤義行
会計管理課長 (兼) 会計課長 (兼) 税務課長	川野文裕
人事秘書課長 (併) 監査事務局長	仁田原敏雄
総務課長 (併) 選挙管理委員会事務局長	田中準一
企画課長	野中貴光
大川の駅整備振興課主幹	甲斐衛
大川の駅整備振興課主幹	岡美詠子
地域支援課長	島崎恵一
市民課長	中島聖佳
健康課長	江崎くるみ
福祉事務所長	山田秀幸
福祉事務所主幹	山口馨

子ども未来課長	古賀章子
インテリア課長	永島潤一
インテリア課主幹 (兼)大川の駅整備振興課主幹	井口秀成
企業誘致推進室長	鶴恭太
農業水産課長 (併)農業委員会事務局長	宮崎和彦
建設課長	阿南和文
学校教育課長	添田宗孝
学校教育課主幹指導主事	藤岡忠司
生涯学習課長	森悟

3. 本議会の書記は次のとおりである。

議会事務局長	西原真
議会事務局書記	古賀直
議会事務局書記	松家奈美子
議会事務局書記	高口絵美

4. 付議事件

1. 一般質問

5. 一般質問通告

発言 順位	議席 番号	氏 名	質 問 要 旨
1	4	馬 淵 清 博	1. 「大川市第6次総合計画後期基本計画」と「第3期大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
2	6	宮 崎 稔 子	1. 大川市のおもてなしの心づかいについて
3	12	永 島 守	1. 市政運営状況について
4	3	古 賀 寿 典	1. 市長のビジョン公約について 2. 子育て支援について 3. 高齢者支援について
5	11	遠 藤 博 昭	1. 江藤市長のまちづくりと政策について
6	2	宮 崎 貴 仁	1. 市政への取組と行政運営について

午前9時 開議

○議長（遠藤博昭）

おはようございます。各位の御参集、感謝申し上げます。

出席議員は定足数に達しておりますので、ただいまから本日の会議を開きます。

ここでおわび申し上げたいことがございます。

3月3日の本会議、教育長の選任案件の討論の中で、内藤栄治議員の発言において、懸命に頑張っておられる生徒、保護者並びに学校関係者の皆様のお気持ちを踏みにじるような不適切な発言がございました。市議会といたしましては、本人に発言の訂正を求めています。

会議をつかさどる私といたしましても、大変遺憾であり、不快な思いをされた方々に対しまして深くおわび申し上げますとともに、今後このようなことがないよう、議員一同取り組んでまいります。誠に申し訳ございませんでした。

ここで内藤議員から謝罪の申出がなされておりますので、この際、お願いいたします。9番内藤議員。

○9番（内藤栄治）

皆さんおはようございます。

3月3日、本会議で、教育長人事案件について賛成意見を発言いたしました。その中で不適切な発言があり、おわび申し上げます。特に、不快な思いをされた方々に深くおわび申し上げます。今後このようなことがないように十分留意してまいります。このたびは大変申し訳ございませんでした。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

それでは、日程に従い、これから一般質問を行います。この際、申し上げておきます。

12月議会において、市長は一般質問の中で通告外という言葉が連発されました。このことに関して、龍誠一議員のほうから、再三通告外という言葉が出るのはおかしいのではないか、執行部との打合せがきちんとできていないのではないかと言われました。

このことを踏まえ、3月定例議会においては、議員各位の協力により、1人を除き、かなり丁寧な通告書を提出いただいております。また、執行部との打合せにおいても、時間をかけて執行部に対し丁寧に説明されている議員の方々の姿を拝見いたしました。

今回は、12月議会の反省を踏まえ、定例会に臨んでおります。執行部におかれても、質問の趣旨や内容を市長にお伝えいただいているものと確信しております。市長におかれましても、できるだけしっかりと答弁していただけるものと思っております。よろしく御配慮お願いいたします。

なお、一般質問の発言時間につきましては、答弁を含め60分程度でお願いしたいと思います。この点、執行部におかれましても何とぞ御協力のほどをお願いいたします。

また、感染症対策を講じている状況のため、1人の質問者が終わるごとに10分程度の休憩を取り、議場内の換気やアルコール消毒を行いますので、御了承のほどをお願いいたします。

それでは、順次発言を許します。まず、4番馬淵清博議員。

○4番（馬淵清博）（登壇）

皆様おはようございます。今回トップバッターを務めます、議席番号4番、田口校区出身、馬淵清博でございます。議長のお許しがありましたので、一般質問をさせていただきます。

今年度は、大川市政誕生から70周年ということでございます。ちょっと大川市という名前の歴史を勉強してみました。

大川市は筑後川最下流に位置をしております。筑後川はかつて、千年川、時には筑前、筑後両国の合い中にあるために、筑間川とも呼ばれていたそうです。

江戸幕府の命により筑後川と改称されたのが寛永13年、1636年だということです。

時を経て、明治22年、三潞郡、榎津町、小保町、向島町、酒見村の一部の町村合併により、大川町が誕生したそうです。この大川の名称は、九州随一の大河である筑後川、また、福岡県と佐賀県、筑後川河口の大川口に由来するものと伝えられているそうです。

昭和29年、町村合併の際には、三潞郡大川町と三又村、木室村、田口村、川口村、大野島村の1町5村が合併し、大川市が誕生いたしました。

大川の名は新市の名称として継承され、現在に至っております。

令和の時代を迎え、本市は、大川の名を冠する大川町の誕生から130年、大川市の誕生から70周年を迎えます。筑後川にゆかりのある大川の名前が郷土の地名として定着していることも、本市の歴史的特徴となっております。

本市は、九州随一の筑後川が有明海に注ぐところ、大川口に位置するまちであり、市内には筑後川ゆかりの歴史文化を物語る文化財が数多く、まち固有の歴史文化が継承されております。

さて、今回の質問でございますけれども、通告をいたしているとおり、大川市第6次総合計画後期基本計画と第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略ほか、関連した事項についてお尋ねをいたします。

第6次総合計画は、2020年から2029年の10年間で1期となっております。第1次総合計画は、思うに、1970年に策定されたのではないかと推測をいたすところです。その後、総合計画は、その年代に合った施策内容で策定されてきたものと考えております。

そこで、この総合基本計画が策定された基本的な考え方、また、その趣旨、必要性や重要性を含めたところで、総合基本計画とは何なのかをお尋ねしたいと思います。

また、まち・ひと・しごと創生総合戦略についても同様の内容でお尋ねをいたします。

壇上での発言は以上とさせていただきます。あとは必要に応じ、質問席にて詳細な質問や関連した質問をさせていただきますので、どうぞよろしくお尋ねをいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

皆さんおはようございます。先ほどの馬淵議員の御質問にお答えしたいと思います。

大川市総合計画は、本市の総合的なまちづくりの推進に寄与し、透明性の高い市政運営と市民生活の向上に資することを目的とし、市民と行政と一体となったまちづくりに取り組むための道しるべとしてあります。

この総合計画は、本市の最上位計画であり、初回の計画から数えて6回目の総合計画として、2020年から2029年度までの10年間を計画期間とし、10年間の基本構想と5年間の基本計画で構成されています。

現在、基本構想において「【人】【創造・共生・共創】～ずっと大川 ずーっと大川～」をまちづくりのビジョンとして掲げ、来年度2025年度から5年間の後期基本計画の策定中であり、策定方針としては、大川市総合計画条例に基づき、大川市総合計画審議会に諮問し、計5回開催された審議会の中で御議論をいただき、2月27日に審議会から答申を受けております。

今後は頂いた答申を基に、2025年から5年間の第6次総合計画後期基本計画を策定してまいります。

また、大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、2014年にまち・ひと・しごと創生法の制定、国によるまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を踏まえ、大川市においても、大川市まち・ひと・しごと創生有識者会議からの提言やパブリックコメントを参考とし、人口減少の抑制や、それから、地域の活性化などを目的とする大川市人口ビジョン及び大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略を2015年度に策定いたしました。

そして、第1期総合戦略の取組を強化する形で、大川市総合計画の中から重点的な取組として、産業振興と安定した雇用の創出、それから、結婚から子育てまでの切れ目のない支援、それから、大川市への新しい人の流れの創出、それから、時代に合った地域づくりと地域間連携を大川市の実情に合わせた4つの基本目標として、2020年度より第2期大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に取り組み、現在、総合計画と併せて第3期大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定中でございます。

以上、答弁漏れなどがございましたら、自席よりお答えいたします。よろしく願いいた

します。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

市長、適切な御答弁ありがとうございました。

今回、2025年度から後期、第6次の総合計画案ということで、長期にわたり、5回ということでもございましたけれども、今年2月まで審議をしていただきました松本博会長をはじめ、19名の審議委員の皆様方に改めてお礼を申し上げます。

私も昨年12月20日、今年2月21日の2回、審議会を傍聴させていただきました。会議の中で審議をされた貴重な御意見や市民の皆様の意見、パブリックコメントを経て最終の決定をされたと同いました。私もパブリックコメントを提出させていただきました、去る2月27日に市長に答申をされた旨伺いました。

今後、この後期基本計画を基本に、2025年から2029年の間、5年間運用されていくということでもございます。最高決定ということも市長は申されました。最近の社会情勢の変化に対応して策定したと文書の中にもあり、今後の運用を期待するところであります。

まず最初の質問でございますけれども、第6次総合計画、前期から後期に変わります。特別に注目すべき施策とか事業がありましたらお願いをいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵議員の質問にお答えいたします。

総合計画において前期から後期にかけて大きく変更したところは、御承知のように「大川の駅」事業に関することが削除されたことです。そして、大川Rebuilding（リビルディング）事業、DX推進を新たに加え、産業活性化をこれまで以上に強化する一方、まちづくりにデジタル技術を積極的に取り入れ、また、行政業務の効率化を推進するとともに、市民に優しい安全・安心な市民サービスを提供することを目指す内容となっております。

また、家庭や個人の抱える複雑化、複合化した課題に対する支援機関の連携強化を図る重層的な支援体制の整備や、誰もが参加できる居場所としてのおおかわみらい食堂プロジェクト等の地域づくり事業の推進、それから、大川市ワンヘルス推進宣言に基づくワンヘルスの

推進の項目を新たに加えているところでございます。

そして、総合戦略において、2期から3期にかけて特に留意した点というのは、御承知のように、人口減少の抑制を図る施策とともに、人口減社会に備える施策も重視したところで

す。

そして、移住・定住施策として、地域で働く若年者の定着を図るため、企業と共同でデジタル人材の育成等を進める内容としております。

なお、3期戦略を実効性のあるものとするため、雇用創出において企業誘致件数を成果指標として明示して、観光においては観光入込客数ですかね、観光客数ですね——に加え、観光消費額や、それから、外国人宿泊者数を成果指標にプラスするなど、事業成果を適切かつ多面的に検証していくための工夫を行っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

詳しい御答弁ありがとうございます。

いろいろお話しをいただきまして、私もこの新しい総合基本計画の案を頂きまして勉強させていただいております。

その中で、新しい事業ということでいろいろと申されましたけれども、Rebuilding（リビルディング）事業とワンヘルスのことが大きいことかなというふうに取り取りました。その他、大川市民の生活のために、安全のために頑張ってくださいということをお伺いいたしております。

大川Rebuilding（リビルディング）事業に関しては、前回、宮崎稔子議員が質問をされました。

その中で、今回、県のほうで推進しているワンヘルスの推進ということをおっしゃられましたので、ワンヘルスの取組についてお伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

私のほうからお答えいたします。

ワンヘルスの推進につきましては、福岡県が推進しておりますワンヘルスの7つの柱がございます。それを基に、本市でも令和4年10月に大川市ワンヘルス推進宣言を行っております。

その中で、7つの柱の1つ、環境と人と動物のよりよい関係づくりにつきましては、本市といたしましても、動物との共生といたしまして、老人福祉施設や児童福祉施設などでのドッグセラピー体験会等を実施しております。それ以外に、狂犬病予防接種の周知や、マダニへの注意喚起等を周知しているところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。県のほうが、知事のほうが積極的に推進をされておりますので、大川市もそれにのっとって推進されていくことだと思いますので、よろしく願いいたします。

それから、この事業の中で、後期の中で、「大川の駅」の整備推進事業が削除されました。そのことは私、非常に残念に思っておりますけれども、跡地の利用について様々なところ、時々において話題が上がります。現在、市長はその跡地のことについてどのようにお考えかを伺いたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

「大川の駅」整備予定跡地、予定地のことなんですけど、馬淵議員の御質問に対してお答えします。

跡地利用については、関係機関と協議を行いながら、また、議員の皆様をはじめ、様々な方からのお知恵をいただきながら、何ができるのか、引き続き鋭意検討してまいりたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。跡地利用については、今後また有効な利用方法を考えていただきたいと思います。

それにつきまして、そこに県のほうでアクセス道路を計画して行ってもらうようになっております。アクセス道路は私、絶対必要だと思いますので、その配慮のほうは市のほうでよろしくお願いをしたいと思います。

それでは、次のほうに移ります。

「大川の駅」というのを削除されましたけれども、今回、その項目の中に環有明海地域の連携と活性化という項目が、前期以上に今回の後期のほうが多くなっているように見受けま

す。そこで、お尋ねいたしますが、広域的産業、観光振興の連携強化に取り組む基本的な考えをお伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

私のほうから2点お答えしたいと思います。

まず、有明海沿岸地域の振興会議についてお答えいたします。

有明海沿岸地域を中心とする自治体との連携をさらに密にしながら、地域全体の魅力を高め、定住・交流・関係人口を増やし、その豊富な人材によって地域の様々な産業が成長し、地域全体が持続的に発展する好循環につなげることを目的といたしまして、令和6年8月2日に有明海沿岸地域振興会が設立されております。

令和7年度におきましては、有明海沿岸地域の持続的な発展に向けた調査研究や要望活動を実施することで、広域連携による地域活性化を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、九州佐賀国際空港活性化推進協議会について申し上げます。

九州佐賀国際空港の利用促進や、佐賀・筑後エリアの経済浮揚及び地域活性化を目的に、行政、経済団体、観光事業者、地元企業等で構成されておまして、利用促進に向け、国内外でのプロモーション事業や、リムジンタクシー運行事業、レンタカーキャンペーン事業など取り組んでいるほか、航空会社への増便・新規路線開設の要望、また、国に対して滑走路延長の要望なども行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

永島インテリア課長。

○インテリア課長（永島潤一）

次に、私のほうからは環有明海観光連合についてお答えをさせていただきます。

当連合は、福岡、佐賀、長崎、熊本の4県にわたる九州最大の海、有明海の価値の共有化と最大化を図り、観光誘客や地域産品の販路拡大、有明海の環境保全を目的として、令和4年6月に設立され、現在、沿岸地域の17の観光協会が加盟いたしております。

令和5年5月に佐賀県鹿島市で開催された総会では鹿島宣言を採択いたしまして、県境を越えた80万人都市圏としての一体的な取組により、有明海沿岸道路や佐賀空港などの交通ネットワークを活用した広域連携が進められております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

詳しい説明ありがとうございました。

有明海沿岸地域振興会議、去年8月、これは参加自治体が福岡、佐賀、長崎、熊本を入れて26市町村と伺っております。かなり多くの都市が有明海沿岸地域振興会議に名を連ねられております。

それから、観光連合は17と。調べたところ16だったんですけれども、多分、白石がごく最近発表されたということのを伺いましたので、17の観光協会というふうに理解をさせていただきました。

それで、1つ、ここに県の決算特別委員会のほうから報告書が上がっているのをちょっと朗読させていただきたいと思います。

地域振興について、決算特別委員会のほうで、「有明地域や大川市など県境の地域振興について質され、執行部から、有明地域については、豊築地域とともに、地域の特性を踏まえて、産業の振興をはじめとした振興策を盛り込んだ「県境地域振興ビジョン」を策定することとしている。また、大川市のような他の県境地域については、創意工夫をした地方創生の取り組みを進めている市町村を後押ししながら、県境地域全体の浮揚を図る」との答弁が

あっております。

今、県の決算委員会の報告を読み上げまして、市長はこの県境のほうを地域全体の浮揚と
するということに関しまして、御意見がありましたらお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

何と質問がなかったのでちょっと、県境の——もう一度おっしゃっていただけませんか。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

簡単に言うと、県境、豊築地区は大分県と福岡県、それから、有明海地区は大牟田と荒尾、
それから、大川と佐賀と、そういうふうな地域全体の浮揚を図ることを答弁があっております。
浮揚を図っていこうという答弁があっております。

この浮揚を図る、県境の浮揚を図るということに対しまして、私は残念ですがけれども、
「大川の駅」がなくなった、佐賀県との境の駅がなくなったということを残念に思っており
ますので、そういうところを含めたところで、県境の振興をどのように考えておられるかど
うことをお伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵委員、前もってそのことを言うていただくときちんと調べてお答えできたんですけど、
これは今この場で私が考えることを簡単にお伝えしたいと思います。

沿岸道路の地域の市町村の首長さんとは、本当によく会います。佐賀市長も含めて、挨拶
にも行ったし、佐賀市長とは空港で2回ほどお会いしました。それから、荒尾市長とはまだ
会っていないんですけど、大牟田市長、関市長とか柳川の金子市長とかも様々な方にしょっ
ちゅう会っています。

それで、この沿岸道路ができて、ずっと延伸して行って、天草のほうから今度長崎のほう
まで通じるようになるというようなことを聞いています。それは恐らく50年ぐらいかかるん
じゃないかなという話も聞いています。だから、すごい長いスパンでの開発事業で、これは

じっくり各首長さんとも話し合いしながら、どうすれば最少のコストでできるのかというようなことも含めて浮揚策を練っていききたいと、今後ゆっくり練っていききたいというふうに思っています。拙速なことは避けたいと。この沿岸道路建設があつて物すごい長い期間かかっているんですよね。今後、目的を達成するために、あと50年ぐらいは要るだろうというふうに聞いています。

ですから、馬淵議員、ほかの議員さんたちの御意見をお伺いしながら、様々な有効策を練っていききたいというふうに思っています。どうぞいろんな御意見を拝聴したいと思っていますから、どうぞよろしくお願ひしたいと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございました。その広域的産業、観光振興の連携強化、これは大川市だけではなく、今言われましたように有明海沿岸全域に関係をしてくるので、かなり重要な課題になってくると思います。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

12月議会の一般質問、私、12月に一般質問をさせていただきましたけれども、2つの事柄についてお尋ねをしたいと思ひます。

まず、12月議会で佐賀空港のインバウンド集客についてお尋ねをいたしました。市長はそのときよく御存じではありませんでしたので、私が簡単に説明して、誘致活動をしていくということを後で話をしましょうということと一緒に話ししました。

その後、滑走路延長、500メートル延長、完成時期、その当時は市長は御存じなかったんですけれども、確認はされましたでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

確認しました。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

確認をされたということであるので、安心をいたしております。また今後お話をしていきたいと思っておりますけれども、昨年11月、佐賀県知事のほうからこういうコメントが発表されました。

陸上自衛隊の輸送機オスプレイを佐賀空港に配備する計画などをめぐり、2024年、昨年11月13日、防衛省で中谷防衛大臣と面会。滑走路を現行の2,000メートルから2,500メートルに延長して供用すること、それから、平行誘導路の整備に取り組むということを防衛省のほうから――すみません。平行誘導路の整備に対しても、財政的な負担に防衛省が応じるというふうなことを発表され、滑走路延長計画の実現に向けて協力することを確認したので、ここに発表すると。そして、さらに具体的に話が進んでいくと山口知事が述べました。

これは参考ですけれども、佐賀空港の国際線は平成23年12月から上海線が始まり、平成30年、コロナ前ですね、そのときは5路線、乗客数が22万9,895人でした。平成30年です。その後、コロナになり、減り、それから、佐賀空港に来られた方が今年1月までで累計で110万人を超えているということでございます。

佐賀県のほうに伺いましたら、今後、延長に向けて、国際線は東南アジア路線のほうの拡大をしていきたいというふうに空港関係者が述べられました。

それで、これから佐賀空港の客数が増えていくと思いますので、そのインバウンド集客に対する取組というのを伺いたしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵議員、インバウンドに対する取組ですか。（「はい、そうです」と呼ぶ者あり）それは大川市へのインバウンドという意味ですか。（「大川市の取組をお聞きしたいと思います」と呼ぶ者あり）

これは柳川までは結構アジア人の方が多いと聞いています。恐らくかなり今来られているような感じなんですよ。ですから、今後やっぱり大川のほうまで足を運んでもらうためには、一番近い柳川市と何か連携する方法とかを考えていかなければいけないんじゃないかなと。恐らく年間百数十万人も今来られているんじゃないかなとお聞きしています。かなり日本人以外も来られているということで、よかったら古賀政男記念館まで運んでもらうとかで

すね。古賀政男記念館の和式のトイレについては、全面的に来年度の予算で改修するという
ことでしていますから、そういう方面でもインバウンドの人に対して優しい大川市をアピー
ルしたいというふうに、もう全面的に改装するようにしております。

ほかはいいんですか。あと、佐賀空港でしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）佐賀空港に
来られる方がどの程度今インバウンドの人数が来られているかというのは、今のところまだ私
自身把握をしていないんですよ。どの程度来られるかということについても今後把握しな
がら、大川市に運んでもらうためには、やっぱり柳川市と同じような格好でアピールをして
もらう必要があるのかなということは一応考えています。今後の推移を見ながら検討してい
きたいと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございました。インバウンド客は年々増えてくることは間違いないと思いま
すし、今ちょっと私が考えるように、大川市は多言語化があまりされていないのではないかと。
それから、やはり英語や中国語、韓国語、多言語化で表示をすとか、SNSの投稿をする
とか、口コミですね、口コミがかなり有効であるので、それをターゲットに絞り込んでい
とかいうふうな集客方法があるように伺っております。

これからは、今後一緒にお話をしながら、インバウンド客の集客に取り組んでいかれるよ
うに、私たちも応援しますので、よろしく願いをいたします。

それからあと一つ、陸上自衛隊佐賀駐屯地についてのお話もいたしました。市への産業、
観光の誘致などを前回お尋ねいたしましたけれども、今年7月、佐賀駐屯地はおおむね完成
をするということでございます。そうすれば、オスプレイ17機ですね、木更津駐屯地から来
ます。それから、目達原駐屯地のヘリコプター50機も来ます。配備隊員は700人から800人と
伺っております。こういう方の産業、観光への誘致などの取組についてもお伺いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

本当にかなりですね、オスプレイが来て、自衛隊の方も、それから御家族の方も来られる

ということを知っています。まだどこに家族が住まわれるかとか、その場所なんかもまだちょっと明らかになっていないので、そういうような情報を基にしながら、その人たちに対する広告宣伝、アピールとかですね、馬淵議員が言われるようなそういう口コミ、いろんな様々な形でアピールはしていきたいなと思っています。ぜひ馬淵議員も協力していただいて、情報交換を密にしながら対応策を決めていきたいと思っています。ぜひ御協力をお願いしたいと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。福岡県の入り口は大川でございます。柳川の話がされましたけれども、まず大川を通過して柳川のほうに行かれるというふうに思いますので、大川は福岡県の入り口、佐賀空港に一番近い、生活圏も近いということでございますので、ぜひ誘致、集客等に取り組んでいただきますように、当局のほうにもよろしく願いをいたします。

それでは、次の質問にさせていただきます。

通告でも申し上げておりましたけれども、行政改革推進委員会と第三者委員会についてでございます。

市長が考えておられました諮問委員会と12月からお話をされております。議会の承認が得られないのではないかということで、2月10日、全員協議会で行政改革推進委員会というのに移したということをご私の質問に対して答えられました。

先日の各社新聞等報道されて御存じだと思いますけれども、市長は28日に委員の委嘱を終わられたとのことでございます。新聞等に名前も載っております。昨年12月当時から、その当時にももう委員は決めていたと市長はおっしゃっておられました。そのときの委員と今回の委員というのは同一の方でしょうか、お聞きをしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

これは「大川の駅」というのを一応廃止したと、完全に廃止したということで、そのときの公約として、どうしてこういう「大川の駅」が始まったのかは、やっぱり市民の皆様へに廃

止した根拠とか、どうしてこんなふうになってしまったかは説明する義務があるんですよね。これはもう絶対しなきゃいけない。何でこんなことが市民に説明する機会もないまま進んできたのかというのは本当に私自身も不思議でありまして、これをやっぱりきちっと説明していかないと、こういうことがまた起こるかもしれない。ですから、これは私の公約であります。

それで、一応、どういう方がいいだろうかということで、やっぱり有識者会議はすごく地方自治に詳しい人、金融方面に詳しい人、財務に詳しい人、それから、情報公開とか様々な情報公開に詳しい人、そういうのを含めて検討した結果、この前発表された人員になったわけでございます。

今後とも、ああ、こういう人が必要だなというのは、今後とも、あと1人か2人ぐらいはひょっとしたら追加をするかもしれません。そのときにはきちっと報告はしようと思っています。本当にこの諮問会議は重要な会議ですから、ぜひ皆さん協力をしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございました。12月頃からもう決めておられましたということは間違いのないことですね。12月に、そのときに委員は決めているというふうにおっしゃっておられましたので、その委員さんが今回も名前を連ねているというふうに理解してよろしいですか。——はい。ありがとうございます。

市長は以前から、公約に対してきちっと応えなきゃいけないので委員会を発足するということございまして、この委員が今回6人出ております。私は、市長が言われました詳しい方、市長のOBとかもおられます。あくまで公平、中立な方というふうに理解しておりますが、よろしいでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

本当に大川市のことを思って、そして、大川市をよくしたいという、非常に公正で中立な

方です。本当に私がすごく信頼しているし、その識見というのは本当に誰にも負けないような識見を持っておられるし、大川にとって、この諮問会議の最適な人だというふうに思っています。

ただ、馬淵議員、今後とも、あと1人か2人は追加する可能性はあります。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

中立、公平ということを伺いました。

ここに私は一つのコメントをいただきました。ちょっと読み上げさせていただきます。

倉重陣営には連日、代議士たちが応援演説。危機感が相当強いことの表れでしょう。利権にまみれたやからが何を語っているのか。この選挙は、長年にわたってこの国、地域を疲弊させてきた利権政治との戦いでもある。草の根の力を結集し、腐り切った深く大きなうみを出し切りましょう。こういうコメントをいただいております。今回委嘱された委員の中の一人でございます。これをもってあくまで中立と言われるのか、コメントをお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵議員、それは私知りませんが、しかし、あくまでも言うておきます。本当に大川の将来を考えて、すごく心配しながら、そういう人たちですから、私は本当に安心して任せられると、それは確信をしております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

市長が確信をされているなら私はあまり深くは申しませんが、こういう事実があるということだけは認識をしていただきたいと思います。

次に移ります。

今回、行政改革推進委員会ですか、それが立ち上げられました。主に行政の効率化や市民

への市政サービス、そのための向上推進とかを議論する委員会であるというふうに私は認識しております。

「大川の駅」を対象とした諮問や検証を望むのであれば、今議会中に私たちが追加議案として提案を考えています第三者委員会がふさわしいのではないかと私は思います。

市長の意見は後でお伺いしますが、先日、市内の友達から私に電話がありました。市長にちゃんと伝えてほしいということを約束いたしましたので、発言をさせていただきます。

行政改革推進委員会とは、今から先の行政の仕組みや事業を考えて話し合うための委員会でしょうと、そういう、友達に言わせるとあげんち言いますけれども、年配者ばかり選ばなくても、30代、40代、50代、若い人たちの委員を選んで、どんどん意見を聞いて、いいことは取り入れていくと、それが市民のための委員会じゃなかつかというふうな電話がありました。そしてまた、それを実行するのがおまえ——私ですね、市議会議員や市長の仕事じゃないんですかと、そういう電話を受けました。

一部ちょっと不適切な発言がありましたことで、そのことはおわびいたしますけれども、その友達の意見を聞いて、市長はどのように思われますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵議員、馬淵議員が言われる前に、あと1人か2人かと言った中には、若い人も含めて、今いろいろ考えているんですよ。

それで、馬淵議員が言われましたように、やっぱり年配者が多いなという気もして、若い人を今選定中のございまして、誰がいいかということも含めて、1人か2人ぐらいはというふうには思っています。ただ、まだ発表する段階ではないということです。取りあえず今のところ6人に委嘱したということで、今後少し増えていく可能性もあるということを申し添えておきます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

私、先ほども申しましたけれども、あくまで行政改革推進というのは、新しい行政をつくっていくための会議ではないかと思っております。行政改革推進委員の中には、市長経験

者の方が2人おられます。私はそのお二人とも勉強会に参加をさせていただいておりました。以前ですね。今は勉強会は抜けておりますけれども、2人はよく知っているつもりでございます。

本来、市長OB、その方たちは、行政改革推進委員会がいかなるものか、十分に理解されていることと思います。今後、行政改革の推進に取り組んでいかれまして、その市長OBたちを含めまして、皆様方に大川市の今後の推進、行政推進に御尽力をいただきますように重ねてお願いをいたします。

それでは、次の質問に移ります。（「終わりですか、答えなくていいですか」と呼ぶ者あり）一言、よかったらお答えをいただきたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵議員、ありがとうございます。ぜひ協力していきます。

しかし、諮問会議というのは、これからのことをするためには過去の検証が要るんですよ。過去の検証のないまま先のことしたら間違えます。だから、過去の検証をしながら、今後、将来どうすべきかというのが行財政改革の趣旨なんですよ。それだけはぜひ分かっていたきたいと思っています。

それと、2人経験者がおられると言われた。私は本当に、大川市出身の元市長さんは、本を読みました、本を。出されているんですよ。それで、もう本当にすごい本だなと、すごい戦いをされたということで、わあ、この人が大川のためになってくれればなということが一つの大きな経緯でもございました。

馬淵議員、いろいろ勉強されているみたいですから、ぜひいろいろまた教えていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。市長は私を褒めていただきましてありがとうございます。私はごく普通の一般人でございます。自分で言うのもなんですけれども、頭もあまり優れたほうではございません。自分なりの努力は、やはり議員になった以上、それだけの努力をして勉強

していくと。それは私の務め、私を選んでいただいた皆様に対しての御礼だと思っておりますので、きちっとお話をさせていただきます。

前日も申しましたけれども、市長は大川市のトップでございます。あくまで市長がされることは大川市全員の全体がされたというふうになされますので、市長の今後の活躍はまた期待をしているところでございます。

それでは、次の質問に移ります。

市長の国、県への、官公庁への訪問についてお伺いをしたいと思います。

市長は就任以来、忙しい毎日をご過ごしているということをいつもおっしゃいます。改めて、お忙しいことに対してはお察しをいたします。

市長の仕事の中に、国や県の官公庁に出向き、各種の要望などを行う要望活動、これは自治体の長としての重要な仕事です。その活動範囲、行動力、よく手腕という形で表現をされますけれども、それらを含めて総合的な判断によって補助金等の交付が左右されると聞き及んでおります。

そこで、お尋ねですが、市長は就任されて以来、現在までに国、県への、官公庁への訪問の実績をお伺いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

馬淵議員、ありがとうございます。いろいろ御指摘ありがとうございます。

本当に、御承知のように、副市長も決まらず、教育長も決まらず、本当に1人で孤軍奮闘しております。なかなか本当に忙しい毎日を送っております。

それで、馬淵議員から質問がありました。県とか国への要望活動についての実績をまとめていますから報告したいと思っております。

国や県には何度も運び、今後の大川市の支援をお願いしたいとのことだがということの質問なんですけど、昨年、令和6年10月23日に私、市長に就任いたしました。そして、11月に、その翌月ですね、2回上京しました。そして、要望活動に参加いたしました。それは参加の風景を皆さんに一度説明したかと思うんですけど、大変大歓迎を受けたということですね。

それと、1回目は有明海沿岸道路建設促進福岡県期成会や九州国道協会の要望活動でございます。そして、2回目は全国道路利用者会議、それから、道路整備促進期成同盟会の要望

活動でございまして、国土交通省や地元選出国會議員への要望を行いました。

そして、今年になって令和7年1月には、大川市の特交というらしいんですけどね、特攻隊の特攻じゃなくて、特別交付税要望で上京いたしました。その中で、総務省へ要望を行っております。たまたまこのときには予算委員会が開かれていまして、その議場もちょっと見学をさせていただきました。

それから、2月には、福岡県へ大牟田川副線バイパス建設促進期成会などの要望行動や、それから、大川市内の県事業に対するお礼や、引き続きの事業推進などのお伺いに伺っております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。国のほうへ3回、県のほうへ1回というふうに取り扱います。それでよろしいですね。はい。

それでは、ここに、2月16日、江藤市長が報告会をされました。この中に、国や県にも何度も足を運び、今後の大川の支援をお願いするとともに、温かいお声がけをいただいて、私には大変心強いものと思いましたが書いてあります。

国や県に何度もという、国には3度行かれたということですが、県には1度しか行かれていないと。ここには何度も書いてあります。これは訂正すべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

要するに、県といっても、地元選出の県議會議員、秋田先生がおられますが、秋田先生の事務所には3回ぐらいお伺いしております。私が言ったのは、県の出先機関ですかね、それを1回というふうにしたわけでございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

質問の冒頭に、国や県への要望活動というふうに私は伺いました。だから、県の機関への個人的なことではなくて、県の機関、国土交通省とか、そういうところに行かれたのは今さっき言われました1回ということでしょう。個人的なことは別にして。

だから、県にも何度も足を運びと書いてあるのは、これは間違いではないかということをお聞きしたいわけです。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それは捉えようじゃないですか。だって、秋田先生は県の出先機関の一部としても考えられるんじゃないですか。そすと、それ以外に、県の藏内先生のところにも報告方行きましたよ。そして、いろんなことですね、それは言っていないけど。秋田先生のところは県等の要望じゃない、私はそういうふうに捉えたんですけど、馬淵議員の発言に対しては県の事務所だけ言っています。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

考えの違いかもしれませんが、ここにちゃんと、県や国の要望には何度も足を運んだと。訂正しろとは言いませんけれども、ちゃんとこういうことを書かれる以上は確認をして書いていただきたいと。何度もということをですね、その何度もは受け取り方が市長は違うように言われましたけれども、私は、県庁のほうにきちっと行かれて、先ほど言われました大牟田川副線のバイパスの要望とか跡地の利用とかをお願いしたということは1回だということをお伺いしますので、私は県のほうへの公務としての出張は1回だけではないかということをお伺いしたかったわけです。

時間が迫っておりますので、次の質問に移ります。

市長は、先ほど申されました——ちょっと失礼します。

この質問の冒頭にも申しましたけれども、市長が国や県への要望活動は重要な仕事の一部です。市長はお分かりだと思います。その成果で、市の財政運営が少なからず影響を与えると。これは必然たる事実じゃないかと思えます。ただ顔見せだけ、知っているから伺うとか、

そういうことだけでは何の意味もありません。まず、国、県から信頼を得ることです。信頼なくして成長はないと私は思っております。今後、市長の健闘をお祈りいたします。

それから、もう時間が参っております。最後にちょっと3分間だけお話をさせていただきたいと思っております。

後ろに市民の方が来ておられます。ここに「財界九州」という月刊誌がございます。これは御存じないかと思っておりますので、一言、市長はこの「財界九州」については御存じですか。

(「知っていますよ」と呼ぶ者あり) 分かりました。

ちょっと紹介させていただきます。

2月号に、大川市に関する記事がニュースとして掲載されました。この内容は、有明海沿岸自治体が連携して経済の浮揚を目指す環有明地域から江藤市長に苦言を呈されている記事でございました。

「大川の駅」事業に反対して当選された江藤市長と支援者の皆さんは、倉重市長も近隣市町村と一緒に進めてきた環有明地域全体を連携しながら浮揚、振興していこうという、その施策からはしごを外されたとは私は認識いたします。ですから、そういう記事になることは仕方がないのではないかと思います。このままでは大川市は深みにはまってしまうのではないかと、孤立して取り残されてしまうのではないかという危機感を私は持っております。市長の考えは分かりませんが、市長ははしごを外したまま、そのままでいいのでしょうか。

第6次総合計画、今回、前日答申がありました。この後期計画ですね。その中に、重要な施策として広域的産業、観光振興の連帯強化、何回も書いてあります。そういうことは、これはトップである市長の施策でございます。だから、この連帯強化、これを基本として、早くはしごをかけ直していただきたいというふうに私は思います。

以上で今回の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。(「議長」と呼ぶ者あり)

○議長(遠藤博昭)

いいです、もう時間ですから。

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は10時15分としますので、よろしく申し上げます。

午前10時6分 休憩

午前10時15分 再開

○議長（遠藤博昭）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、6番宮崎稔子議員。

○6番（宮崎稔子）（登壇）

皆様おはようございます。6番、公明党、宮崎稔子です。通告に従いまして質問に入らせていただきます。

熊本から長崎を結ぶ有明海沿岸道路も大川を通り、東アジアの窓口となる佐賀空港にも15分ほどと近い大川市には、現在、インバウンドの影響もあり、多くの方に来訪いただいておりますが、今後、沿岸道路の全面開通、また、佐賀空港滑走路の延伸など、より大川市を訪れていただく方々はさらなる増加が見込まれます。

歴史的文化遺産や建造物が数多く残り、国や県、市などに指定重要文化財として認定された多くの建物や、また、音楽、芸術におけるまで様々な分野に御興味をお持ちの多くの方に喜んでいただける、御満足いただける、来てよかった、また来たい、そう思っていただけ観光の箇所が我が市にはたくさんあります。

大川市に来ていただくお客様に対し、迎える側の心遣いはとても大切ではないでしょうか。お客様が何を求め、どうすれば喜んでいただけるか。そのことを常に考えながら、お迎えをするおもてなしの心遣いにもより一層の準備が必要ではないかと思っております。

先ほども述べましたが、インバウンドのお客様も増えていますので、相手の文化や立場にも気を配らなければいけないこともあるでしょう。

今回の一般質問では、大川に来ていただくお客様を迎えるおもてなしの心遣いについて質問をさせていただきます。

まずは壇上より、大川市を御訪問されたお客様に市のことをより知っていただくため、市内のどこに御案内をされているのでしょうか。また、市のシンボルといえどどこだと思われるのでしょうか。この2点について質問させていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

宮崎議員の御質問にお答えいたします。

まず、大川市のシンボルといえば、九州一の大河である筑後川にかかる昇開橋が浮かびま

す。国鉄佐賀線の鉄道橋として、昭和10年に架設され、国鉄佐賀線廃止後は平成8年より遊歩道としてリニューアルされました。橋の上を歩いていただいたり、橋桁が昇降する様子を間近で見ていただく等、多くの観光客の皆様はその雄大な姿を親しんでいただいております。

さらに、日没後から22時までは橋全体がライトアップされ、その美しい景観はまさしく大川のシンボルと呼ぶにふさわしい観光資源であります。国の重要文化財でもあり、今後も末永く保存活用を計画的に行ってまいりたいと思っております。

次に、訪問されたお客様を御案内する場所ですが、御意向や季節等を考慮して、おもてなしに欠かせない食や市内に点在する観光スポットの周遊を御提案したいと思います。

まず、食についてなんですけど、初夏であれば、皆さん御承知のように、エツ料理を御提案し、市内に数多く点在するすし店や、それから、タレ付け唐揚げなど、本市ならではの食を御堪能いただきたいというふうに思っております。

観光スポットにつきましては、テーマに沿った周遊コースを御提案したいと思います。歴史的建造物に御興味があれば、筑後川昇開橋と同じく国の重要文化財である風浪宮の本殿や五重塔、そして、時間帯によってミストが噴射する白鷺の大楠、それから、桜の名所でもある大川公園を御案内したいというふうに思っております。

また、筑後川昇開橋近辺に御興味があれば、有明海まで続く全長約6キロメートルのデ・レーケ導流堤の見学、それから、同じく若津地区には、数学の神様である有馬頼僮を祭っている若津神社がございます。

芸術や音楽に興味があれば、清力美術館や古賀政男記念館を御案内したいというふうに思っております。

また、江戸時代の町並みや質の高い伝統的建造物が数多く残されている小保・榎津藩境のまちは、今も職人の技に触れることができ、木工のまち大川を体感できるエリアでもございます。ぜひお連れしたいというふうに思っております。

いずれにせよ、観光スポットを周遊し、少しでも長く滞在していただき、本市の魅力をお楽しみいただきたいというふうに思っております。

壇上からは以上でございます。答弁漏れ等がございましたら、自席からお答えいたします。よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。今お話しいただいたように、大川市はその方々の意向に応じて対応できる様々な観光箇所があるなということを改めて感じましたけれども、市民の皆様から御意見をいただいている箇所について今日は質問させていただきたいと思います。

本当に、食についてはエツとかいろいろありましたし、また、スポットにおいてもテーマごとに、風浪宮もありますし、デ・レーケ導流堤のお話がありましたけれども、市民の方からお話があるのが、九州でも特に重要な民家として国の指定重要文化財に指定されております旧吉原家がありますけれども、ここも最近やはり外国の方の御訪問が多くあるようで、歴史的建造物として細やかな点まで工夫された日本の技術のすばらしさにとても喜んでいただいている様子を、私も旧吉原家のフェイスブック等で拝見をさせていただいておりますけれども、こちらも本当に御案内いただく箇所にはとてもすばらしい場所ではないかと思えますけど、この旧吉原家を訪れる現在のインバウンドの状況はどのようになっているか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

森生涯学習課長。

○生涯学習課長（森 悟）

現在の旧吉原家住宅を訪問されるインバウンドの状況についてお答えをいたします。

海外から旧吉原家住宅を訪れた人数につきまして令和4年度から3年間、国別にお答えをさせていただきます。

令和4年度はミャンマーから3名、中国と台湾からそれぞれ2名、韓国とイスラエルからそれぞれ1名で、合計5か国、9名の方がお見えになられております。令和5年度では、国別では、アメリカから8名、韓国と台湾からそれぞれ6名、中国から3名、香港、オーストラリア、マレーシア、イギリス、フランスからそれぞれ2名、あと、スウェーデンから1名ということで、合計では10か国、34名の方が訪れておりまして、前年度より増加をしております。令和6年度は、先月2月までの状況になりますが、国別では、アメリカから8名、韓国から6名、中国、シンガポールからそれぞれ4名、ベトナム、スイスからそれぞれ2名、スペインから1名で、合計7か国、27名の方が訪れていただいております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。本当に様々な国からの御訪問があつているなということを感じます。本当にありがとうございます。

私も何度も旧吉原家を訪れて、あそこの藩境のまちも一緒にボランティアの方に御説明をいただきながら拝見をしたことがあるんですけども、本当に細部にわたるまで、本当に詳しいお話に心から感心と感動で、毎回のごとく、ここでおもてなしの心を学ばせていただいております。本当にありがたい思いです。

市長は旧吉原家をいつ御訪問されましたでしょうか。そしてまた、今私がお話ししたようなボランティアの方に御説明を受けながらお話を聞かれたことがありましたら、そのときの御感想などありましたら教えていただけますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎議員、ありがとうございます。私は6回か7回ぐらい訪れていると思います。あの旧吉原家の柱、桁ですね、こんなでっかいですね、そして、こんな厚いんですね、ああいうのとか、私はもともと材木屋やったもんですからあれに興味があつて、もうすごいなと思いました。あれは本当に、古民家風の住宅で、日本の伝統工芸を作つた、本当に最高傑作じゃないかなというふうに思っています。すごいなと思っています。本当に友人とか案内すると、もうびっくりします。あれを皆さんに知ってもらうために、やっぱり様々な働きかけをする必要があるんじゃないかなという気がしています。本当、私もまた近々行こうかなと思っています。本当にすばらしい建造物です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

先ほども質問しました、本当に何度も行っていただいているというお話ですけども、市民の方がボランティアでされてあるお話をお聞きされながら回られたことはありますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

あの頃、ボランティアかどうかよく分からない、その人がボランティアかどうかを知らない。ただ、女性の方からいろいろ案内されて、それは覚えております。だから、その方がボランティアだったかはちょっとよく知りません。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ということは、最近ではないということですかね。分かりました。

本当にボランティアの方のお話というのが、私は細部にまでわたるお話に本当に感動を覚えますし、そこがやっぱりインバウンドの方をお迎えするに当たりまして、全国の方を迎えるに当たりまして、やはりそういうお心遣いに触れて毎回感動したりしておりますので、市長もぜひいま一度足を運んでいただいて、お話をお聞きになって、何か感じるものがあればもっと皆さんに御紹介できるのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

今お話ししましたように、旧吉原家では多くの外国の方を受け入れる、いわゆるインバウンドに対する具体的な取組などどのようにされているのか、教えていただけますか。

○議長（遠藤博昭）

永島インテリア課長。

○インテリア課長（永島潤一）

お答えいたします。

旧吉原家住宅などを含みます小保・榎津藩境のまちにおけるインバウンドの受入れの取組につきましては、令和5年度から開始いたしました大川Rebuilding（リビルディング）事業の一つといたしまして、NPO法人小保・榎津藩境のまち保存会に対し補助金を交付いたしております。

この補助事業では、同保存会のホームページのリニューアルに合わせた英語、中国語、韓国語への多言語化のほか、モニターツアーやインフルエンサーの活用によるPR等が実施されております。

今後は、QRコードを活用した案内看板の多言語化や、市内の事業者を対象とした情報発信及びキャッシュレス決済に関する研修会が予定されておまして、引き続き利便性や快適性の向上など、インバウンド需要への対応を強化し、おもてなしの機運醸成を図ってまいり

たいと考えております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。先ほどの馬淵議員のお話の中にも、質問の中にもありましたように、やはり多言語化、これからはより一層必要ではないかと思imasuので、その点にもより一層力を入れていただきますことをよろしくお願ひ申し上げます。

本当にインバウンドだけではありませんけれども、御訪問いただく方に対するさらなる心配りとか、これからお気づきに、これから、あっ、ああいうところがあって、先ほど市長も何度も行きましたよと、昔行きましたよというお話だったかと思imasuけれども、やはり今また行かれて新たに感じるこゝ、多くの方に来ていただくためにはこれが必要だと感じるこゝとは、やはりそういうこゝが今から感じて、新しく感じている部分もあるかと思imasuので、もちろん取捨選択は必要になると思imasuけれども、そこに何ができるのか、これだったらできるのではという、そのような心配りもこれからもどうぞしていただきたいと思imasuので、その点にはやはり足を運んでいただいて、今の現状を見て、今何が必要なのかを知っていただかなければいけないのではないかと思imasu。

それでは、以前は、私の子どももそうだったんですけれども、地元の、地区の学校以外の子どもたちは、よく旧吉原家のこゝを、もう二、三十年前の子どもたちは知らないよと。藩境のまちとか旧吉原家のこゝはよく知らないと言うんですね。ただ、最近はふるさと学習としても、校区を越えて大川市全体をふるさととして学習されておりますので、市内の小・中学校からも子どもたちが歴史を学びに旧吉原家などを訪れてあるようですけれども、その状況などを教えていただけますか。

○議長（遠藤博昭）

森生涯学習課長。

○生涯学習課長（森 悟）

現在の市内の小・中学生の子どもたちが旧吉原家住宅に訪れている現状についてお答えをいたします。

令和4年度は大川小学校から訪問回数3回で61名、三又小学校が3回で48名、道海島小学

校が2回で30名、川口小学校が1回で13名の訪問があつております。合計でいいますと、4つの小学校が合計9回、152名の児童が訪れております。

令和5年度は三又小学校が訪問回数3回で57名、道海島小学校が1回で12名、川口小学校が1回で7名、大野島小学校が1回で8名の訪問があつておりまして、合計でいいますと、同じ4つの小学校が6回、合計で84名の児童が訪れております。

令和6年度は先月2月までの状況とはなりますが、大川小学校が訪問回数1回で44名、木室小学校が1回で48名、大川桐英中学校が1回で20名の訪問があつておりまして、合計でいいますと、2つの小学校と1つの中学校が3回、112名の児童・生徒が訪れております。

なお、旧吉原家住宅を訪れた児童・生徒は、授業の一環として、館内見学だけではなくて、蚊帳をつつて、その中に入ってみたり、はたきやほうきを使った掃除、洗濯板での洗濯など、昔の暮らし体験、あとは抹茶の頂き方体験などの体験をしていただいております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。本当に今たくさん子どもたちも体験を、市内のお子さまたちもしているんだと思いますけれども、ぜひよければ多くの学校のほうからも参加をしていただいて、より一層知っていただきたいなど。市内にこんなところがあるんだ、大川の歴史を間近に体感できるすばらしいこのようなところをぜひ多くの子どもたちに訪問していただいて、心に焼きつけて育っていただきたいなど思っております。

それでは、今年の冬も暖かい日が多かったとはいえ、2月に入り、やはり例年どおりの厳しい寒さとなりました。旧吉原家では、このような冬の寒い時期はどのような対策を取られていますか。

○議長（遠藤博昭）

森生涯学習課長。

○生涯学習課長（森 悟）

旧吉原家住宅の冬の寒い時期の対応についてお答えをいたします。

旧吉原家住宅には、電気ストーブを2台とホットカーペットを1枚準備しております。旧吉原家住宅は国の指定重要文化財でございますので、文化庁が定める防火対策ガイドライン

に基づいて、日常的な火気の管理、出火の防止策を講じた上で、可能な限り寒さ対策を行ってまいります。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。本当に国の重要な指定文化財となりますので、厳しい規定などがあるということだと思いますけれども、ただ、今、電気ストーブ2台とホットカーペットを1枚置いていただいているということで、あそこはすごく広いからですね。ただ、本当に今おっしゃるような厳しい規定があるかと思えますけど、私も先日お邪魔したんですけれども、とにかくやっぱり寒いときでしたので本当寒かったです。

インバウンドで先月シンガポールの方々が訪問されておりますけれども、ある程度の寒さは覚悟をされてあったと思いますけれども、想像以上の寒さに本当に驚かれて、震えてあって、今お話があったように電気ストーブの周りに集まられて、一生懸命説明をされようとするけれども、そこから動けないとかですね、あまりにも寒くて。本当に年間を通じて熱帯雨林地方の気温が温かいお国ですので、より一層寒さを感じられたことだと思います。

御説明されていたボランティアの方が、カイロがあったのでカイロを貼ってさしあげられたらとても喜ばれていたそうであります。本当にその場のとっさの判断といいますか、何とかしてあげたいという温かい心遣いに本当に頭が下がりました。

せめて、トイレだけでもというお願いではありますが、旧吉原家のトイレも重要文化財ですか。

○議長（遠藤博昭）

森生涯学習課長。

○生涯学習課長（森 悟）

旧吉原家住宅の敷地内にトイレのある建物が1棟、母屋の裏のほうにあります。こちらの建物につきましては指定文化財や登録文化財のどちらにもなっておりません。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

分かりました。ということは、旧吉原家の裏側にあるあのトイレですよ。あそこは重要文化財の建物ではないということでもありますので、ということは少しは改修も可能かということでもありますね。先日、私も御相談を受けましたのでトイレを拝見させていただきましたが、本当に旧吉原家、今私が思ったように、ここも重要文化財なのかなというように、本当に旧吉原家の建物にとってもマッチした造りの建物でありました。ただ、とはいえ、重要文化財でないのであれば、せめて中の洋式トイレの便座だけでも温かくしていただけないかなというお声なんです。

先ほどのシンガポールの方々も本当に寒い旧吉原家を見学して、寒い寒いと言いながら、また裏のトイレに行かれたら便座がさらに冷たくて、もう冷やっとなって悲鳴を上げておられたということで、せめてトイレだけでも便座を温かくして、ほっとくつろいでほしいと言われていています。これは当然の御意見ではないかと思いました。

また、先ほどの御説明のように、子どもたちの訪問も今増えているということでもありますけれども、私も拝見して、男子トイレには洋式トイレが全くありませんでした。洋式でないといけないお子様もおられるということで、多目的トイレが隣にありまして、そこには1個、女子トイレのほうにも1個、洋式トイレがあったので、そっちのほうを使っていいよと言われるそうなんですけど、やはり男の子たちも、子どもでもありますので真面目で、やっぱり行けないと、そういうところには行けない、男子トイレじゃないと行けないという思いで、我慢せざるを得ないということなんです。できれば男子トイレにも洋式をぜひお願いしたいという御意見であります。

それからもう一点、昔ながらの造りにこだわった建物かもしれません。本当にマッチしておりました。ただ、男子トイレ、多目的トイレ、そして女子トイレと、上部が吹き抜けで続いているんですね。1つの明かりを3か所に分け与えるというような造りになっておりましたので、そこもちょっと落ち着いてトイレができないなという思いも私もいたしました。

もう一つ、旧吉原家からトイレに行くまでの飛び石もとても危険だなと思ったんですけれども、そのような点も含めて改修してお迎えをする心遣いが必要ではないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎委員、ありがとうございます。私は大川から全て和式トイレを一掃するというのを、もうこれで終わったと思ったんですよね。古賀政男記念館ですね。それから、文化センターですね。それから、川口のコミセンの運動場ですね。それから、紅粉屋の公園ですね、そこも全部行きました、私。これで現場は終わったと思ったんです。そしたら、私にメールが来ました、市長へのメールで。それでびっくりして、何、旧吉原家はまだされていないのかなと思って、私は一応、すぐするようにということで、3月に何かイベントがあるんですよね。それに間に合わせるようにと担当に言いました。しかし、少しお金がかかるから入札しなきゃいけないということだったんですけど、私は本当不思議に思ったんですよ。よくあんな観光客を案内しようとするときに、あんなトイレがまだあったのかということで、私自身、本当に衝撃を受けました。

ですから、これは私がじかに行行って、私は全部現場を確認するんですよ、現場に行行って確認して、こんなにしたほうが良いということを言おうと思っています。本当にインバウンド、インバウンドと言いながら、まだ和式のトイレがあるとか、男と女の間が上が開いているとかですね。それから、ここら辺のインフラがよくないとか初めて知って、メールが来たもんですから、すぐ返事しました、すぐやるからということでですね。また別のルートからも、ぜひやってくれということが来ましたから、それはなるだけ早く予算を、予算というか、見積りをして、少し、従来するよりもちょっとランクのいいのをしたらどうかという意見を持っています。早速、時間があれば現場にまた行きたいと思っています、どんなふうにするかはですね。一応、森課長とはそこら辺の打合せはしています、どういう格好にしたほうがいいのかとか。森課長も一応見積りを取ってはいるんですよね。

だから、ぜひああいう観光地のトイレは、やっぱり和式ではちょっと、これが大川が観光客を誘致するために力を入れているのかなという思いがして、本当に私自身も責任を感じております。だから、ぜひこれはいいものにしたいと。それから、アクセスも含めてですね。道路の踏み石がありますよね、あるらしいんですよ。そこも含めて、入りやすい、うわあ、旧吉原家のトイレはよかったと思われるぐらいのトイレにこれから改修をしていきたいというふうに思っています。

今後、大川から、文化センターが一番大変なんですけどね。文化センターもそれはひどい状況でした。もう本当、これが文化センターと言えるのかということで、これもきちっとや

ります。これは約束します。今そのための方法をいろいろ考えています。ありがとうございました。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。市民の方からそういう御案内とか、旧吉原家のボランティアの方々からもそういうふうなお声があったので、ぜひやっぱり現場を見ていただいて、感じていただいて、変更しなければいけないところはやはり変更していかなければいけないかと思えます。

私もこれを質問するに当たっていろいろ調べたんですけども、お国によっては洋式化でない国も本当にありますので、全部が全部変えなければいけないかということも、ちょっと一つの問題にもなってくるかと思えますけれども、そのような点も勘案していただきながら、本当により一層皆様に喜んでいただける環境整備に力を入れていただければと思いますので、よろしく願い申し上げます。

大川市にはもう一つ、平成15年に国の重要文化財に指定され、平成19年には日本機械学会より機関遺産に認定されている筑後川昇開橋があります。九州最大の河川であります筑後川に、本当に先ほど壇上でお話しいただきましたように、鉄道橋として架けられたこの橋は現在は遊歩道として再利用されて、皆さん、多くの方が通っていただいておりますけれども、橋の中央部が23メートル上昇する、稼働する、現存する日本最古の昇開式の可動橋は、本当に夕暮れどきの夕日なんか物すごく美しいんですね。また先ほどおっしゃったように、毎日、日没から22時まできれいにライトアップもされて、まさにおっしゃるとおりの大川のシンボルとして、本当に昼夜を問わず多くの方が訪れられています。

ただ、大川のシンボルでありますこの昇開橋の架かる筑後川の橋の足元ですね、河川敷に上流から流れ着いてきたごみが目立ち過ぎるというお声が多数あります。せっかく筑後川昇開橋に来て、そのすばらしさに感動しているのに、下を見るとごみが散乱していると。あまりにもがっかりする光景だと言われます。

確かに、筑後川の下流に位置するこの場所は、満潮時には上流からごみを水が運んできて、引くときにはごみだけ置いて水だけ引いていってしまうからですね。本当にその積み重ねが大量のごみの河川敷となってしまっています。自然の流れではありますけれども、これが大

川市のイメージになるのではないのでしょうか。以前は地域の皆様方でお掃除も有志の方々がされてあった、もうしきらんばいと、高齢化も含めて、もうしきらんばいということで、そういう状況に今なっているようであります。

昨年、この場所でスカイランタンフェスティバルも行われておりましたけれども、そのとき3,000人が集われていましたよね。そのようなときは河川敷の清掃などは行われたのでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

永島インテリア課長。

○インテリア課長（永島潤一）

お答えいたします。

昨年のスカイランタンフェスティバルの後の清掃についてのお尋ねですが、イベントの翌日にはございますが、インテリア課の職員が会場周辺に出向きまして、手作業ではございますが、可能な範囲での清掃を実施したところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

分かりました。ということは翌日ということだったんですかね。——はい、分かりました。

そういうイベントがあった後にはするとか、そういうイベントに合わせて前後お掃除をされていると認識してよろしいのでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

永島インテリア課長。

○インテリア課長（永島潤一）

議員御案内のとおり、イベント後に清掃を実施しているということでございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ということは、年に何回ほど取り組まれてあるのでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

永島インテリア課長。

○インテリア課長（永島潤一）

筑後川昇開橋付近でのイベントは、たしか私が思い浮かべますと、えつまつり、えつ観光川開き、それからスタンプラリー、およそ3回から4回の範囲でイベントが行われると承知しております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

分かりました。そういうイベントの前後にされているということでありますけれども、先ほど言いましたように、毎日の朝の潮の満ち引きでゴミがやってきますので、常にとは言いませんけれども、せめて年に、今おっしゃる回数をまた含めた上で、市のほうで定期的にお掃除がしていただけないかと思えます。

本当におっしゃるとおり、全てとは言いませんけれども、やっぱり市のシンボルとなる、人の集まる場所でもありますので、気持ちよく過ごしていただくために、もちろんできる範囲ではありますけれども、今おっしゃったのはイベント後にされてあるかもしれませんが、その前にする必要もあるかと思えますし、やっぱり気づかれたときにはする必要もあるかと思えますけれども、そういうお心遣いの点についてはどのようにお考えですか。

○議長（遠藤博昭）

永島インテリア課長。

○インテリア課長（永島潤一）

お答えいたします。

議員御案内のとおり、筑後川昇開橋は本市の重要な観光スポットであり、来訪者が非日常を味わうにふさわしい環境であることが求められると考えております。

一方、筑後川の堤防は元来、高潮対策を目的として整備された市民生活の安全・安心に不可欠なインフラでございます。河川敷に漂着した流木やゴミなどは景観のみならず、悪臭や害虫などの周辺環境にも悪影響を与える可能性があることから、適正な保全に努める必要があると考えております。

以上を踏まえまして、御指摘の件につきましては地域特有の課題であると認識いたしますので、組織や官と民の垣根を越えたオール大川でのおもてなしの実現に向け、関係機関・団体との協議を進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。本当に大川市全体でお迎えしなければいけませんので、どうか官民合わせて一緒に、市にできることは何なのかという思いの中で取り組んでいただければなと思います。

市長にお尋ねいたします。

12月の質問でも同じような質問をさせていただきましたけれども、大川市には重要文化財であります、先ほど大川のシンボルとなる観光地のまち、風浪宮とか旧吉原家を含む藩境のまち、今の昇開橋、清力美術館などありますけれども、このようなところについてどのようにお考えでしょうか。また、この大川市の宝をどのように今後活用していこうと思われているのでしょうか。

前回は大切なところだと思いますというお答えをいただいておりますので、よければ今回は具体的なお考えをお聞かせいただけたらと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎議員の御説明なんですけど、大川の大事な観光資源ですね、風浪宮、それから清力美術館、昇開橋、旧吉原家、これは本当に大事にしたいと。こういうところを何か連携して、大川市民、そして大川市外、様々な国々の方に連携してアピールできるような何か方策、多言語化もそうですよね。それから、ホームページとかインスタとか様々なツールがありますから、そういうことで多言語化してアピールできればなというふうに思っています。

私自身も、今まではそうでもなかったんですけど、事業をやっているときは様々なことで案内していました。しかし、私も一市政を担当するようになりまして、ぐっと意識が変わりまして、私が知る人に対しては全てにこういうような大川市の観光資源をアピールしようと

思っています。実際何人かにいろいろアピールはしています。福岡市に私のグループがあるんですよ、四、五十名のグループが。それについてはしっかりアピールしています。

ですから、匠展のあったときもその人たちにぱっとLINEで送って、私が挨拶するから来てくれということでアピールしたりしています。そんな感じで、東京方面にも私のグループがあって、また集まろうということになっていますから、そういうところではアピールしてきています、今まで。

それから、やっぱり観光資源をアピールするためには、観光スポットと言われるこの4つに、これはやっぱりトイレとか、ああいうところを見逃しているというのはちょっと私信じられない。今までそういう意欲がなかったんじゃないかなという気さえます。私もまさか旧吉原家が和式のままというのは、いろいろ説明を聞いたんですけど、ああいうような状況とは知りませんでした。そのとき言っていなかったと思うんですよ。

ぜひそういうことがないように万全を尽くしたいということで、早速合間に旧吉原家に行って、そういう様々なことを見て、ここはこうすべきだということでやってみたいと思っています。私は現場に必ず行きますからね。休みがあるときには現場に行ってチェックをしています。そうしないとやっぱり分からないんですよ。

どういうことかといいますと、例えば、文化センターに行くと、ちょっと私は私服で行ったから館長が案内してくれるんですよ。あまり本当に悪いところは案内しないんですよ、いいところだけです。しかし、この前、現場で掃除するおばちゃんに、あら、市長さん、また来られたということで、ずっと案内してもらいました。そしたら、本当の姿が分かるんですよ。もう私びっくりしました。本当にこんな状態なのかということで、私自身が認識を新たにしました。

ですから、こういう観光スポットもちょっと私チェックしてまいりたいと思っています。どこにどういう問題があるのかとかですね。観光資源というのはやっぱりインフラが大事なんですよ。そのために広告、あちこちでいろんなアピールをするわけですから、これがびしゃっとしないと、来られた方が失望して帰られるですよ。やっぱり大川の観光資源はすばらしいというぐらいなインフラの設備も含めてやらないと、よくないなと思っています。

今現在、旧緒方家が改修されていると思うんですけど、若干お金がかかるんですけど、これも立派に改修をしていきたいと思っています。ぜひ皆様の御協力をお願いして、大川が観光都市になるためには、近い自らの分をやらないと、先ほど宮崎議員も言われましたように、

昇開橋きれいですね。夜、大川橋を通ったときの昇開橋のあの美しさは何とも言えないですね。私ちょっとあれなんです、その向こうにまた何かできて、明かりがばあっと何かあったら、昇開橋の観光スポットが台なしになるんじゃないかという気がいつもいつもしています。

ですから、今後とも皆さんと協力しながら、やっぱりみんなが大川市の観光スポットをアピールできるように、そのためには観光スポット自体を魅力あるものにしていかないと、きちっと整備されたものにしていかないとですね。そして、この3つとか4つが有機的につながるようにして、そういうような観光スポットにしなきゃいけないと思っています。ですから、私は現場に必ず行きます、現場に。どこがどうなっているかというのをですね。

今後とも、ぜひ市民の皆さん来られているみたいですけど、何か地方に、何かこう不具合があったりしたところは、ぜひ市長への手紙で書いてください。そしたら、私すぐ行きますから。

そこで、ぜひ今後とも大川市の観光発展に尽力してまいりたいと思っていますから、ぜひ御協力をお願いしたいと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。本当に市長がおっしゃるとおり、お迎えする立場となるといろいろなところに手を入れなければいけない、改めて見直さなければいけないところはたくさんあると思いますので、早急なる対応はお願いしたいと思いますが、本当に先ほど市長もおっしゃったように、市長となられて半年近く、国とか県とかをはじめ、様々ないろいろな方にお会いをされて、また市長のほうに訪問を向こうからもされてあるかと思います。その方々に、本当に市長がおっしゃるように、トップセールスだと思うんですね、この大川を知ってもらうためには。そこの説明というか、その紹介がとても大事ではないかと思います。

例えば、今、清力美術館のほうで企画展が行われておりますけれども、1月11日より2か月にわたり行われております。市長自身があの企画展を、館長さんがあの思いでされている企画展を見られて、どのようにお感じになって、この2か月どのような方に御案内をされて、行かれた方がどのような感想をいただかれてあるのか、もしありましたら教えていただけま

すか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

実は宮崎議員、私が土日休めないんですよ、忙しくて。だから、行けないから、実を言うとまだ行っていないんですよ。それで、ぜひ合間をもって行きたいなと思っています。なかなか本当に代理も利かないし、なかなか休めないという日が続いています。ですから、ぜひ何か時間が取れば、その企画展ですね、説明は聞きました。しかし、なかなか行けないような状況に陥っていますから、本当はやっぱり副市長とかがおれば、私があちこち飛び回ってトップセールスができるんですが、なかなかそれができないような状態が続いていまして、一日も休みがなかなか取れない。休みが月1回か取れるときは、私的なあれがいっぱい重なって、それでもう追われてしまって、そういう状況に陥っているから、ぜひ皆さん、御協力をお願いしたいと思っています。そうすると、私があちこち跳びはねているんな方と会ってできますから、やっぱりトップがこんなに忙しくなると、余裕がないと、様々なところできない。これはぜひ皆さん方お願いしたいと思っています。私に少し時間の余裕をいただいて、様々なところにトップセールスができるような時間をいただきたいと思っています。

時にはゆたっと休みたい、それをお願いしたいと思っているんですよ。大変忙しい毎日を送っています。しかし、トップセールスはその合間でも行きます。これは必要があれば行こうと思っています。ぜひ宮崎議員、今後ともよろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

本当にお休みも大変厳しいかと思えますけど、カラクリアート展が今あっておりますけど、夜のカラクリアート展も開催されておりました。本当にこの思いというか、市民の皆さんへの館長さんたちの思いといいますか、どういう思いでこれをされているのか、多くの方に見ていただくためにも、テレビ局も来て、いろんな御案内もされておりますので、ぜひやはりお時間を少しでもつくっていただいて見ていただきたいと思えますけど、たしか3月9日までではなかったかなと思います。

本当にこの清力美術館も、館長さんが風情に満ちあふれたこの建物にほれ込んで、今本当

に一生懸命頑張って全国に、また、国を超えて多くの方に知っていただくために国内外の様々な芸術家の方々にも参加をいただいて、本当に素晴らしい企画展、どこにもまねができないことをしていただいて多くの方に来ていただいております。

市長が本当に大切な方々にお会いになられて、今、先ほども自分のグループにとか、福岡に行つてとかお話がありましたけれども、そういうふうな中で、文化や歴史、芸術、音楽など、本当に様々な興味をお持ちの方に合わせながら、大川にもし音楽だったら古賀政男記念館にこういうところがあって、こんなのが今飾つてあって、レコード大賞を取られたときのこういうのがあるんですよとか、等身大のこれがあるんですよとか御説明をされたりとか、今言いましたように、美術とか芸術ならば清力美術館、歴史の話に花が咲けば、江戸時代から現在までの歴史をかいま見ることができる藩境のまちなどを御紹介される機会がたくさん——それはもう大変な中かもしれませんが、たくさんの御訪問もあっておりますし、東京に行ったり、県に行ったり、いろんなところに行かれます。いろんな方とお会いになります。そこで、どのようにお話、自分の御友人とかにとかお話はあったかと思ひますけれども、どのような方にどのようにお話をされて、いま一度、どのような方にお話しされて、お答えとして、行ってきたよ、よかったよとか、どういうふうなお答えがあったのか、もしあったら教えていただけたらうれしいんですけど。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎議員、先ほど申しましたように、福岡市とか久留米市とか、特に福岡市は、もともと学生時代は福岡で過ごしていたもんですからね。そして、福岡経済研究会という四、五十名のグループがあって、すごく私を応援してくれているんですよ。その方たちにはちゃんと言っています。会合になかなか参加できなくて、また4月か5月ぐらいにぜひ出席できればという会合があります。

それから、東京にまた様々グループがありまして、すごく私をまたその方たちが応援していただいて、今度5月か6月ぐらいにまた会うようにしています。そして、私は本当に一番よかったと思うのは、この特交に出張したときに、東京の古賀政男記念館、あそこに行きました。本当は日帰りだったんですけど、やっぱり行きたいということで。あれはよかったですね。古賀政男記念館、議員で行かれた方はございますか。あそこに行って、東京の人た

ちにアピールできるようになったと思っているんですよね。大川にもあるよということですね。だから、あそこに行って案内していただきました。いやあ、JASRACも横に建物があるし、へえ、こんなすごいところなんだということで、ますます私は古賀政男記念館は大事にしたいと。そして、アピールしていきたいというふうに思っています。そのために、あそこのトイレは和式のトイレが3つあるんですよね。建物も古いし、あれも全面改修します。それでアピールしたいと思っています。だって、遠くから来て、大川の古賀政男記念館が和式のトイレだったらがっかりされると思うんですよね。それは約束しています。

今後とも、私の命が続く限りというか、私が市政を担当する間は、もう全身全霊、市勢の発展のために尽くしてまいりたいと思っています。

そして、私自身は、私の強みというのは、何のしがらみもないんですよ。誰に気にすることもない。そして、大川市の発展のために動くことができる。誰に気遣う必要もないんですよ。悪いのは悪いと言えるんですよ。それが私の強みだと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

分かりました。本当に先ほども言いましたように、やはり御紹介とか御案内をしていただくためには、御自分で足を運んで、自分で見て、心で感じて、今トイレを一生懸命言ってもらっています。もちろんトイレもですけども、トイレ以外の部分でも心で感じて、これをぜひ真心込めて自分の言葉で御紹介をしていただいて、訪れてくださった方々に心から喜んでいただいて、また来たいと本当に思っていたいただけるようなトップセールスをぜひよろしくお願い申し上げます。

そして、必死にその地域を、そして、その大切な場所を守ってくださっている方々の声に耳を傾けて、そこから、大川市には人をお迎えするとき、おもてなしの心遣いに足りないところは何か、トイレもちろん、あしからず、それ以上の、ほかのところも、おもてなしの心に足りないところは何か、何だったらできるのか、今しなければいけないこと、必要なことが何か、しっかりと見えてくるのは、やっぱり現物を見て、現場に足を運んで、そこにいらっしゃる方々のお話を聞いて、守ってくださっている方々に耳を傾けて、そこから始まってくると思います。

市にお迎えするおもてなしは、市民の皆様と共に、市全体を挙げて行わなければいけない。その中で、おもてなしにも、行政だからできること、行政にしかできないことを御要望としてお願いされるかと思しますので、ぜひ耳を傾けていただきたいことをお願い申し上げ、私の一般質問を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は11時15分としますので、よろしくお願いいたします。

午前11時5分 休憩

午前11時15分 再開

○議長（遠藤博昭）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、12番永島守議員。

○12番（永島 守）（登壇）

皆さんこんにちは。12番永島守でございます。

今回は私は、通告書だけがございませんから、皆さん方の手元にあるのは、1行だけ、市政運営状況等についてということだけでございますので、ここで私の質問通告の内容だけ皆さん方にお示しをしたいと思っております。

市政の在り方を問う。新たな市政より4か月余りが経過して、私的には、過去前例のない、民主主義を無視した強権的市政運営がなされていると、そのように思うわけでございます。このたび議案書に目を通してみれば、新たな政策はほとんど見当たらない。倉重市政の政策がそのまま引用されたかのように私は感じたわけでございます。

昨年の12月議会に尋ねました「大川の駅」事業廃止後の有効活用策等につきましても、何の活用策も考えてはおりませんでした。今回は政治姿勢並びに将来政策についてしっかりとお聞かせを願いたいと思っております。

その他の市政運営等々に関わることについては、初期常識的質問については必要に応じて質問席よりお尋ねいたしますので、全てお答えいただきますようよろしくお願いいたします。壇上を後にしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

まず市長にお伺いをしたいと思いますけれども、私は3日の初日、この本会議場において少しやり取りをいたしましたけれども、まず、イエスかノーかでお答えを願います。

先月の16日ですか、小保浜口公民館において、市長が発言の中において、議会に押しかけ、議会を占拠してもいいかのような、アメリカのトランプがやるていでありますけれども、そのような発言について、はっきりここにテープは持ってきております。ここでテープをお聞きになりますか。それとも、それを認めますか。もし議長の許可をいただければ、その部分、長い時間にわたっておりますから、その部分だけここで流したいと思っておりますけれども、どうですか、市長。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いろんなことを言いましたから私は覚えていないんです、その部分は。ですが、私が議会を占拠していいというようなことをもし言っていたら、それは謝ります。しかし、信じられない、私がそういうことを言うのは。だから、もしよかったらお聞かせ願って、もしそうだったら謝りたいと思います。

以上です。（「議長、よございますか」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

じゃ、音声の再生だけならば最小限度のところをお願いいたします。

〔音声を流す〕（「僕はですね、反乱を起こしていいんじゃないかなと思いますよ。議会を占拠するとか。」）（「反乱。占拠じゃないです、反乱と言ったわけですね」と呼ぶ者あり）

市長。

○市長（江藤義行）

それは私も若干言い過ぎたかもしれませんが、どういうことを言っているかと申しますと、恐らく私自身は民主主義を無視したようなやり方をしたら、やっぱり……

〔音声を流す〕（「僕はですね、反乱を起こしていいんじゃないかなと思いますよ。議会を占拠するとか。」）

永島議員、それは私も若干比喩的には言い過ぎたかもしれない。ただ、僕が言っているこ

とは、その前後よく聞いてもらいたい。（「聞いとるよ」と呼ぶ者あり）聞いて、永島議員。何の市民の説明もしなくて、あなたが議会が強いからといって、何でも通す。そういうような議会があってはならないと言っている。だから民意が出たんですよ。だから、そういう意味で比喩的に言ったかもしれませんが。ただ、考えてもみてください。これぐらいの大事業を、いろんな場で市民の場に説明しないということは、本当に民主主義がなされていないんですよ。これはやっぱり民主主義としては、本当はデモを起こすなり、いろんなことをしないと。だって、皆さんがこれで民意が出たんだから、当たり前だ。これはね……（「議長、傍聴席ちゃんと注意しなさいよ」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

私語は慎んでください。

○市長（江藤義行）続

永島議員、僕らは一人ひとりから、市民の一人ひとりから負託を受けています。そして、あれだけの公共事業をするには、やっぱりいろんな場で市議会議員も含めて説明していかないと。

僕は、区長会……（「言ったか言わないかで結構です」と呼ぶ者あり）だから、それはね……（「今日の質問は、質問者がですね」と呼ぶ者あり）だから、理由を言っているじゃない、理由を。

○議長（遠藤博昭）

ちょっと冷静に。

○市長（江藤義行）続

いや、冷静になってください、本当。永島議員、お答えしますよ。僕は、民主主義を無視したようなやり方をするから、これはやっぱりデモを起こすとか、そういう意味で、比喩で若干言い過ぎたかもしれない。しかし、それぐらいの大きな出来事だったんですよ、これは。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

私もちょっと、信じられない、私はあなたのそういう発言について、あなたの使われる言葉で返すならば、びっくりしました、はっきり言って。こういうことをね、あなたは要するに市政を担う、そういう人が言うことですか、これは。（「いいですか」と呼ぶ者あり）そ

して、何ですか、独断と偏見で結局何か私がやったんですか。何かやりましたか、私が。言いましたか。イエスカノーか、それだけは答えてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

イエスカノーかだけ答えられないですよ、それは。言わないと。だって、永島議員、こんな大事業を、一般市民の方々に説明を開かないと、それは。そして、僕は思う。民意が出たんだから、それに対して、民意が出たということをも自分自身が反省して、そして、その民意に沿うように進めていかないと。それが民主主義の基本ですよ。（「市長」と呼ぶ者あり）ちょっと黙って。それは過去に、私それは若干比喩的に言ったかもしれない。見るとですね。だから、それについてはちょっと言い過ぎだと思っています。ただ、それは民主主義を無視したやり方をしているからということで、オーバーに言った嫌いがあると思います。それだけは理解してください。

○議長（遠藤博昭）

的確に答えてください。

12番。（「向こうに言わんね、向こうに。あなた、俺ばかり言わんで、相手にも言えればいいじゃない」「議長」と呼ぶ者あり）

○12番（永島 守）

だからさっき言ったでしょう。質問者が主導権を握るんだ。あなたは答弁者ですから、さっきも要するに、何度も何度もトイレのことばかりしか言わない。トイレのことをどれぐらい言いましたか、先ほど2人の質問に対して。

だから、前回の12月議会においても、質問に対してほとんど答えていない。いろんなところからあなたのところにも電話はあるかもしれないけれども、私のところもいっぱいありますよ。

先ほどの質問、繰り返すようでありますけれども、国県に何度も何度も行ったと、そういう表現をされています。倉重市政では数え切れないほど人間関係をつくってきたんですよ。余計なことありますけれども、副市長人事についても一緒です。あなたとの信頼があれば、こういう結果はないと思います。

私は、その提案された方とは、私が、話によると、これはもうここでは申し上げませんけ

れども、いろんな批判的な話がありますけれども、私が何か押しつけて発言をさせているかのごとく、ネット上にそういうのが頻繁に毎日上げられております。これは誰ですか。あなたの口から言わなければ分からないことがいっぱい上がってきていますよ。これは市政を担う方のそういう態度、姿勢ではない。

そしたら、お答えください。私の12月議会の質問に対して、常識的に考えて、これだけ大きな事業、大きな事業と言われる、その事業を廃止なされた。そしたら当然として、その後の政策はあってしかるべきなんですよ。それでも結局、何一つあなたは今日の質問に対してもその部分の答えにはなっていない。私はそういうふうに思います。そしたら、はっきりその部分について、通告内にありますから、今後のですね、それから引き続き申し上げます。

要するに、馬淵議員の質問がございました。昨年にあなたの口から言われておりました。既に、諮問委員会か検証委員会か分かりませんが、メンバーはもう決めていると。はっきりあなたは何か所でもそれを言ってあります。この本会議場でも言ってあります。その後についてですね。

そして先ほど、私は黙って聞いておりましたけれども、何とかさん、これもちゃんときちんとした内容的なものは馬淵議員が読み上げましたけれども。利害関係がないのが基本なんですよ。だから議会としては、今回、まだ上げておりませんが、議長の発議によって、また、それは議員たちの、それぞれの皆さん方の意見を集約して、第三者委員会、全く利害のない、利害のない第三者、第三者ということはお分かりでしょうけれども、あなたにしっかりと応援をされた方、それから、こんなことを言うとまたすぐ犯人探しされますから言えませんけれども、要は内部通報というのもあるんです、今も。しっかり全国で論議されております。その中において、まだ任命もされていない、そういう人が、市職員を恫喝するとか、実際私はその場にいませんでしたけれども、それが流れて、流れ流れて私の耳に入りました。しかし、今日の今日までそのことについては触れるまいという思いでありましたけれども、私は今回言わせていただきます。

そしたら、事業計画廃止、その後の計画について、ぜひ、もう4か月ですから、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

永島議員が言っていることがずっと何やかやいっぱいあったから、よく的を射ていないから、何を答えればいいんですか。何かいろんな諮問会議の何やかやいっぱい言われたから、何を答えればいいんですか。

○議長（遠藤博昭）

市長、今後の跡地の利用について、まず尋ねてあります。

○市長（江藤義行）続

それだけでいいんですか。

○議長（遠藤博昭）

まず1点です。（「いや、それは順次また聞きますよ」と呼ぶ者あり）

○市長（江藤義行）続

それだけでいいんですか。諮問会議とかなんか、ほかにもずっと何か言われたけど。（「ありますよ、あなたの答え方次第です」と呼ぶ者あり）何か、何を言えばいいんですか。そして、あなた、僕の答え次第ですか。それは事前に通告してもらわないと。（「私は書いている、どう解釈されてあるんですか。私、通告をしていますでしょう」と呼ぶ者あり）通告していないことを自分で言ったやない、通告していないこともあるて。（「何の話、それは」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長、今後の跡地の利用についてお答えください。

○市長（江藤義行）続

それだけでいいんですか、今後の跡地の利用で。（「お尋ねしました」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

お答えください。

○市長（江藤義行）続

議長、それだけでいいんですか、今後の跡地利用で。

○議長（遠藤博昭）

今、1番に聞かれているこの趣旨は、跡地の利用ですから、まずこのことにきちっと答えてください。

○市長（江藤義行）続

それでいいんですね、はい。

じゃ、今後の跡地利用については、先ほども馬淵議員が言われましたように、あれと同様でございます。今後、様々な機関と協力しながら、跡地の利用については適切な利用を図っていきたいと思っています。そういうことに答えましたから。聞かれていましたでしょう、それはちゃんと。（「そうだそうだ」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

それはちゃんと聞こえていますよ。跡地利用について、明確な答えはない。そしてしかも、その絡みとして私が申し上げております。あなたが選ばれた、その諮問委員会ですか、検証委員会ですか、分かりませんが、そういう部分について第三者的な、そういう人物を選ぶのが本当やないですか。そしてまた、行革審の中では、これは委員数として20名ということで今までやってこられました。それは当然として任命者は市長でありますから、今はあなたが市長ですから、当然あなたにあるわけであります。

しかし、基本的に、ここで馬淵議員が読み上げられましたね。今回の委員の一人、あれだけ、要するに批判的な言葉を並べてやられた方、これは厳正中立とは決して言えません。私が何か1人でやったかのような答弁も最初されたけど、私は何もやっていませんよ、議会の中で。これは皆さんに聞かれたら分かります。いつもいつもそういう発言を、私は、ここでは時間がないですから、全員協議会でやりますよ。出しますよ、記録も全部。あなたが、必要ならば、私は街頭で皆さん方にきちんとお示しします。行政を預かる人の言う言葉ではないですよ。

あなたは就任されて、江藤さん、職員は私が守ると、そういう約束をされた。私がいろいろ言ったら犯人捜しをされますから、職員の皆さんへも私が迷惑をかけます。職員の皆さんも家庭があります。生活があります。だから、余計な心配をかけまいと。私は端的な話をさせていただいておりますけれども、あくまであなたが持論を通そうとされますならば、私は堂々と市民の皆さん方に聞いていただきます。テープも流させていただきます。もう少し謙虚にやらないと、あなたは、私が怖いだとか、あなたが吹聴しとるじゃないですか。傍聴席に市長たる者が合図を送ってみたり、それから、議員に発言の許可をこの本会議場で求めてみたり、あるまじき、あなた、行為ですよ、それは。はっきり申し上げますけれども。

私は、みんなから言われますけれども、あれは悪いやつだと。冷静に考えて行動していま

すよ、私は。私がそうだと決めつけて、あなたは乱暴な言葉ばかり使ってますね。できるだけ、職員は市民の宝ですから、もう少し理解をしてあげてください。あなたのそういう、言うなら議会占拠せいと。そのような発言の下に押しかけてくる。この役所の中では、毎日毎日、あなたが任命しているかどうか知りませんが、げたを履いてカランコロンカランコロン毎日来るやつがおる。あなた、すぐ呼び寄せて話しているじゃないですか。私はこの際ですから、何でも言いますよ、もう。あなたこそ独裁的な、時代錯誤したそういう姿勢はやめなければならない。私はいつまでもこの議会にいるわけではございません。私もできるだけ手かせ足かせしっかりと外して、私はそういうことを、私こそすみを出してあげますよ。

(傍聴席より発言する者あり) 何か議長、言いはるよ、一々。

○議長(遠藤博昭)

私語は慎んでください。

○12番(永島 守) 続

もう、出さんね。

○議長(遠藤博昭)

出ていただきますよ。

○12番(永島 守) 続

退場させんね、議長。(傍聴席より発言する者あり)

○議長(遠藤博昭)

誰ですか、今言っているのは。出てください。今発言された方。

○12番(永島 守) 続

出なさいよ。議長、休憩動議を出します。

○議長(遠藤博昭)

暫時休憩いたします。

午前11時36分 休憩

午前11時45分 再開

○議長(遠藤博昭)

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

ここで傍聴人に申し上げます。静粛にお願いします。地方自治法第130条第1項の規定により、傍聴人は議事について公然と可否を表明し、または騒ぎ立てるなど会議を妨害するこ

とは禁止されております。今後、私語をされた場合には、その場で退出をお願いいたします。

では、続けます。12番永島守議員。

○12番（永島 守）

大変お騒がせをいたしました。申し訳ございません。

それでは、冷静に進めていきたいと思えます。

これも言おうか言うまいかというのは非常に迷ってございましたけれども、この際でございますから、全員協議会の中で再三議論されました件について、再度、せっかく市長を支持される方々がたくさんおられる中でお話をさせていただきたいというふうに思えます。

これは1月10日の全員協議会で行いました。私どもは、副市長に人事案件ということで市長がお示しをされた中に、これが結果として否決と、不同意という形で終わったわけでありましてけれども、そのときに皆さんから出た問いかけというのは私どもは詳しくは知っておりませんでしたけれども、あれは12月2日の人事案件で提案なされて不同意と。その方が、我々全然知らない中でも、市長が直接この方を再々任用で採用されていたということは、この議場におられる議員の皆さん方全てが御存じのとおりだろうと思えます。

そういう中において、議論がなされたのは、誰が、いつ、どのような形で採用したのか。そしてまた、ちょうど空いていたから副市長室を使っていいからというようなことだったと聞き及んでおります。その方が12月16日、月曜日ですね、役所に再々任用で来られたと。そして、翌日の17日の午前中に辞職届を出しに来られたということ、これは事実ですね、そういうふうにしかと議員の皆さん方も確認をなされております。

そして、議論となったのは、この方が1日半、再々任用で仕事をなされた。そして、12月いっぱい15万2千円を受け取られたということでございます。これは人事秘書課長がそのときに言われておりました。規定の中でお支払いをしていますということございましたけれども、そういうことというのは市民の皆さん方はあまり知らないんですね。知られてございません。その事実、これは、長い話じゃない、イエスカノーかだけ教えてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

永島議員も長々言われましたが、イエスカノーかだけじゃなくて、その理由を少し説明したほうがいいんじゃないかなと思って。イエスカノーだけじゃなくて、あなたはずっと今言

われたじゃないですか。（「私は質問者ですよ。議長、その辺を教えてあげてください」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

はい。（「イエスカノー」と呼ぶ者あり）質問の趣旨から外れないように返答を。

○市長（江藤義行）続

オーケー、分かりました。まず、やっぱり前段を言わないと、イエスカノーだけでは説明し切れません。ですから私は、どうしてこんなになったかを私の見方を説明したいと思います。そすと御理解いただけるんじゃないかと思っています。

永島議員、私には副市長も教育長もいません、否認されるから、議会の方からですね。ですから、私の業務は多忙を極めています。ですから、ぜひ私をサポートしてくれる人材がいないと、永島議員たちが求められているいろんな場に行けないんですよ。様々なところにトップセールスができないような立場にあるんですよ。そして、そのために、やっぱり市としては損失を被っていると思っているんですよ。ですから、私を、本当は副市長とか教育長を通していただきたいんですけど、私をサポートして、そして、そのために私をサポートしてくれる人材が欲しいと。その人材は誰でもいいわけじゃないんですよ。やっぱり能力のある方を選びたいんですよ、私は。そして、私のサポートをして、羽ばたきたいんですよ、トップセールスしたいんですよ。そのために私は副市長を選びました。

ところが、私は、永島議員言われたように、副市長室が空いているから、副市長室をしておくようにと。それは金曜日だったんですよ。副市長室を空けておくようにと言ったんですよ、人事秘書課にですね。ところが、本当に、御承知と思うんですが、私の部屋の入り口、通路があるんですよ、通路がね。あそこの応接室を取っ払って、そこに机を置いてあったんです。こんなばかな……

○議長（遠藤博昭）

市長、その状況は何度も聞きましたから。

○市長（江藤義行）続

いやいや、言わないと分かっておられない。その状況を見ると、あんなことで……（「市長」と呼ぶ者あり）仕事はできないということで、僕は副市長室が空いたから何で使えないんだということで、これはもう仕事できないということで私のほうも言いました。

○議長（遠藤博昭）

市長、そういう質問じゃないですから。

○市長（江藤義行）続

もうあなた、これは仕事できないからといって、こういう状況じゃ。どうして空いている副市長室を使えない、私のサポートする人材をどうしてかというのを今でも疑問に思っています。そういう理由から、私のほうも言いました、それは。もうこれは仕事できないよと言っていました。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

非常にたらたらと語っていただきましたけれども、それは勝手にできる部分と、市長、できない分があるんですよ。それはちゃんと人事秘書課なり、総務課なり、優秀な幹部職員がおりますから、まずはそこに尋ねられて、こういう質疑をやらなくていいようにやるのが市長じゃないんですか。

私は江藤さん江藤さんと言いますけれども、私は何で、要するに私も提案された方を、議員みんなが知っているわけでも何でもありませんよ。提案者の市長を信頼できるかできないか。ある部分で分かっておれば、細部にわたってはみんな議員というのは、市長との信頼関係の中でイエス、ノーを決めるんですよ。それもないですね。そしてまた勝手にそういうふうなことをされる。副市長室というのは、きちんとした形で、これは幹部職員の皆さん方に相談をされて、あるべき姿、そのようにして使っていただかないと、あなたが市長になられたからあなたの権限で何でもできるというのはないんですよ。

私も批判されますけれども、私は自分の我は通しておりませんよ。（「そうですか」と呼ぶ者あり）そういう言い方はやめてください。（「いや、だって」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

ちょっと、発言は許可を求めて。

○12番（永島 守）続

全く、要するに言うならば、分かっていない。

そして、こういうことがあって、そして、端的に、私たちはいわゆる教育長人事で提案なされた、それから副市長人事で提案なされた、知りません、この方々は。5度会ったと、市

長は言われておりましたけれども、私ども全く知りません。こういうことというのは、市長との信頼関係があればできるんです、詳細にわたっては。

初日だったですか、馬淵議員も、あなたは信頼できないと。それを言われたら、少しは考えてみてくださいよ。やっぱり意思の疎通が日頃からあるのであればそれは別ですけども、突然に出されてなかなかですね。忙しい、倉重は一生懸命やっていましたよ、はっきり言って。それは今以上に忙しかったはずですよ。それを覚悟の上で市長になるんですよ。忙しいからじゃない。

そして、これは、こういう話になりましたからちょっとお話をさせていただきますけれども、私の時間なんですよ、時計を見られますけれども。ある市長が私に言われました。傍聴席におる方も知ってある方もあるかと思えますけれども、副市長などは要らない、これが一番無駄な金だと。これ、ちょうど、何年前になりますか、随分、もう十何年かなりますけれどもですね。誰の言葉か、要するに思い浮かべていただければ分かると思えますけれども、副市長なんか要らないと。そしたら、長くもしない間に、県知事に副市長人事をお願いするということで、これは西日本新聞の地方版に載っておりました。私はびっくりしました。優秀な課長を周りに置いておけば、そういうものは要らないんだと、この方はおっしゃいましたけれども。

そして、いよいよ日にちがたってきた。要するに改選時期が、市長改選時期がやがてやってくるわけですから、いろんな行事も入ります。必要になってきたんでしょうね。私は、優秀な方でした。その後、この議場で、みんな、その方を支えていた議員でさえ、採決のときには議場を出てみたり、反対討論をして議場を出てみたり、家で休んだ議員もおります。これだけ多数の議員が本会議を休むということはないんですよ。大体そういうときには、何か大きな問題があるときなんです。私は、その本人さん、提案された本人さんにも言いました、やめたがいいよと。でも、再三言われておるからと、もう引けませんと。だから、私はそういうことも、似通つとるから私はそういう話をしたんですよ、忙しい忙しいと言われるから。その方も、それは1人でやってあったんですよ、仕事。一生懸命ですね、その方も。だから思われたのかもしれないけれども、そういうことがよく似ているなど思いながら私は話しておりますけれども。そして、辛うじて通さないかんだらうということで、まず過半数を超える、そういう人たちだけ、この議場に理解を示してくれたんですよ。そういうこともあるんですよ。支える人たちが退場したんですよ。それでも何とかして通してあげないかんだらう

と。それはなぜですか。元職員さんですから、十分に意見交換やっていますから。

ですから、市長がどうあれ、提案された人が優秀な人であり、そして、意思の疎通がいつもみんなとできるような、そういう方だったんですよ。ですから、そういう中においても、何とかして、否決するわけにはいかんと。しかし、私は反対討論の中で言いました。提案理由の時期を誤った提案でしょう。あなたは、要するに政治の場を去られるときには、そのあなたが提案した副市長を残していくんですかと、この本会議場で私は反対討論で言いました。まさにそのとおりにになりました。そして、すぐにやっぱりその副市長は自ら辞退されました。そういうこともございます。

ですから、やっぱり政治というのは、何度も言いますけれども、やっぱり信頼なんですよ。信頼なくして、あなたが幾ら政策を述べられても、やっぱりみんな上の空でしか耳に入っていないんですよ。だから、私は申し上げましたとおり、今回の議案、特に来年度予算等について、あなたの提案理由の説明もしっかり読ませていただきました。中身についてはほとんど倉重市政のそのままです。多分これ以上のものはないだろうと思います。初めてあなたが市長になられて、それを分かるというのは、これは難しいだろうというのは市民の多くの方が理解されておりますけれども、これはといった部分については何行かありました、何行かですね。その中の一つが、今日、再三答弁なされた、和式トイレを洋式にすると。それから、学校給食の問題だとか、そういう問題かれこれというのは何行か見受けられましたけれども。

そしてまた、小保公民館ですね、浜口ですか――で配られましたあのチラシ、随分と、中身を見てみると、予算に上がっていないものもあるんですよ。また予算委員会の中で多分にして皆さんがお尋ねになると思いますけれども、私どもは常にやっぱり比較をしているんですよ。市長が選挙後に言われました、こんなひどい議会はないと。私は市長にも伺ったことございますけれども、全協でですね、市長、あなたはこう言われましたけれども、あなたはテレビ出演したと自ら言われていますでしょう。あるんです、そのテープも。しかし、できたら市長、あなたがいろんな議会と言われたその議会、例えばどこでしょうか。それをちょっとまず、これは全部記録に残っているんですよ、各議会で。どことどこでしょうか。

（「何か答えるの」と呼ぶ者あり）はい。（「何を答えるわけ」と呼ぶ者あり）比較対照とされた議会ですよ。（「比較対照」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

質問理由が分からないんですか。

○12番（永島 守）続

議長、説明してあげてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

ちょっとね、いっぱいいろいろ言われたかよく分からないんですけど、比較対照する、もう一度何か私に対する質問を、これとこれだといって簡潔に言ってもらえませんか。ずうっと話されたから、何が焦点なのかがよく分かりませんでした。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

だから私は言うんですよ。よその議会ものぞいてください。よその市長がどういう答えをしておるのか、通告の範囲というのがどれぐらいまでが範囲なのか。常識として市政を担う人が答えられる、私はその範囲でお話をしております。そしてまた、通告の範囲の中でお話をさせていただいているわけですから、大川の議会がひどいと言われるのであれば、だから、どこの議会と比較して悪いんですかと。

○議長（遠藤博昭）

市長。（「答えるんですか」と呼ぶ者あり）

○市長（江藤義行）

やっと永島議員が言われている趣旨が分かりました。分かりました。私もまだ市長になって4か月ぐらいですから、いろんな分からない点があると思います。議会は、あれですか、傍聴とか行けるんですか、見てくださいてあなたは言われたけど。私、よその議会、傍聴に行けと言われているんでしょう、あなた。

○議長（遠藤博昭）

いやいや、できますよ。（「反問ですか」と呼ぶ者あり）

○市長（江藤義行）続

いやいや、よく分からないから。もう1時間過ぎているけど、何を私に言われているのかがよく、ずうっと長いからよく分からない。

○議長（遠藤博昭）

市長がAbemaTVに出演されて、大川の議会のことを最低だとおっしゃった。その最低というのはどこの議会と比較してお話しされたんですかというお話です。

○市長（江藤義行）続

分かりました。私はAbemaTVにテレビに出ました。私が一市民としてあの頃思っていたのは、やっぱり議会が本当に正常に動いていないというのは思いました、これは。私は一市民としての一つの受け取り方なんですよね、これは。よしあしじゃなくて、そんなふうに取り取ったからあんなに言ったと思います。

そして、本当に、何というかな、まだ議会というのはこんなもんじゃないんじゃないかなという、私自身、今でもそういう気がしています。

○議長（遠藤博昭）

だから、市長、どこの議会と比較されて大川の議会がそんなにレベルが低いという発言をされたか、端的に教えてください。

○市長（江藤義行）続

議会というのは比較をしているわけでもありません。ただ、私自身が感じる議会とはこんなもんじゃないんじゃないかなという思いで言っただけです。

○議長（遠藤博昭）

はい、結構です。12番。

○12番（永島 守）

よく思い出してください。後で録画でも見て、思い出してください。日本全国どこを探してみても大川市議会のような、このような議会はないと。議会にはボスがいて。あれは市長が発言する内容じゃないですよ。あのことによって大川市というのは随分と有名になりました、あなたのおかげで。夢も断ち切られました。だから私は、あなたの政策の真意というのがどこにあるのかなと。先ほどから言いますように、明確にお答えをいただかないと。

今度恐らく、何ですか、結局、検証委員会ですか。その中で、先ほどの答弁の中にもありましたけれども、やっぱり私どもが求めるというのは、この廃止前のこともしっかり精査しながら先のことを考えていかなければならないという答弁がされましたけれども、ですね、市長。あっ、市長と言うてしもうた。（「ありがとうございます。初めて市長という言葉聞いたんじゃないかなと。ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

もういいです、そのことは。どうぞ続けてください。

○12番（永島 守）続

いろんなことを言われますけれども、やっぱりそういう委員会に尋ねるだけではなく、あなたは要するに行政を担おうとして手を挙げられたんですから、これは手を挙げたときから自分の政策というものはあるべきなんです。小保浜口の挨拶の中に、元県議を務めとった方が言われております。初めて政策選挙があったと。私は真逆だと思います。議員も一緒です。政策を競うのが選挙なんです。ただ、いわゆる要するに「大川の駅」に賛成か反対かと。結果として反対というのが出てきた、選挙結果もそういうふうにはなってきました。十分に理解されて果たして投票されたのかなというふうに私は今でも思っていますけれども。

政策のない選挙、私は市長選挙で初めて経験しました。大川市長はあなたで7人目です。皆さんしっかりとした政策を掲げながら候補者間の政策を競われた。だから私は何度となく、その後の政策決定はなされたんですかと。そしてまた、その検証委員会なるものがあなたのお友達メンバーでやられて、中にはとんでもない利権に絡んだ、そのうみを出さないかというふうな、そういう発言をされる方が、話によりますと、報道によりますと、その方が代表になられていると。それは優秀な方かもしれません。しかし、入り口からそういう方向性を位置づけした、これは検証委員会であれ、諮問委員会であれ、偏った判断しか出てこないんですよ。

だから私どもは、できるならば今議会において、これは議長の発議でありますけれども、また代表、要するにメンバーというのは当然、私は話していませんけれども、議長とのやり取りはあっていると思います。だから、第三者、あなたとも私でも関係ない、是々非々で厳正中立な判断をしていただくと、そのような第三者委員会をつくってくださいよと。しかし、あなたはずっと、議会が多分了解しないだろうと、いまだに言い続けてあります。そういうことはしませんよ。（「ああそう」と呼ぶ者あり）いや、そういうことはしませんよ。（「へえ、ほう」と呼ぶ者あり）そういう——そういう人をばかにしたようなあれはせんでくださいよ。

○議長（遠藤博昭）

だから、余分な発言はやめてください、市長。（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○12番（永島 守）

あなたは大体そういう態度がおかしい。

だから、子どもはちゃんと提案、きちんとした形で提案をします。そして、そういう中において、将来の大川市のありよう、これを立派に示していただくならば、これは私一人で勝手に言うておりますけれども、そういうものが確立できると約束できるならば、厳正中立の方々、第三者を寄せて、そして、明日の大川を、あなたたちはどういう関係か知りませんが、頑張れ何とかだとか、明日の何とかを考える会だとか、じゃなくて、きちんとした形で、先ほど答弁もありましたけれども、電話で話を聞いて、ああ、即やりますと返事しましたと。大川の市政というのはそういうことなんですか。知り合いが電話してきたら、はい、やりますと。それは職員も怒りますよ。みんな予算を抑えながらやってきているんですから。金額が大きかろうが小さかろうが、やっぱり職員は市民の財産なんです。子どもは国の宝、当然として学校給食を無償化するのは、これは本来は国策がやるべきものです。国策でやるべきものなんですよ。

だから、その辺のところは、もう少し職員の皆さん方とも理解を互いにし得るような、そういう会話をしていただきたい。もうみんな怖がっていますよ、市長。あなたに私は、いつか委員会のときに、あんたはみんなが怖がってね、どうのこうのと私にやってこられましたけど、ああいうやり方は私はこの本会議場でやりたくなかったから、ああいう場所で言うてくるんですよ。これは全国ネットですよ。だから、私はわざわざああいう場所であなたに御忠告申し上げた。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）そしたら、今度は要するにあなたの、どういう関係か知りませんが、そういう方々を動揺させる、また、先ほど最初にありました、議会は占拠してもいいと。これは切り抜きでありますけれども、確かに切り抜きです。しかし、その内容等について、全て予算、大川市の隠れ借金があるとか、これは総務課長、きちっと説明をしてあげてください。新たな支出を見つけただとか、そういうものじゃないですよ。私はそう思います。

それが、私もずっと今日までいろんなことを言うことは控えている。毎日私はネットでたたかれていますよ。それを知らないはずないでしょう。（「いや、見ていないもん」と呼ぶ者あり）身近な方もやっておられるようですけれども、それは要するに、いろんなことで私はたたかれています。できるだけ抑えようと思ってやっております。私はこの会場に入ってくると、おお、何とかと叫ぶ人間もおりますよ。だから私は言う。議長にこの場で申し上げました。議会会議規則でしっかりそのところは確立をしてくださいと。私は裏でこそこそ話しませんよ、みんなの前でやっとなるんですよ。私が言ったことか言っていないことか、こ

これは要するに、ネットで皆さん見ていらっしゃるからですね。ですから、江藤さん、もう少し謙虚な気持ちで行政はやってくださいよ。（「反問権はいいですか、反問権は」と呼ぶ者あり）はい、どうぞ。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

まず、永島議員、いろいろありがとうございます、御示唆をいただいてね。

それで、永島議員、第三者委員会の定義というのをちょっと永島議員に説明しておきたいと思います。よろしいですかね。

第三者委員会というのは、何らかの問題が起きたときに、当事者以外の外部の有識者によって危機管理体制の再構築を迅速に、そして確実にを行うなどの目的で問題を検証する委員会というふうに定義が書いてあるんですよ。既に動き出している行財政推進協議会とかいうのと全く同じなんです。だから、利害関係がないとか、それから中立とか、あなたが言われたような、永島議員が言われた、そういうことは定義として書いてありません。それだけはちょっと申し上げておきます。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

江藤さん、私は十分にそれは分かっているんですよ、分かって話しとるんですよ。

メンバーについてちょっとお考えを変えられたらいかがですか。（「メンバーについて」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

先ほど申しましたように、今6人、有識者を選んでおります。ですから、あと1名か2名ぐらひは今検討中です。馬淵議員のときかな、今検討中です。だから、委嘱状を発行するように今検討しています。一応そういうことでお答えしておきます。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

私が言っているのは、十分に、真っすぐこの場で言うのが適当かどうか分かりませんが、市長経験者が2名おられます。あなたに一生懸命このことについて、要するに後ろについて、選挙中からやり取りをやっとるじゃないですか。しっかり応援してあったやないですか。それはイエスかノーかお答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私に対する答えですか。永島議員、1人は大牟田の市長をされた方なんですよね。もう一人は、元市長の方なんです。私は分からない部分があるから、もちろんここはどうすればいいか聞いたりしています。しかし、あの方はあの方の、どれが悪いかというのは分かって、僕のためじゃなくて、市のための政策をお諮りしながら、ああ、やっぱり比べたらこちらがいいんじゃないかと、それは自由ですから、その方の。私がこれがいいかと、そういうことをしたことはございません、それは。

ほかにも様々な人にいろんなことは聞いています、様々な人に。だから、その方だけじゃなくて、ほかのいろんな方にも聞いています。しかし、その人は誰を応援しようと思っただけなんですよね。ひょっとしたら違う人を応援されたかもしれないし、そこら辺は分かっていたきたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

知った知らないは、これは要するに結論が出ませんからですね。これは私だけではなくて、多くの皆さん方もそういうふうに思っておられる方はいると思いますよ。ですから、もう時間が過ぎましたから、今後、今日お話しできなかった分については、また全協でもお話をさせていただきたいというふうに思います。

これで私の質問を終わります。

○議長（遠藤博昭）

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は13時15分といたします。よろしく願いいたします。

午後0時16分 休憩

午後1時15分 再開

○議長（遠藤博昭）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、3番古賀寿典議員。

○3番（古賀寿典）（登壇）

皆様こんにちは。議席番号3番、古賀寿典です。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い質問をさせていただきます。

まず、岩手県大船渡市、大規模な山林火災が発生し、発生からもう1週間たつというふう
に言われております。焼けた山ということで考えますと、面積はおよそ2,900ヘクタール。
市の面積の9%というふうに言われております。大川市で考えると、86%になるということ
であります。前々日からの積雪や雨により、火災が鎮火することを今期待しております。地
域の方々が元の生活に早く戻れるように願っております。

それでは、質問のほうに参りますが、市長はこれまで様々なところで自分の考えをお話し
されてまいりました。しかし、ビジョンや公約について、議会等への下打合せ等がなく人事
案件などを出されています。市民の皆様も、どのように大川市を築いていかれるか、多くの
関心を持ってあると思います。

私は12月の議会で一般質問を行いました。通告外とか検討していますと数多く言われま
した。今回は、12月の内容をもう一度質問していきたいというふうに思っております。質問
につきましては、関連する質問等を質問席より直接市長にお尋ねしたいと思っております。
どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

まずは、前回12月に言いましたビジョン、公約、地場産業の活性化についてお尋ねをし
ます。

地場産業というのは、家具工業だけでなく、運送業や金物業、化粧合板業など、多くの関
連企業を含んでいると思います。このほかにも、農業や水産業という部分もあると思いま
すが、地場産業の全体を変えていくというふうにおっしゃっております。あまりにも抽象過ぎ

ますので、木工産業についてどのようなことを行われていくのかを質問したいと思います。

○議長（遠藤博昭）

江藤市長。

○市長（江藤義行）

古賀寿典議員の御質問にお答えしたいと思います。

大川は家具産業のまちということで全国的に有名でございます。それで、歴史的に見ますと、やっぱり大川は物すごい企業の数、五、六百社とか生産メーカーがございました。しかし、バブル崩壊後、本当に打撃を受けて、1990年ですかね、1989年がピークだったんですけどね。バブル崩壊が起きまして様々な企業が倒産しました。連鎖倒産がすごかったです。本当に大川のGDPが1年ごとに5%か10%ぐらい落ちるようなのが数年間ぐらい続きました。私自身もその体験がございまして、本当に生きた心地がしなかった、すごく苦しかったです。苦しみました。

その後、やっぱり様々な企業が努力して、ネット企業に業態を変えたり、それから、製造メーカーからネット企業に業態を変えたり、それから、材木屋さんもネット企業に業態を変えたり、様々な努力をしました。私も最近びっくり、最近というか、ここ数年、びっくりしているんですけど、私自身も大川の家具産業については、例えば、佐賀とか久留米とか福岡でも話す機会、あるいは柳川とかで話す機会がございまして、大川がどの程度変貌しているのかとか、そんなことも話しています。

これが、今から言うことが焦点になりますけど、本当に先ほど申しましたように、家具製造業が五、六百件から今100件ぐらいなんですね、110件ぐらいかな。それも福岡家具工業会とか、それから北九州、そういうところも含めて110件ぐらいなんですよ。

それで、ところが、その周辺の産業がかなり強化されて、あまり——あまりじゃない、もちろん影響力はありますけど、かなり独自の発展を遂げているということですね。これ自身も私、今度の選挙でいろんなところにお伺いするに当たって、私自身びっくりしました。例えば、古賀寿典議員が言われましたように、運送業ですね。運送業は本当に、例えば、自分のところの運送業自体が、家具のシェアがもう3割もないですよというところがあって私自身びっくりしました。かなり大きいところなんですけどね。そこは家具やなくて、それ以外の事業が圧倒的に多いと。例えば、食品を運んだり、あるいはコンビニエンスストアの商品を運んだり、すごい——何か。私説明しているんですけど、首をこうされているから、何か

おかしいんじゃないかな。（「すみません」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

すみません。今私が頼んでいるのが、どのようなことを行われていくのか。（「だから、今説明しているじゃないですか」と呼ぶ者あり）いや、それは前もってですから。（「あなた、そういうのを説明しないと分からないからです」と呼ぶ者あり）ああ、そうですか。

（「よく聞いてください」と呼ぶ者あり）じゃ、短くお願いします。（「短く」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

そういう歴史的な背景があって、私は大川の地場産業は物すごく強くなったと思っています。強くなったと思っています。

それで、今運送業界のことを言いました。木材業界でも輸出をしたりしています。それから、金物業界については、大川はほとんどないというところもございます。そして、全国的に売ったりですね。そういう格好で大川の地場産業がかなり足腰が強くなってきたと。

それ以外にも言いますけど、そういうことで、すごく足腰が、大川の地場産業としては、他業種も育ってきたというような感じで、少しうれしく私自身思っています。

こういう方面での、やっぱり大川市の市政もそういうところに目を向けないと、100社余りの家具産業だけに向けるとやっぱり間違うんじゃないかなという気がしてまして、今後、私自身が行動していきたいと思えますのは、そういう家具産業以外の方に目を向けて、どのような支援策ができるのかというようなことを、どういう格好でしょうかということで今いろいろ検討しています。早速、4月以降になったらこのようなことをやっていくという施策を打ち出したいと思っています。

それと……

○議長（遠藤博昭）

市長、質問は、施策の中身を答えてくださいとおっしゃっているんですけど。

○市長（江藤義行）続

中身を言っているじゃないですか。だから、もう一度言いますよ。

○議長（遠藤博昭）

全然合っていない。

○市長（江藤義行）続

これが施策の中身です。要するに今まで——じゃ、どういうことを、あなたが首をかしげているけどね、よく聞いてくださいよ。施策の中身というのは、家具製造業だけじゃなくて、ほかの産業がかなり育ってきていると、この苦しい時期を経てですね。だから、そういう人たちにも目を向けて、全体を押し上げるような施策を打ち出したいということなんです。どうしてそういうふうに至ったかということをお願いしました。そして、そういうことでやっていきたいと。いいですか。

それから、ほかにも……（「まだ」と呼ぶ者あり）言いますよ、まだ。（「いや」と呼ぶ者あり）もういい。（「はい。よかです」と呼ぶ者あり）はい。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

今、運送業について、ほかの業者についてどのようにされるかというのをちらっとお話がありました。じゃ、木工産業、輸出とかいろんな部分が出てくるかも分かりません。前回は、どこに、どこの国に狙いを絞っていくのかというのを若干聞いたと思います。

そこで、まず、木工業をどのように、伸ばしていくために大川市として、商工会とか工業会とかと一緒に何かこう進めていく、狙い、こういうのを進めたら大川の家具がもう少し伸びていくんじゃないかなというふうな部分がありましたらお答え願えますでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

来年度の事業に、インテリア課が首都圏にアンテナショップを設けるとか、それは常設はなかなか厳しいと思うんですけど、そんなこともやっています。もちろん家具産業は大事ですから、家具産業の支援は従来どおり充実させていきたいと思っています。

そして、あと輸出なんですけど、輸出は、今、建具業界でもヨーロッパのほうに輸出を、一応足がかりをつかめたというようなことなんですけどね。それで、今、大川から輸出して

いる地域というのは、香港、台湾、中国、それから、あと私自身が一番可能性があるなというのはアメリカだと思っているんですよね。私もあるところ、私も若干関係しているもので、そこはアメリカに結構輸出をしております。そういう格好で輸出も大事だということで、様々な支援とか、そんなのもしていきたくい。香港、台湾、中国、それからアメリカ、そして、ヨーロッパは家具としては、私もヨーロッパのほうを視察してきたんですが、やっぱりちょっと家具はなかなか厳しいのかなということで思っています。

それで、建具業界がちょっと今ルートを開いているということで、それにも大変期待したいと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

大体のことが分かりましたけど、今後このことについてもまた検討を進めていく、インテリア課かれこれとお話を私もしていきたいなというふうに思います。

それでは、このほかに、全体を変えていくというふうに市長のほうは言われております。これは何を、システム化ということが言われておりますが、どういうことをシステムを通して大川の全体を変えていこうというふうに思われているのか、教えてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

古賀寿典議員が言われているのは、大川の全体を変えて、システムを変えていくというのは、どういうくんだりで私は言ったんですかね。（「これは今さっきの」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

これは大川市全体を変えていくのに、システムを通して進めていった方がいいんじゃないかというふうに言われたと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それは、全体を変えていくというのは、やっぱり地場産業が様々なところで恐らく有機的に絡み合っすぎて強くなっているということを使ったと思うんですね。

それであと、寿典議員への答えになるかどうかは分からないけど、まちづくりをどうしようかというのも、そういうことを言われているんですかね。よろしいですか。

まちづくりについては、私は、やっぱり人口減の状況を見て、どうやって将来の大川を、そして子どもたちに、子どもたちが継げるような大川をどうやって築いていくのか。やっぱり子どもたちに将来負担になるようなことはできない。それは人口が増えている時期だったらいんですけど、今後、人口減が——ぜひ人口減は緩やかにしたい、止めたいということをつくづく思っています、それは。しかし、今の状況ではやっぱり止めるということはなかなか私自身厳しいんじゃないかなと。もちろん、減るのは、一生懸命努力します、それは様々な活動ですね。

ただ、1つ、大川にまちづくりとして光明があるなと思ったのは、大川にも地区的には人口増もあって、それから、世帯数も増えている地域があるんですね。私、それも本当にびっくりしたというか、それで大変喜びました。大川が人口減とかそういうのを少しはね返すスポットというか、地域があるということに気づきました。その地域はどんどん増えているから、区長さんたちが、増えているからいろいろ無理になるから2つに分けてくれと。分けてくれというのを10年ぐらい前から要望していたらしいんですね。なかなか応えられないということで、私に要望が来ましたから、それはいろいろ事情を聞きました。それはすぐするよと言いました。そしたら、これは面白いもんですね、そういう格好で応えると、今度は区長さんたちが住みやすいまちづくりしようとして私に答えてくれるんですよ。例えば、花を飾りたいとか、それから、モッカランドがありますね。あそこを緑化したいとか、そういう意見が来るんですよ。ぜひそうしたいと。そうすると、それは私が言ったんじゃないんですよ、区長さんたちから言ってくるんですよ。市政というのは面白いもんですね。いろんな地域のいろんな不満とかに答えてくると、ぱっと反応が来ます。これは本当に私、市政を担当して、私の喜びです。

そしてもう一つ、ここがあると、ここを起点にまちづくりがどんどん、住みやすいまちづくりが発展していくんじゃないかなという期待感と希望があります。これはある意味じゃ、大川のまちづくりにとって非常にもう喜んでおります。

一応そういうことですね。例えば、福岡県でいいますと、福岡都市圏というのが伸びているんですよ。だから、大川のまちからすると、ここの地区だけが伸びているというような格好で、ここの地区を伸ばしていきたいと、それで広げていきたいというふうに思っています。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

これは、この市役所の近くのことだろうと思います。私たちも考えないかんのは、そこだけを鑑みるだけやなくて、じゃ、その外側、今さっき言われるように、福岡県、市であれば福岡の周りがすごく発展していっていますよね。でも、大川の場合は外側は少なくなっているわけですよ。じゃ、そこはどのように、本当であればそっちをもう少し考えないかんのやないですか。だったらそちらを、じゃ、どういう対策を打つのかというのも考えていくんじゃないんですか。地元のここだけ、この地域だけじゃなくてですね。それは大事なことだろうと。特に私は道海島ですから一番離れですよ。ストアありません。コンビニもありません。大事なところはそこなんです。そこら辺をどのように考えてあるか。短くお願いします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

古賀寿典議員、人口の増の時代というのは、まちづくりというのはどんどん外に出ていってよかったです。増えているから。収入も増えてきてですね。じゃ、人口減の時代のまちづくりというのはどんなのを、反問権です、どういうことと思いますか。反問権。どうすればいいと思いますか。（「いいですか」と呼ぶ者あり）はい、どうぞ。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

当然、中心地に必要だと思います、集めるということは。でもそのほかに、やはりその周りにいる人たちのこともしっかり理解して市政に尽くしていく、何かを持って行ってやらんといかんとやないかと思うんですよ。これが市政だと思います、私として。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私が言いたかったのはそこなんですよ。人口減の時代のまちづくりとしては、中心部に集めていくのが一つの大きなものなんですよ。

それで、地方はどうするかということなんですよ。地方はね、何と思われませんか。地方はどうすべきだと思いますか。（「いいですか」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

こんなやり取りでいいのかどうか分かりませんが、どっちかという、それを答えてもらうというのが私の質問でしょうから、どっちかという、私は外からの人たちのために、じゃ、今交通の便が悪いとかいろんな形。これは後で話すつもりでおったんですけど、そこら辺があると思うんですよ。ですから、それに対して市長はどう思われているかというのを教えて、言ってください。（「僕は何度か言ったと思うんですけど……」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長、不規則発言になりますから、きちっとお願いします。市長。

○市長（江藤義行）

だから、人口減の時代というのは、地方はどうするかということなんですけど、地方はまた地方の見方がある、地方で若干にぎわっているところ、そこに集約するような、各地方で集約するような、少しずつ集約するようなですね、そういうような格好でしていくのがベストじゃないかなということで様々な情報とか本にも書いてあります。

だから、何度も言いますように、人口減時代というのは中心部にコンパクトに組織もまとめる。それから地方は、やっぱり地方でそういうような地方版というのをつくっていくと。だから、地方でにぎやかなところに少しずつまとめる。

そして、買物のことも言われましたけどね。だから、買物サービスとか、そういうのは福祉的にやっていくというような格好で、大川市全体のまちづくりを私はそんなふうにかけていったらいいんじゃないかなということを思っています。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

それでは、この後またいろんなことで話すことが出てくるだろうと思います。検討していく部分になると思います。

質問をちょっと変えますが、これまで何度も外部コンサルタントに参画してもらい、産業の活性化を図られてきました。よい結果が得られない。大川のことをよく得られないときですよね、得られないと思われたときに、大川のことをよく理解した人に施策の旗振りをしてもらいたいというふうに市長のほうから話がありました。これは市長本人のことでしょうか、第三者のことでしょうか、どっちかということだけ教えてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

コンサルタントというのは皆さんね、いろんなマスコミでも騒がれていますが、地方自治体が今コンサルタントの犠牲になっているということもいろいろ書かれていますよね。だから、コンサルタントは、コンサルタントがいろんな美辞麗句を使った言葉を、それを理解する能力がないと、それに対して検証する能力がないと、ただ単にコンサルタントに終わってしまうんですよ。だから、これは本当に私たちの地方自治体の能力というのが試されているんですよ。だから、それはぜひ注意しなきゃいけないと思っています。コンサルタントは、頼むと、やっぱりこれでいい気になってしまわないように、本当にそのコンサルタントに払ったお金が市民のお金ですからね、それを実行できるように、私たちも含めてそれを実行できるようにしなきゃいけないと。コンサルタントに頼んで安心してはいけないということですよね。しかし、コンサルタントに頼むのはやっぱりお金がかかることだから、やっぱり慎重でなけりゃいかんというふうに思っています。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

ということは市長本人ではなく、第三者の方をコンサルタントとしてそこに持ってくるということで考えていいわけですね。（「はい」と呼ぶ者あり）それだけ。（「だから、はいと言っている」と呼ぶ者あり）はい、分かりました。

じゃ、続けて行きます。じゃ、第三者ということで、どのような方を選んでいかれるような気持ちでおられますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

先ほどあなたが言いました、その前にちょっと言いましたことなんですけどね、今後、何か事業を展開するに当たって、まず自分たちで、自分たちが一番この大川のことを分かっているんだから、計画を、で、やっぱり自分たちでつくる、そしてつくって、何か聞きたいことがあるとか、ネットでするとか、あるいは様々なことをするときには、それでどういうところに頼んでいくのか、その事業によって選択しなきゃいけないと思います。なるだけやっぱり自分たちでできる能力を育てないと。

普通、民間はそんなに簡単にコンサルタントに頼んだりしないんですよ、お金がかかるから。それで、それはコンサルタントに頼んだら安心してはいけないんですよ。だから、コンサルタントを選ぶときに、あるいは発注するときには、自分たちがコンサルタントが提案したのを分析する能力がないと駄目になってしまいます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

これは私も新聞、テレビで見たのかどうか分かりませんが、Z世代課というのをつくられた市があると思います。聞かれたと思いますが、Z世代課。（「Z世代は知っている」と呼ぶ者あり）うん。その課をつくるということなんです。若手だけの課をつくと。そうすると、こういうコンサルタント業務というのをそこで集約してしまう。そこでの話合いができれば進むんじゃないかというのも、わあ、すごいなというふうに私も思いましたので、そういう課というのも検討して行ってほしいと思います。

それでは、こういうのをしっかり未来を託す大切な内容ですので、人選とか、大川市の将来の展望にふさわしい内容で人選をしてほしいというふうに思います。

続きまして、子育て支援についてお尋ねをします。

現状はモッカランドが子育て支援の中心となって進められていますが、モッカランドの利

用者、活動内容、現状についてお聞きいたします。

○議長（遠藤博昭）

古賀子ども未来課長。

○子ども未来課長（古賀章子）

お答えいたします。

モッカランドの利用状況といたしましては、令和5年度1年間で4万3,717人と多くの方に御来場いただいたところございまして、令和6年4月には来館者累計が10万人を超えたところございます。特に、小学校に入る前のお子さんが遊べるモッカルームの御利用が多くて、令和5年度は2万4,453人の御利用がございました。そのほか、年間を通して親子で遊んでいただける楽しいイベントも開催しておりまして、市内外からたくさん御参加いただいているところございます。

また、モッカランドでは、遊び場としての機能以外に、子ども家庭センターとして子育て家庭の相談支援に対応しておりまして、発達相談や発達教室には令和5年度で2,476人の御利用が、また、家庭児童相談は実件数として350件の相談対応を行ったところございます。このほか、母子手帳の交付、乳幼児健診、パパママ教室等、妊娠期から子育て期まで切れ目なくサポートを行っているところございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

ここで、昨年1年間、今その中でどのくらいの、市外といいますか、市内と市外の差がひとつ分かれば。その後——これは1つずつ行きたいと思います。じゃ、まず、市内と市外、県外の割合を分かれば教えてください。

○議長（遠藤博昭）

古賀子ども未来課長。

○子ども未来課長（古賀章子）

御来館者数ということでさせていただきますと、令和5年度で、市内の御来館者が2万721人、市外からの来館者数が2万2,996人でございます。県外という取り方はしておりませんので、失礼いたします。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

どうもありがとうございます。

それから、毎年、数多くの県外からの視察が来られておると思います。受入れ状態というのは年間どのくらい、昨年だけでも結構なんですけど、どのくらいの、視察に来られる数というのを教えてもらえますか。

○議長（遠藤博昭）

古賀子ども未来課長。

○子ども未来課長（古賀章子）

視察においでいただいた数ということでございますが、令和5年度の実績で延べ29団体、人数で310人の方にお越しいただいております。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

ありがとうございます。

それと、もう一つここで聞きたいのが、利用者の評価、モッカランドに対する評価、恐らく何か記載されているとか、利用についてのアンケートとかありましたら出るんじゃないかというふうに思うんですが、評価として何か分かる部分があれば教えてもらえますか。

○議長（遠藤博昭）

古賀子ども未来課長。

○子ども未来課長（古賀章子）

ありがとうございます。モッカランドそのものについてのアンケートは実施したことがないんですけども、手前みそながらよくお伺いするのは、こんな施設はなかなかほかにはない、とてもいい施設ですねというような感想はよくいただいているところでございます。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

この施設はやっぱり大事にしていかないかんたろうというふうに思います。今後もここか

らしっかり、小さい子ども、これはひとつ、課長と今後話していかないかんでしょうけど、小学校の低学年ぐらいまで、どこまでか、幼稚園まで、保育園までという規制がどうしてもあるんですけど、そこをもうちょっと考えていった方がいいのではないかなというふうに私は思っているところがございます。この間もちろっとお話ししたんですが、そこら辺の検討を今後できたらなというふうに思っているところです。

市長のほうにちょっとお聞きしたいのですが、今後の子育て支援施設について、モックランド以外にどのようなものを考えてあるのか。検討されているかどうか分かりませんが、あったら教えてもらえませんかでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

子育て支援施設ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）何歳までの子どもさんを言われている、全体。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

基本、幼稚園までということだろうとは思いますが、今までの考え方からすればですね。今さっき課長のほうとちょっと話しよった、何歳か、幼稚園を卒業して、何歳までかというのは今後の検討だろうと思しますので、まず支援施設としては、幼稚園まで、小学校に入るまでということで検討、考えてもらえればというふうに思いますが。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

今、モックランドがありますから、これ以上、何かニーズがあればまだ検討はしなきゃいけないと思っていますけど、今のところ、こういう子育てのでモックランドみたいなのか、あるいは別業態のを何か欲しいという、今のところ私まだ聞いたことがないし、私自身、今のところ見当たりません。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

分かりました。いろいろとあると思います。私も大川市から市外のところにいろいろ見に行くと、施設の中には遊具があったりとか、いろんな形が様々なところにあります。

大川の場合はどっちかという、いろんな部分で、危ない、木を使った部分とかいうので外さないかとか、いろんなところが出てきて、これも都市計画課とかなり話を今進めているところなので、そこら辺、今後の取組として私も進めて、考えて、各課と話をしていきたいというふうに思っているところです。

次に、1つだけちょっとお聞きしたいことがありまして、これは予算委員会にひょっとして引かかる可能性もあるんですが、給食費、医療費の無償化について、これは予算委員会で当然検討されていくことだろうというふうに思っております。

医療費については、前市長が15歳までの無料化についてはしていこうというふうに話をしてくれておったと思っております。給食費の無償化について、予算委員会でも話があるとは思いますが、このことについて、前回もこれは話したんですが、近隣の市町村と一緒にになって検討されたことはまずありますでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いやいや、こういうのは独自の施策ですから。ただ、私が打ち出したために、私より先にやっているところもございます。ですから、これはもうぜひやりたいと思っています。私の公約だしですね。そして、若いお母さん方、3人、4人の子どもさんを持っておられる方も、あるいはいろんな若い主婦の方が期待されて待っておられるんですよ。だから、本当これはぜひやりたいと思っています。

今、本当に何度も申しますように、物価高で苦しんでおられて、これは本当は4月からやればやりたかったんですけど、少し体制が整わないということで延びたんですけど、私より後のところが先にやったりして出てきていますから、ぜひ来年度からの、10月からはぜひこれをやっていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

このことについては、1回してしまうと、ずうっと将来までしなきゃいけないというような事業になってくると思います。当然、大川市がすれば、周りの市町村というのはすごくきつがりますよね。一緒にやっぱりせないかんというふうに検討してくるでしょう。

大川市が前もってするというのはいいことだろうとは思いますが、このことは大体国の施策だろうというふうに私は思っております。国のほうも今度の予算委員会、国の予算委員会で、令和7年4月からやったですかね、令和8年か、来年の4月からやったですかね、導入するという——失礼しました。8年だったと思いますが、導入するというふうに話が出ています。御存じでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

知っているか知らないかだけで結構です。市長。

○市長（江藤義行）

時期は定かでないんですけど、これは国でも議論されていることは確かです。しかし、地方自治というのは、地方はいろんなところが違うんですよね、地方の財政状況も違うし、いろんな条件が違うからですね。地方は地方で独自にやっているのが、ある意味じゃ地方自治のいいところなんですよね。ですから、いろんなところの、例えば、明石市なんかは10年以上前からやっていますよ。だから、そういうことで先取りしていきたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

そういうことであれば、陳情とかなんとか、国のほうに陳情とか、そういうのは全く行かれていないだろうというふうに推測されます。よろしいでしょうか。そのことについて、陳情等は、ここら辺の市町村の長と一緒に国のほうに、給食費の無償化について、ぜひやってほしいというふうな要望とか話をしに行かれていますでしょうか。これはないとは思いますが。どうぞ。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それは全然していませんよ。ただ、近隣の市町とはこの話でいつも話しているんですよね。わあ、うちもしたいというような、僕らよりも10倍ぐらい人口の多いところも、いや、したいと。ちょっと今回は、来年にしようかなとか。いや、もうほら、大牟田の、隣の町は、この前、新聞に載っていたように、独自にやるということですね。それから、うきはとか、あるいは医療費をやるとかですね。もう本当に、私が言ったというようなことじゃないんですけど、様々な影響を及ぼしているということで、そういう状況にあるということだけは理解していただきたいと思っています。

ただ、これを市町村を集めて団体ですとかいうのは一度も話には上っていません。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

山口福祉事務所主幹。

○福祉事務所主幹（山口 馨）

給食費無償化に関する国への要望についてお尋ねでありますので、お答えいたします。

本市におきましては、平成28年に設立されました子どもの未来を応援する首長連合に設立当初から加盟をしております。加盟自治体数は全国173団体となっております。福岡県内では久留米市、田川市、うきは市、赤村、それと本市の5団体が加盟しております。

活動内容としましては、子どもの貧困の解消に向けた対策のための財源確保、制度改革等に関する国への要望などとなっております。国への要望活動については、毎年、国の予算編成期に行っているところでございます。

それから、お尋ねの給食費の無償化に関しましては、国による整備体制の確立と財源確保について、令和5年度から要望事項として取り組んでいる状況にございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

ありがとうございました。やはり前から少しずつ検討されているというのがよく分かりました。財政的な部分もありますし、予算委員会でしっかりここら辺については検討していただきたい。大牟田については給食費増額というふうな話が出ていますのでですね。ほかにもいろんなところで給食費無償化について検討されているというのは分かっておりますので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、子育てしやすいまちづくり、これは今さっきの中にも若干出てきたんですが、これはちょっと外しておきます。

それでは次に、福祉の高齢者支援についてお尋ねをしていきたいというふうに思ひます。

高齢の皆さんの健康寿命の増進に向けた運動や体育館など、スポーツ環境を整えるというふうに市長のほうから話がありました。

その中で、その反面、社会保障費も異常なくらい増加していると言われていひます。その中で、最低限の施設を整えていかなければいけなひというふうに話をされたと思ひます。これは12月議会のときの話で、その中にこういう言葉を市長のほうから出してもらっています。最低限というふうな言葉を使われまひました。それで、具体的に何をされようとしていひるのか。この福祉強化について、何かありまひたら、新しくこういうことをやりたいといひることがありまひたら答弁をお願ひしひます。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私の意見で、3番に当たるんですか、今言われたのは。質問の。（「はい」と呼ぶ者あり）
3番ですか。（「3番の中の関連質問になります」と呼ぶ者あり）

まず、寿典議員の質問は、買物弱者支援の内容についてといひことですよね。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

ですから、関連として、最初も言いまひましたように、12月のときに質問して、それが通告外といひうふうに言われた分についても質問をしまひすといひうふうに最初言いまひしたので、今考えておられることだけでも結構ですので、お話を願ひしひます。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

今、古賀寿典議員から一応質問が来ているのが高齢者支援といひことで、市長の選挙公約の買物弱者支援の内容について、12月の一般質問のときに現状調査をして進めたいと答弁さ

れましたが、その現状調査はどのようになっているか、宅配サービスは何を想定するのかと、このことですかね。どれ、どこの……。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

そこの通告にはありません。ありませんで、言いましたとおり、12月のときに話をしました。（「ないわけですね」と呼ぶ者あり）はい。そのことについて、どういうことをしていきたいのかというお考えを聞いているところです。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

すみません。私がこういうところでそういう質問をされるとは思っていなかったものですから、再度よかったら質問、出されていなかったものですから、再度ちょっと簡潔にもう一度おっしゃっていただけますか。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

運動場とか体育館とかスポーツ関係の環境を整える、これはグラウンドとかいろんな部分があると思いますが、そういうのを整えようというふうに思われていると同時に、今度は社会保障費が異常に高くなっているというのも答えられたんですよ、その場で。じゃ、そのギャップといいますか、つくろうとするのと、その費用が高くなる、これは運動をうんとしてもらって元気になってもらえれば社会保障費というのは下がっていくというふうには言われています。

そこら辺で考えられるのは、最低限どういうものを造って市民のために、福祉のために、利用していけるかどうかというところを若干お話ししてもらえれば、どういうものを造っていきたいなど。もう全然造る必要はないと言われればそれで終わるんですけど、何か一言お願いします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

端的に言いますと、高齢者支援のための設備とかそういう意味ですか。（「そうです」と呼ぶ者あり）分かりました。

高齢者の方々については、今、グラウンドゴルフとか、それから、健康福祉センター、あれで様々な運動用具も買って進めておられます。ですから、既存の設備の内容について充実していくというようなことも一つじゃないかなと思っていまして、それともう一つは、グラウンドゴルフ、例えば、和式のトイレを洋式に変えて、そういうのをするとか、それから、今その運動場が暑くて仕方ないと、夏は倒れるよと言われますから、その緑化も一緒に進めようかなという気がしています。

それと、老人施設の運動施設としては新たに何か設けようということは今考えていません。従来の施設で、動きやすいような環境づくりをしていきたいというふうに思っています。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

それでは、この項目を出している1つ前をちょっともう一つ行きますが、前回の、これは市長の答弁の中に、電話がかかってきました、風呂についてどうのこうのというのがありました。

それで、暮らしていけない、風呂に入れないという話があつて、今の状態ではいけないというふうにちょっと言われてはおるんですが、今の福祉センター、あつたときの利用の状況とか、現在の大川荘での利用の状況等についてお話をしていただければというふうに課のほうにちょっとお話ししていたんですが、よろしいでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

江崎健康課長。

○健康課長（江崎くるみ）

今の健康福祉センターで行っておりますお風呂困窮者支援事業について、今の御利用者状況をお伝えいたします。

令和4年度から始まっておりまして、令和4年度の利用者数1,649人、令和5年度は1,609人となっております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

これは今の現状といたしますか、今、大川荘のほうに車で行って、バスで行って帰ってくる、こういうふうなピストンをされていると思いますが、そのとき私もここの議会において、入浴するためのその資材が壊れて、使うことができないと。それは費用がすごくかかるというようなことで話があって、一応こっちの福祉センターを閉館するというふうな形になったと思います。そのときの状況ですか、分かれば福祉センターがあったときの利用状況とか、分かれば若干、今の状況と照らし合わせることができやすいので、分かる部分がありましたら教えてもらえませんか。

○議長（遠藤博昭）

江崎健康課長。

○健康課長（江崎くるみ）

老人福祉センターについて、その閉館に当たりましては、築40年が経過をしております、空調とかボイラーとか、トイレ、屋根などの修理が必要な状況があって、施設の老朽化がありまして閉鎖をするということになり、その機能を今の健康福祉センターに移転することになっております。そのときに、健康福祉センターには入浴施設がないということで、お風呂困窮者支援事業ということで、お風呂の入浴サービスを実施しているところです。

老人福祉センターを利用されてあるときの利用者の状況について報告をさせていただきますと、このお風呂の利用者については集計をしておりますのでお答えはできませんけれども、老人福祉センター入館者数についてお答えしますと、コロナの影響がありますけれども、令和元年度は1万6,247人、1日当たりの利用者数は54人ぐらいということでございました。令和2年度は1万3,648人、1日当たり45人ぐらいということでございました。令和3年度が7,244人、1日当たり24人となっております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

どうもありがとうございます。私としては、今行ってもらっている内容が今のベストでは

ないかというふうに思っているところです。これをまた元のようにするというのはちょっと大変なことで、財政的には難しい部分が出てくるだろうというふうに私は思っております。今後どのように進めていくかは、いろんな検討をしていく部分があると思いますので、そこら辺は今後進めていきたいなど、話し合いをしていきたいなどというふうに思っているところです。

最後に、買物弱者について、ずっとお待ちであると思っておりますので、買物弱者、宅配サービスや移動販売などについて、支援について、大川市の状況をまず教えてもらえたらというふうに思っているところです。3番目のところですが、現状を進めてどのような取組をされたいと考えてあるのか、市長のほうで、課長のほうで言ってもらえるかどうか、そこら辺、じゃ、市長のほうでお願いします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

3番目の高齢者支援についてということで、質問が、市長の選挙公約の買物弱者支援の内容について、12月の一般質問のときに、現状調査をして進めたいというふうに私が答弁したということなんです。その現状調査の結果はどのようになっていますかと。宅配サービスは何を——そういう質問なんでしょう。（「そうです」と呼ぶ者あり）はい、分かりました。

お答えします。

現状調査は今のところ行っていませんが、市の現状としましては、市がシルバー人材センターに委託している高齢者家事サポートサービスという家事支援のサービスがありまして、その中で掃除や洗濯、買物などの家事全般を支援しております。

また、グリーンコープ生活協同組合福岡と協定を結びまして、グリーンコープが所有する移動販売車を活用した移動販売モデル事業の中で、食料品や日用雑貨等の移動販売を行っております。

そのほか、田口校区では、ドリームたぐちという有償ボランティア団体が家事支援を実施いたしております、その中で買物支援も実施しております。

また、これらのサービスの実施状況と、宅配サービスは実施していないことを確認したところでございます。

困窮していると直接訪ねてこられたり……（発言する者あり）

以上です。

○議長（遠藤博昭）

3番。

○3番（古賀寿典）

私の持ち時間があと何分かになりましたので、ちょっと課長のほうにも聞きたかったんですが、今後、次に回したいと思います。

高齢者の方々に、今後のことなんです、どのような福祉制度があるのか。利用される福祉制度ですね。分かりやすく説明し、大川市のほうからは説明して利用いただけるような工夫をしていってほしいと思います。そうすることによって、元気になってもらうということも大事なことですし、そうすると保障費のほうも下がってくるというふうに思いますので、そこら辺しっかり検討をしていってもらい、これで私の質問を終わりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

次に私が一般質問を行いますので、古賀副議長は議長席にお着き願います。

ここで議長職務の交代のため暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は2時25分としますので、よろしく願いいたします。

午後2時13分 休憩

午後2時25分 再開

○副議長（古賀寿典）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、11番遠藤博昭議員。

○11番（遠藤博昭）（登壇）

皆さんこんにちは。議席番号11番、遠藤博昭です。

通告に従い一般質問をいたします。

江藤市長が市長に就任され、はや4か月が過ぎました。いろいろな場面で市長と御一緒する機会も増えました。時々お話することがありますが、大川市政とか大川市のまちづくりに関するお話は、市長の口から語られたことは一度もありません。この3月議会では、ぜひ江藤市長のまちづくりに対する構想や、それを実現するための政策があればと思い、質問する

予定でしたけれども、先ほど古賀寿典議員の質問でもってビジョンはよく分かりました。人口減少を止めたい、それから、子どもたちが残るようなまちをつくりたいと。その中で様々な努力をしていただくというお話を聞きました。もしその様々な努力の中に具体的な政策があれば、幾つでも結構ですので、お答えいただきたいと思います。

そのほかの質問は、質問席より行わせていただきます。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

まちづくりについて、全く古賀寿典議員と同じような内容なんです。ちょっと私、何も今資料がないものですから、私が大川市の市政を、市のまちをどんなふうにしたいとか、まちづくりにはこうすべきだというようなことを、約4か月ちょっとなって感じたこととか、やっぱりこんなふうにすべきじゃないかなということを簡単に述べたいというふうに思います。

やっぱり大川市は皆さん御承知のように、家具のまちとして有名ですよね。地場産業というのは日本全国至るところにあったんですよ。ただ、バブル崩壊後、全国的に地場産業が壊滅的な打撃を受けました。ところで、残っているのが、特色ある、例えば鯖江とか、大川もそうなんですけど、そういう特色あるところが残ってきました。しかし、本当に大打撃を全国の地場産業は受けました。本当に大川の地場産業も、先ほど古賀寿典議員の質問に言いましたように、バブル崩壊後、様々な逆境が、倒産の嵐でした。あんな経験は恐らくないんじゃないかなというぐらいにすごい経験をしてまいりました。本当、大川の人たちはあの経験を糧として、影響が及ばないようにということで、先ほど古賀寿典議員のときも言いましたように、他産業が今までは大川の家具業界にぶら下がり資材を供給するとか家具を配送するために、家具だけの配送とかですね、何度も申しますけど、そういうようになってきたのが、自助努力で、本当に家具のシェアは1割もないとか、2割か3割とか、そういう格好で様々な努力をして他産業が育ってきていると。もちろん、福岡県とか北九州市の家具業界も含めて110件ぐらいなんですけど、5分の……（「市長、その話はさっき聞きました、寿典議員のときに」と呼ぶ者あり）だから言っているじゃない。（「はい。だから、復唱される必要はないです。施策があればそれだけを答えていただきたい」と呼ぶ者あり）

だから、そういう産業も含めて支援をしていきたいと。今までは家具産業だけというよう

な、そういう支援だったんですけど、そういう他産業が頑張っているんですよ。これを、トラック業界は全国的に展開しているところもあるし、そういう格好で、何かそういう支援をできないかなというようなことを今考えていまして、4月から新たな取組をしたいなということだと思います。

それはどういうことかと申しますと、様々な他業種との懇談会をしたいと。今までは家具業界が中心だったんですけどね。それで、他業種との懇談会を一応今のところ計画しています。それで、組合、ほとんどありますからね。そこと懇談会して、今、大川が抱えている問題とか、あるいは他業種が抱えている問題を洗い出して、皆さんの意見を聞きながら、じゃ、大川市としてどう支援すべきかというようなことも考えていきたいと思っています。例えば、物流業界だったらやっぱり広い敷地が要るんですよ、物流倉庫も必要だし、あるいはトラックを置く場所も要りますからね。そんなことも考えて、来年4月からそういうふうな取組も、ニーズを聞き取っていききたいというふうに思っています。産業的にはそういうことで、非常によく言われる重層的な産業基盤構造をつくれたらなというふうに思っています。

それ以外に、今度はまちづくりの在り方なんですけど、大川市はどういうまちづくりがいいかということなんですけど、先ほど古賀寿典議員のときにも言いましたように、もうこれはいいですか、高度成長期はどんどん広めているんですよ。（「もういいです、さっきも聞きましたから。そこはよく分かっていますので」と呼ぶ者あり）減少期はまとめていくと、そういうのをやっていきたいと思えます。もちろん、田舎のほうもぜひやっていきたいと思っています。

それともう一つは、やっぱり僕らは、私たちは一人ひとりから負託を受けています。本当に今回、市政に私初めてして、様々な人から苦しいと、それから、ゴミ袋を無料で支給してくれないとか、それから、よそは1家庭ずつ米を5キロ配っているじゃないか、そういうことはできないとか、そんな様々な声を聞いて、もう本当これが大事なことなんですよ、そういう人たちの意見を聞くのは。それは私自身、苦しいですよ、こんな状況になっているかと思うのは。皆さん、本当にこの物価の打撃を受けているのは一般市民です。大川の人たちなんですよ。その痛みが私自身もずしんずしんと来て、だから、風呂が入れないというふうに来られた方もおられまして、そういう方々に対して、一人でも取り残してはいけないんだということを申しています。本当ね、これ……（「市長、現状を聞いているのではなくて、市長の施策」と呼ぶ者あり）現状を聞かないとあなたたちが分からないと言っている。

（「いやいや」と呼ぶ者あり）そのためにまちづくりは……（「施策がなかったらいいですよ」と呼ぶ者あり）いや、あるやん。だから、そういうような……（「具体的施策ないじゃないですか。今から、4月から……」と呼ぶ者あり）今言おうとしているじゃないですか。そういう人たちがいるから、まちというのは、市政というのは、やっぱりそういうような人たちにも十分目を配れるような、そういう優しい市政を目指したいと思っているんですよ。

先ほども申しましたように、お子さんを持っておられる若い主婦の方々、本当に苦労されています。そういう方々にも寄り添っていきたくて。そして、いろんな話をしながら、何が市としてできるのかというふうなことをですね。だから、資金は、大川の財政は厳しいですよ。その中でもやりくりしながら、そういう人たちのためにお金を使っていきたい。もう本当つくづく思っています。（「はい、分かりました、どうぞ」と呼ぶ者あり）よろしいですか、これだけで。（「はい、いいですよ」と呼ぶ者あり）

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

その現状は先ほどの古賀寿典議員のときに十分聞きましたので、僕はその具体的な施策を聞いたけど、市長はまだ4月以降でみんなと話し合わないという施策は出てこないというふうにおっしゃっているだけの話じゃないですか。

そこで、前回質問した大川市の商品開発事業に関するコンサルティング契約には疑義があって、契約自体どこでつくられたか分からないと。契約書自体、リーガルチェックも行われていないと。このまま続けたら私の責任になると発言され、すぐにでも解約する勢いでしたけれども、結局、今年度の3月末までの契約をしたとお聞きいたしました。

この3月末まで契約を維持された理由と、その経緯を教えてください。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

本当に道の駅を、「大川の駅」を廃止というのは、本当に大事業でございました。これをどう秩序立って廃止に向けていくかというのは、まだ跡地の問題も残っています。私が取り組んで廃止するために、例えば、コンサルタント契約とか、今まで様々進んでいるところを

やめたり修正しなきゃいけないんですよ。

まず、コンサルタント契約はどのようなのがあるかと。コンサルタント契約は解除は解除していかないかんですよ。だから、ある大手のコンサルタントも解除しました。一番私が悩んだのが、食品開発なんですよ。これが昨年4月に契約されているんですよ。実際動き出したのが昨年8月です。8、9、10と、分かりますか、この時期何か。1回目の会合、委員会を開いているんですよ。2回目の会合。

それで、契約書の中身を見せてもらいました。契約書の中身というのを見せてもらって、これは「大川の駅」で売るための商品開発というふうになっているんですよ。だから、私自身は、「大川の駅」で開発するための商品開発だから、この契約書はもう無効だと、もう解除しなきゃいけないと。

○副議長（古賀寿典）

市長、質問の趣旨からちょっと外れていると思いますが。

○市長（江藤義行）続

何で外れているんだ、あなた。合っているじゃない。

○副議長（古賀寿典）

契約について。

○市長（江藤義行）続

だから、今言っているじゃない。今契約について言っているじゃない。契約書が「大川の駅」のための……

○副議長（古賀寿典）

分かりました。どうぞ。

○市長（江藤義行）続

何、せっかく話しているのに。

契約だったんです。もう一度言いますよ、契約書自体は「大川の駅」のための商品開発の契約書だったんです。僕は言いました。これはリーガルチェックしたのかと。していないと言うんですよ。リーガルチェックというのは、契約書というのは、私たちがお客様だから、コンサルタントの有利な契約にしちゃいけないんですよ。私たちが市民に迷惑をかけないために、そして、無駄遣いをしないためにリーガルチェックをするんですよ。私たちの有利なように契約書をするんです。例えば、何か問題が起きたときに弁護士との競争になって、

やっぱり裁判に訴えることがあるんですよね。そしたら、よくコンサルタントの地元の東京の裁判所ですとかなっているんですよ。そしたら、裁判するときにはしょっちゅう……（「そんな話は要りません」と呼ぶ者あり）要りませんで、聞いてくださいよ。だから、そういうのがリーガルチェックというんですよ。そういう一例を出したまでなんですよね。

それで、そういうのもあると、リーガルチェックしたのかと言ったら、いや、全然してないと言うんだ。それはいろんな過程がありまして、これは「大川の駅」のための契約書だから当然廃止せないかん。ここは悩みました、それで。ただ、まだ、今まであのとき三、四回しか開いていなかったんですけどね、しかし、あと残りがまだあるんですよ。それで、契約書自体が途中でやめても全額払わなければいけないと契約になっていたんですよ。それで、担当からは、ぜひメンバーの意見も聞いてくれということで、私自身はこれは当然やめるべきもんだと。しかしながら、途中契約しても全部払わなきゃいけないんだったら、普通あんまりないんですけどね、それは。いけないんだったら、そして、メンバーの人の意見も聞くということで4回ぐらい集まって、なかなか来れない人もおられたものですからね、集まって意見を聞きました。そして、聞いたんですけど、やっぱりやめても一緒の金額が要る、やめなくても一緒の金額が要るんだったら、一応ならもう3月、今年度いっぱいしようかということで結論をしました。

しかしながら、簡単にこの結論に至ったわけではございません。私自身、本当に市民の皆さんの市民の負託を受けているものですから、この件についてはすごく悩みました。本当に撤収するというのはこんなに難しいもんかという思いがありました。それ以外にもいろいろあります。しかし、きちんとしたやり方でやっていこうと思っています。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

3月までこの契約を続行したということは、その契約内容に疑義は認められなかったと判断していいですね。簡潔に答えてくださいね。もう修飾語は要らんから。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

疑義が認められなかったというんじゃなくて、何度も言いますように、この契約書自体は、

もうほら、道の駅がないから、本当は無効なんですよね、道の駅のための商品開発だから。道の駅のための契約書なんです。だから、疑義があるから本当、3月まで続くというような折衷案というかな、それで一応納得したということです。だから、契約書も、弁護士と何度も相談して、覚書を交わして、その契約書の中に覚書を追加して、普通はなかなかこういうことはしないんですけど、追加して、もう3年間じゃなくても今年3月まででいいという覚書を交わしました。それでオーケーになりました。一応向こうのコンサルタントとですね。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

この事業は3年間をかけて商品開発の計画だったと記憶しております。今の市長のお答えは、要するに契約金額の問題だけで、今やめても3月までしても同じ金を払わにゃいけんから、もう3月までしようというようなお話だったんですけど、この計画を1年で終了された、その成果は何がありましたか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

遠藤議員、成果、これは契約書上そうせざるを得ないからしたんですよ。よく分かってください。契約書というのは、もう厳然たる事実があるものなんですよね。それが、契約書がそういう格好で続けられない契約書だったんですよ。それは分かってください。だから、そんなふうにしたということです。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

要するに、その契約書が3月まで続けないと駄目だということでやっただけで、何らこの計画に生産性はなかったというふうに解釈いたします。恐らくこれはまた違う形でというようなことのお話ではないかなというふうに思っているけれども、恐らく今の言い方であれば、何ら新しい商品の開発のめどが立ったとかいうのはもう全くないような事業で、契約だけを3月末までで終了させてしまうというような開発事業であったというふうに解釈しておきます。この中身に関しては、どうせまた予算委員会がありますので、そこの中でチェックして

いきます。

次に行きます。

大川市のこういう過去の政策内容に対して、最近、いかがわしいサイトで、もうでたらめな情報に基づき公開されている、そういうブログというか、サイトがあります。なかなか内容を見たときに、看過できる内容ではありません。ですから、この内容に関してどれぐらいの真実性があるのかということ、事業ごとに一つ一つ言っていきますので、お答えをお願いいたします。

まず1問目です。料亭三川屋さんの建物建築費に「大川の駅」関係として2億円の補助金が投入されたと。市の援助で国の税金が投入されたが、「大川の駅」が中止になって誰が返すとかいというような、こんな記事が載っています。これに対して、市当局としてはどういうふうな御理解をいたしておるか、お答えください。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

遠藤議員の御質問にお答えします。

私も昨日だったかな、昨日、大川市の、私来まして、8時半ぐらいに来て、三川屋さんから私に市長宛ての手紙が来ていたんですね。いつもこう見るもんですからね。そして、私もびっくりしたんですよ。すぐ電話しました。三川屋さん、これは間違いだからといって電話しました。そして、いろいろ話をしました。そしたら、またこういう打合せが隣の部屋であったもんですから、ああ、このことなんだということで、読ませていただきます。

「この案内のブログにつきましては、第65回のタイトルに他者からの伝聞とも取れる文言が付されているため、情報発信者の本人の明確な根拠に基づくものではないと推察しております。また、当ブログのバックナンバーを振り返りますと、閲覧者に市政への誤解を招くおそれがあることや、市職員に対する誹謗中傷の高い内容が散見されます。市長就任以来、一貫してノーサイドを訴えてまいりました私としては、このような状況は甚だ遺憾であり、今後の市政運営への不利益を避けるためにも、この場をお借りして、改めて内容の訂正を求める考えであることを表明いたします。それから、ブログ上の宿泊事業者は、地域の魅力と稼ぐ力の向上を図るため、観光庁の所管である「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」の国庫補助制度を活用し、宿泊施設の改修等を実施されております。こ

の制度において、国庫補助金の採択には地域の事業者や関係自治体との合意形成が必要となっていることから、本市といたしましても計画策定のための会議に参画したところです。なお、当該事業と「大川の駅」事業とは一切の関わりがないことを申し添えておきます。」

以上です。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

三川屋さんは私にも手紙を宛ててあるんですけども、非常に御立腹なんですよ。150年も続いた老舗旅館が、こんないいかげんな情報でもって客足が減ったり、仕事に支障を来したり、これはこの三川屋さんから言わせれば、まさに営業妨害である、名誉棄損に値すると。このことに関しては、ぜひ市長のお言葉でもって、きちっとこの三川屋さんのほうにお手紙、御返事を書いていただくようにここでお約束してください。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

先ほど申しましたように、すぐ電話しました、朝一番にですね。同じ内容じゃなかったかと思えます。

それで、本当に名誉毀損にも当たるし、それから、営業妨害にも当たるかなという感じはしています。そこら辺は三川屋さんといろいろ話をしました。それで、三川屋さん以外に、こういうような格好で受けている補助金業者もおられるんですよ。だから、それは本当にここに書いてある内容は間違いです。それは私ははっきり申しておきます。（「認めていただければ」と呼ぶ者あり）

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

それで、市長、すぐ電話されたのは非常に対応が早くてよかったなとは思いました。でも、その言葉の内容が、直接お電話いただいて、市長は、今これに回答する担当課を探しているからちょっと待っててくださいと言われましたと。物すごく怒っていましたよ。（「よろしいですか、答えて」と呼ぶ者あり）いや、もういいです、答えは要りません。だから、そ

うじゃなくて、僕が言った自分の言葉でお手紙をちゃんと差し上げてくださいと。これを確約していただければ結構です。次がまたありますので。

2番目には、今度は大野島のイチゴ開発企画に市税880万円を投入したとか、これは本当でしょうか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

その前に、返信のメールは私がこっちでできないんですよ。だから、担当が作って、そして、私がそれを見て、チェックして送るようになっているんです。そのことを三川屋さんに言っただけなんですよ。だから、私が全然答えないとかいうようなことは言っていません、それは。

それから、先ほどの遠藤議員の2番の大野島の件につきまして、質問に答えたいと思います。

まず、先ほどの商品開発事業のところ、契約及び業務内容を課長が説明したとおりでありまして、大野島イチゴ開発企画ではないということでもあります。

また、選挙対策のように進められた業務でもなく、個人名を名指ししたリーダーの記載についても、参加メンバー間で組織されていないことから、リーダーは存在しておりません。

さらに、3年間で3,960万円の支出が予定されたという事実もございません。

一応お答えしておきます。

○副議長（古賀寿典）

農業水産課長。

○農業水産課長（宮崎和彦）

先ほど大野島のイチゴ企画というところでの発言ですけれども、正式な契約の内容をちょっと御説明しておきます。

契約名は、ここでしか買えない魅力的商品開発支援業務委託契約でございます。

本市と事業者との間で、令和6年7月1日に契約額999万9,522円で、令和7年3月31日までを契約期間とする単年度の契約を締結しているものでございます。

以上でございます。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

次に行きます。

代わりに何か欲しいのか。大川南中のグラウンド敷地を高木病院に寄附したと言われている。これは事実でしょうか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

私もこれはいきさつなんかはよく知らなくて、一応時系列に教えてもらいました。お答えします。

当時、国際医療福祉大学の薬学部誘致をぜひとも成し遂げるため、前市長自ら栃木県の大田原キャンパスへ出向き、要望を行い、何度も協議を重ねた結果でございます。

また、ほかの自治体からの誘致もあっており、大川市が大学に現在援助している5億円よりも他市のほうがよりよい条件を提示する中、大川南中のグラウンドの譲渡をセットで提示し、議会の承認もいただきながら、何とか薬学部誘致ができたという経緯がございます。

なお、当時の川口地区の地区別区長会には報告しているところであるということでございます。ほかの地区が、やっぱりかなりこれは競争があったというのは聞いています。だから、一応こういう格好でお答えしておきます。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

次に、先ほどからも問題になっていた老人センターが改修もされずに廃止されたという、この経緯は、先ほど健康課長から、建ててもう40年もあるというようなお話があったと思います。その前の経緯も、どれぐらい利用者がいたのか、今現在どれぐらい利用があっているのかということで、別に理由もなくこのセンターが改修されずに壊されたわけではないですよ、これは。こういうところもきちっと市としての対応を、これは違いますということを言ってあげると、それこそこういうサイトを見た人は勘違いするんです。

それから、その次、市の職員の退職金積立金はほぼゼロ円。そのゼロ円は現実なのかもしれんけど、市職員は退職しても退職金がもらえないのと聞かれています。これはどうなって

いるんですか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

まず、4番からでいいですか。2個。（「長くなるんだったら飛ばしてもらって結構です」と呼ぶ者あり）もう4番はいいんですね、そしたら。（「はい、いいですよ」と呼ぶ者あり）いいですかね。じゃ、5番でいい。はい。

この退職金というのは、一般の企業というのは簿外に積み立てます。そして、その企業価値というのは、もし積み立てられなかったら、これは金融業界とかいろんなところでは常識なんですけどね。簿外になかったら、その分だけ企業の価値が落ちます。だから、M&Aするときとか、それから、どこそこの何かを評価するときとかは、必ずそれを調査します。これは常識的なことなんです。だから、それがないということは、その企業価値が落ちるといことなんですよね。

私、もう御承知のように、今回、退職金が1億7、8千万円ぐらいかな、また補正をやっているんです。そのときに、退職金を積立していないのと聞いたんです。いや、ありませんと言うわけです。だから、私もへえと思いつつ、ほかの市町村なんかにもいろいろ打診しました。これはやっぱりある意味、ないのは、一般的に隠れ債務があるというんです、簿外が分からないからですね。大川市の退職金積立制度は、大川市の外郭団体が退職金制度に加入しているんです。私もそれもびっくりしました。

今後、この退職金制度の仕組みを来年度から調査して、福岡県に退職金共済組合みたいのがあるんですよ。調査して、私、この大川市がどうすべきかと。どういうことを言っているかという、やっぱりきちっと積み立てないと、将来の子どもたちにそれが負担がかかってくるんです。それはぜひ御理解いただきたい。だから、負担がかかってくるから、来年度から加入するためにどうすればいいかというようなことを検討してまいりたいと思っています。これは個人的にはぜひしなきゃいけないと思っています。（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

私が聞いたのは、市の職員の方は退職するとき退職金をもらえないのかということです。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

そんなことはありません。（「結構です、それで。では、次へ行きます」と呼ぶ者あり）

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

次に、大川市は毎年新たに18億円ずつ借金していると。次も関連しているんだろうと思いますけど、借金したお金で前の借金を返して、市報で黒字と市民に報告している。市報で財政が黒字というのは、粉飾決算、市民にうそをついている。こんな文書がありますけど、これはどうですか。（「えーと、6番ですね」と呼ぶ者あり）違います。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

遠藤議員の御質問にお答えします。

一般会計における過去5年間の地方債（市債）の借入額を申しますと、平成31年度は約27億2,000万円、令和2年度は約20億5,000万円、令和3年度は17億6,000万円、令和4年度は9億6,000万円、令和5年度は7億2,000万円となるとして、各年度の普通建設事業等の内容により借入額が変動している状況です。したがって、毎年新たに18億円ずつ借金をしているということではありません。

それから、次、7番ですね。（「いいえ」と呼ぶ者あり）えっ、7番でしょう。（「10番の粉飾決算をちゃんと説明してください」と呼ぶ者あり）10番。（「市長、ちゃんと質問を聞いてってくださいよ」と呼ぶ者あり）10番と言われたから。（「はい」と呼ぶ者あり）7番ですね。はい。（「えっ、10」と呼ぶ者あり）7番になっているよ。（発言する者あり）ああ、分かりました。では、お答えします。

遠藤議員の御質問にお答えします。

地方債は、地方財政法第5条に定められた事業、いわゆる学校、図書館、道路、公園といった整備を行う際に発行することが認められており、これ以外の目的、例えば、市独自の

財源不足を補填するための借入などについては認められておりません。

また、地方債を発行するに当たって、事前に事業内容を記載した計画書を添えて都道府県知事に協議を行い、それから、都道府県知事により同意を得た事業のみ地方債の発行を行うことができます。そのため、発行した地方債を活用し、別の目的となるような前の借金を返すといったようなことはできません。

なお、本市の決算認定につきましては、法令等に基づき、監査委員からの監査が行われた上で適法に処理しているところでありまして、粉飾決算というような事実はございません。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

分かりました。

それから、そのほかにもこういうのがあるんですね。「大川の駅」が実施されていれば、大川の借金は280億円にもなる。公表150億円、隠し借金30億円、「大川の駅」費用100億円で、合計の借金280億円という、こういうでたらめなものも載っております。

ここらをもう聞くあれはないんですけれども、もう最後になりますけれども、ふるさと基金に関してです。ふるさと基金は、総務省によれば、今後、市の収入にならない方向になるというふうなことが書いてありますけど、これは事実でしょうか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

お答えします。

まず、8番。8番じゃない、番号は違うかもしれんですね。（「戻らないでいいですよ」と呼ぶ者あり）

市には、公にしている150億円の借金とは別に30億円ぐらいの借金がある。このことからまずお答えします。（「いや、そこは聞いていません。もう聞いたのに答えてくださいよ。僕はふるさと基金のことを聞いているじゃないですか」と呼ぶ者あり）その前にこれは質問しなかった。（「いや、だから、順番に書いてあるけど、飛ばしたんだから」と呼ぶ者あり）飛ばされたわけ。はい。

じゃ、遠藤議員の御質問にお答えします。

ふるさと納税は、予算上、出ていく分は住民税の減少、入ってくる分は寄附金収入の増加として取り扱われております。その際、住民税の75%は基準財政収入の減少分として反映され、交付税措置により補填されます。一方、ふるさと納税による寄附金収入は、基準財政収入に反映されないため、住民税の減少分と相殺されることもなく、本市財源として計上されています。

財務省や、それから、ふるさと納税を所管する総務省の審議会において、予算計上の在り方、住民税と同じ一般財源化について議論が行われたことは承知しておりますが、現段階では全く不明でありますので、本市といたしましては引き続き貴重な財源の確保に努めてまいりたいと考えております。よろしいですか。（「はい、結構です」と呼ぶ者あり）

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

というような中身で、市長自らがこの中身、全て否定をしていただきました。

こういうでたらめなサイトが横行しているということに関して、市長はどんな感想をお持ちですか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

このSNSとか、今もう本当に日本全国、様々な情報が飛び交っています。本当に私は、私の立場としては、私はもう本当にそういうのを見ないようにしています。だから、今回、「がんばれ、大川！」も見てくれ見てくれと、今回こういうのがあったから見ました。やっぱりすごい前からあっているみたいで、弁護士ともこういうのに対してどう対処すべきかというようなことを、一応いろんな意味で打合せしています。

それで、報道の自由と、それから、SNSの報道の自由と、それから、僕たちに対する影響ですね、そういうのを勘案しながら、どのような施策が取れるかということをして今後、弁護士と共に検討してまいりたいと思っています。

例えば、人吉市のホームページを見たら、人吉市にSNSに対する何かホームページがきちんと書いてあるんですね。ああいうのを大川市もホームページとして掲げるとか、そんなことを今後検討してまいりたいと思っています。

そして、SNSによって被害を受けられたりする方も出てくると思っているんですね。だから、そういうのをやっぱり未然に防がなきゃいけないから、そんなことも今、弁護士といろいろ相談しながら、大変難しい問題で、報道の自由と、その被害をいろいろ見極めながらやっていきたいと思っています。しかし、これはぜひしなければいけないというふうに思っています。そういうことでお答えいたします。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

なかなかこのSNSの発信元というのは探るのは難しかろうとは思いますが、大川市政のことをこんなにでたらめに書いている。このことに関しては、市長自らが、僕は新聞社の方にいいと思います。こんなでたらめなサイトには私は毅然として抗議しますということを、ちゃんと新聞記者会見でも結構です所以说ってくださいよ。こんなでたらめな。答えますか、どうぞ。（「いやいや、答えを必要とされますか」と呼ぶ者あり）なかなかこのサイト自体を江藤市長は見らんというぐらい言っていらっしゃるっちゃけ、自分で探すのは大変だろうから、せめて報道機関である新聞記者とかに市長自らが、いや、大川市はこんなでたらめな行政じゃないですよということを毅然と、三川屋さんなんか非常に迷惑されているわけですから、大川市の代表として、こんなサイトやブログに対しては毅然と抗議しますというような、新聞記者に対してはちゃんと報道してくださいよ。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

今さっき申しましたように、報道自由との兼ね合いもあって、弁護士とはこの対処方法についてもいろいろ議論しながら、いろんな考えを聞きながら、どういうのが最適かというようなことも含めて今後考えていきたいと思っています。もしマスコミに、やっぱり報道、言ったほうがいいなら、そこら辺も含めて、よく分からないんですが、報道の自由とその兼ね合いが大変難しいみたいなんですよ。だから、今回、遠藤議員が質問されたことについても、一応弁護士と相談して進めていきたいと思っています。

以上です。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

このサイトには、要するにあなたの部下である職員を名指ししている悪口が書いてあることも、聞いて御存じですよ。見てくださいと言われたので。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

知っています。一応この人たちともどうしようかと打合せはしています。先ほど言ったように、どう対応すべきかということをおとろしといろいろ相談しているところでございます。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

市長、これは12月27日の毎日新聞に載っているんですけども、要するにその諮問委員会を立ち上げる話です。年内には発足できずということです。年越しすることになったと。江藤市長は26日の記者会見で、事務をどの部署で担当していくか決まらないし、内部の問題だと言う。この発言が引き金となって、そのサイトには人事秘書課と企画課と総務課が批判的に上がっているんですよ。その3部署が全然仕事をせんから市長は困っとるちいうて。現実そうですか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

遠藤議員、僕は仕事をしていないということは一言も言っていません。そういうことは言っていないんです。それは言うておきます。いっぱい仕事をしてもらっています。そういう発言はしないでください。僕は言っていないから、そんな発言は。

僕はそういう格好でSNSが発信したら、SNSに対してやっぱり抗議しなきゃいけないと思っています。これも含めてどうするかというようなことを大川市の顧問弁護士に相談してみたいと思っています。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

僕が今言ったのは、この市役所内部の話を書き記者会見の中でも、市長がそうやって口を滑らすから、これをネタにブログに書いてあるわけですよ。市長が言ったなんて僕は言っていませんよ。そういうふうに使われてしまう、市長が発言したことは。新聞記者さんたちは目新しいものには何でも飛びつくわけですから。だから、言動はできるだけ慎重にしてください。そうしないと、部下のほうに火の粉が飛んでくるわけですよ。僕も今言った課の課長たちは一生懸命仕事をしているというのは僕も重々分かっています、市長もお分かりになっているとおり。でも、外部の人がそうやってちゃかすわけですよ、大川市役所内はこんなんだとか。そういうことに腹が立つんです。それは市長がもう少し慎重に発言されておけば、こんなブログは出回らないというような、その一つです、例えの。いうことを言っているんです。

もう大分時間が短くなってきましたけれども、全く話は変わりますけれども、市長が12月議会で大川市役所の在り方についてお話しされたことは記憶にございますか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

市役所の在り方とか、どういう市役所の在り方がいいか、日々日々、やっぱりいい市役所をつくるために、市民サービスもいい市民サービスができるように、もう日夜考えております。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

市長が就任されて4か月以上過ぎたけど、今の市役所の雰囲気はどういうふうに感じていますか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

今、市役所の雰囲気ですか。（「雰囲気です」と呼ぶ者あり）雰囲気、そうですね、やっぱり私が民意を得て当選したもんですから、すごく最初は変わらなかった。しかし、何度も言いますように、私は何のしがらみもなく、ただ単に大川市をよくしたいということで

立ったものですから、それを理解する人が、要するに僕に反対した人たちも民意を得て当選したから、一般の人はそれを分かって、早く変わり始めてきたんですね。ところが、やっぱり市の職員というのは若干遅れて、私の感じですよ、遅れて少しずつ変わってきたという印象を受けます。そして、何か私と会うとき、にこにこされる方が増えてきたという印象を持っています。しかし、どうしてもコアな人、これはもう本当に、それはなかなか変わらないと。民意を受けてもやっぱり変わらない人もあるなど。ただ、一般の人は、こんなに変わるかなというぐらいすごく変わり始めています。それはどうしてかと申しますと、もう昨年から様々な飲み会とか、いっぱいいろんなところで、あるいは民間の説明会とか様々なところに行って私は説明しています。やっぱり私の強みというのは、何のしがらみもないということで、誰にも遠慮することなく、いい市政をするためにいろんな発言をしているわけですから。ただ、遠藤議員が言われるように、ちょっと曖昧にしたような発言があったのがそういう格好で問われるかなと思っていますから、ぜひ発言には慎重でありたいと思っています。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

市長は記憶にないだろうから僕が読み上げますが、前回12月議会でもって、市長は市役所内が働きやすい、働いて楽しい、市役所に来ることが楽しい、誰からも圧力を受けなくて、本当に若い人たちが集まって、いい市役所づくりをしていく。こうなると生産性が物すごく上がってきます。市役所はいい、本当に働きやすい、辞めたくないとなったら人口が増えてまいります。市役所内を働きやすくする、市役所に来て楽しい、そういうことを求めていきたいというようなことを12月議会でおっしゃっています。

その中で、市長は今感想として、少しずつではあるが、優しい顔に市役所の職員がなっているみたいなことをおっしゃっていますけれども、私の議会から見た目では、市役所内から笑い声が消えているんですよ、職員さんたちの顔を見ても。そんなに仕事で追い詰められているんだろうかと心配するぐらいあるんです。

市長はドアは開けていらっしゃろうけれども、各部署の職員たちがどういう仕事ぶりをしているのか、長い時間立ち止まっとく必要はないですよ。2階まで上がるにしたって、健康課の横も通る、市民課の横も通る、税務課の横も通る、上下水道課の横も通るじゃないです

か。2階へ上がればインテリア課もある、農業水産課もある、そういうところにちょっと顔を出して、部下である職員たちが元気にちゃんと仕事をしているかどうかぐらい。市長になられてから、何回ぐらい職員を褒められましたか。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

遠藤議員の何かよく分からない質問です。遠藤議員、お答えします。

私は何度も言っているように、2か月間を過ぎて様々なことが分かるようになってきました。理解できるようになりました。例えば、この冬、寒いときに、1階が寒い、足元が冷えるんじゃないかと。何回か行きました、大丈夫って。そしたら、そこの女性の職員の方が、やっぱり厚いズボンをよくしているんですね。そして、雨の日は暗いし、どんなと言ってですね。そして、いやいや、大丈夫ですけど、寒い寒いですとかいうような、そういうことで何回も行きました。それから、江崎課長、健康課も3回ぐらい行ったのかな。それから、こっちの財務、この反対側のほう、それから福祉事務所、もう何度も行っています、それは。本当です、それは。それから、余裕が出てきたもんですから、企画課とか、インテリア課とか、それから総務課とか、そういうところにはもう何度も、しょっちゅう顔を出します。この契約書をちょっと少し、何か決裁が来ていたけど、ちょっと1日考えたらおかしいんじゃないとか、単純なことを言って、やっていますよ、議長。それは議長が知らないだけです。私は本当に今足を運ぶようにしています。

それと、やっぱり市役所は働きやすい職場を目指さなきゃいけないんですよ。それは若い人たちとも話しています。それで、このことは、働きやすい職場にして、やっぱり市役所職員が、うわあ、この市役所は働きやすいという職場づくりを目指さなきゃいけないんですよ。そのために、何度も言ったあのプロジェクト、teamDOX（チームドックス）のですね、あの若い人たちがつくっている、あのプロジェクトを一応聞いて、支援しています。そして、時々どうなっているということを聞いています。

本当に今、市役所が大改修を行っています。今年度からこの内部に入ります。どうしてそのときに市役所の内装を一緒にセットしなかったのかなというのが私の一つの疑問ですけどね。やっぱり2階をやるんだったら、これから2階の、私のトイレが冷たいんですよ。冷たくて、私は家から持ってきて敷いているんですよ。ここもやりますという答えです。

ですから、本当に働きやすい職場をすると、気持ちよくなって、来たいという気持ちになって、生産性が上がっていくんですよ。本当それはもう事実です。お答えしておきます。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

そういうお話をすると、必ず市長は物理的なもののお話をされるけど、僕は物理的な話をしているのではなくて、何で市長に対して職員を何回褒めたことがあるかというて聞いたのは、職員の気持ち、心をどれぐらい市長がお分かりになっているだろうかというようなことを危惧するからお尋ねしているわけです。（「答えは……」と呼ぶ者あり）いいですよ、もう答えなくて。（「答えなくていい」と呼ぶ者あり）はい。なかなかあったばかりで、そういう心の余裕もないと思うけれども、市長は忙しい忙しいとおっしゃるけど、せめてやっぱり役所の中ぐらいの職員の仕事ぶりぐらいは見ていただきたいなというのは思います。

大体市長、毎日勤務されて何時頃お帰りになっていますか。（「答えないといけない」と呼ぶ者あり）はい、平均的に。今週も、僕、何度もお会いしたかったけど、もう帰って、いらっやしませんとかいうて言われるので、何時頃お帰りになっているのかなと思ひまして。（「それを答えるんですか、私が」と呼ぶ者あり）よかったら。自分でお分かりになるなら。

○副議長（古賀寿典）

市長。

○市長（江藤義行）

私の帰宅時間まで遠藤議員に言うんですか。（「いやいや、その……」と呼ぶ者あり）言うんですか。それは私は、ほら、外部に行っているときもあるじゃないですか。だから、夜中に帰ってくることもあるし、それから、飲み会とか、いろんなところに誘われます。そうすると、10時とかになることもあります。とにかく早く帰れるときはなるべく早く帰るようにしています。それはどうしてかというと、しなきゃいけない個人的な用事もありますからね。しかし、本当に今年も土日も休めなかったし、本当に帰って、やっぱり5時、4時頃帰るときもあります。しかし、5時とか6時になるときもあります。しかし、早く帰ったときは次のまた会合が待っているんですよ。ですから、そんなふうにしてやっています。ただ、やっぱり5時とか帰ると、もうほっとしたいんですよ。そして、やっぱり1杯酒を飲んでリラックスしたいんですよ、それは。（「結構です、それは」と呼ぶ者あり）本当した

いんですよ。

○副議長（古賀寿典）

11番。

○11番（遠藤博昭）

いや、何でお聞きしたかといったら、この3月、最初の議会が始まったときに、議会でも事件が起こったもんだから、いち早く僕は大川市の一番の長である市長に報告をしておきたいことがあると思うてお訪ねするけど、なかなかおらっしゃらないで、もうお帰りになりましたとか言われるんでね。ああ、結構早く帰られるんだなという、もうそんなイメージしかなかった。特に今は議会中ですから、そういうほかの方との飲み会いうのもあんまりなからうからですね。そういうのを感じたからちょっとお話ししたんです。

いよいよもう時間が近づいてきましたので、私は、この大川市の子どもたちというのは、道徳的判断力、それから、道徳的心情、こういうのをしっかり養った内面的資質の高い子どもに育っていただきたいなど常々思っております。そして、大川市の行政も正しい倫理的な価値観の下に運営していただきたいという願いでいっぱいです。

この運営に関わる副市長とか、教育長とか、市長が選任によるものなんだけれども、市長への信頼度があつてこそ議会も承認できるものなんです。今日、幾つか話も出ていましたけど、2月16日、ここで行われた市政報告会での市長をはじめ、参列者の後援会の代表、それから、議員らの暴言、これは配慮に欠いたものであり、市を運営する上で模範となるべき道徳的、倫理的価値観とは程遠いものでありました。このような発言を耳にして、市長への信頼を寄せることができるでしょうか。これからはもっと発言に気をつけて、言葉を大切に使い、市政運営を行っていただきたいと思えます。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。（「何か答えなくていい」と呼ぶ者あり）

○副議長（古賀寿典）

いや、いいです。

これで議長職の交代等のため、暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は3時30分から行います。よろしく願いいたします。

午後3時20分 休憩

午後3時30分 再開

○議長（遠藤博昭）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、2番宮崎貴仁議員。

○2番（宮崎貴仁）（登壇）

皆さん、改めましてこんにちは。議席番号2番、宮崎貴仁でございます。議長のお許しをいただきましたので、これより一般質問をさせていただきます。

3月定例会一般質問1日目、最後の質問者となります。皆様におかれましては、お疲れもあることかとは思いますが、いましばらくお付き合いいただきますようよろしくお願いいたします。

今回の私の一般質問は、市政への取組と行政運営についてであります。

それでは、通告に従い質問席よりお尋ねをしてみたいと思いますので、市長をはじめ、執行部の皆様におかれましては、できるだけ簡潔明瞭に分かりやすく御答弁をいただきますようお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

それでは、これより質問に移らせていただきます。

今回の私の一般質問は、先ほど壇上で述べましたとおり、市政への取組と行政運営についてを取り上げ、「大川の駅」整備予定地活用に対する取組、高齢者福祉における取組、学校教育への取組、利便性の向上に向けた行政サービスにおける取組と、大枠4つに分けて通告をし、先日、適宜担当部局と打合せをさせてもらったところであります。

その中で、「大川の駅」関連の事項に関しましては、跡地利用や検証、道路整備などの質問事項が本日さきに質問をされました馬淵議員、永島守議員の内容と重なっておるところがありますので、答弁を聞かせていただきましたので割愛し、次の質問へと移らせていただきます。

まずは、学校教育についての質問です。

取組についての質問に入る前に、先ほど来、議長のほうからもありましたが、3月3日、本会議初日の内藤議員の発言についてお伺いをいたします。

当日の教育長選任に対する案件の中で、内藤議員の賛成討論があり、その中の言葉には本

当に耳を疑うものがありました。内藤議員の討論を聞きながら、子どもたちが聞いていなければいいのになと案じたところでもあります。

あのような不適切な発言の数々は、子どもたちはもとより、親御さんや御家族、教育関係者をはじめとする多くの方々の感情を損ねるものでありました。議会の閉会と同時に、私のほうにも、議場に傍聴に来ていた方、ネットで中継を見てくれた方、また、このことを聞かれた、まさに子育て世代のお父さんや若いお母さん方からも本当に多くの怒りの電話がありました。

本日もこのことに関してどういうことを言われたのと聞かれる市民の方もりましたが、それは多分、議長が謝罪をされた分がホームページに載って聞かれたんだと思いますが、なかなかやっぱりそれと全く同じ言葉を二度と多分繰り返してここで出しちゃ駄目だろうなと思いますので、私のほうからも発しません、内藤議員のあのような発言は、それぞれに精いっぱい頑張っている子どもたちや、本当にその親御さんたちの心を折るものだったと思っています。本当に悲しい気持ちになりました。

様々な事情があって学校に行けていない子どもたちも、それぞれの次のステップを目指して、本当に一生懸命に頑張っています。

市長は先般、ひとり親世帯の子どもたちに対するクリスマスのことを私にも少し話していただきました。すごく子どもたちにも寄り添っていただいているんだろうなと思っておりました。先ほども優しい市政の話もありましたけれども、ただ、その内藤議員の発言の後に、傍聴席やこの議場内でも確認された方がいらっしゃいますが、市長はこの内藤議員の討論の言葉を聞かれた後に自席より拍手をされましたが、この内藤議員の言葉をどのように受け止められて拍手をされたのか、まずお答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

内藤議員の不適切な発言については、私も本当によくないなと思っています。そのときには私も気づかなかったんですよね。そしたら、終わった後、一応議長がああいう発言をされたもので、ああ、あれなんだということで気づきました。そのときは本当に私も、申し訳ないんですけど、若干よくないんじゃないかなとは思いつつも、全体的にという意味で発言、議長が言われて、つくづく気づいて、本当にああいう発言はよくないと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

いや、なかなかすごい悲しい御答弁だったと思います。すごく何回も繰り返された発言だったんですね。それをやっぱり、そのときはそう思わなかったということは、やっぱり市長もあまり悪い言葉とは取られていなかった、議長が最後に取消しを命じられたので、そのときにはたと気づかれたというふうに私、今受け取りました。すごい私からすると、私も昭和の人間ですけど、昭和のすごい古い考え方だったと思います。私はすごい悲しかったんですね。

それで、たまたま今回、学校教育の問題に取り組んでいましたので、それについて質疑をする前に、やっぱり市長のお気持ちを確認したかったので、特に拍手をされたので、お気持ちを確認したかったので、冒頭、先にまずこの質問をさせていただきました。

次の質問に移りますけれども、12月の本会議において、私の子育て教育と文化芸術の振興における市長の施策の中で、市長はどういう新たに目指す教育方針がありますかというお尋ねをしたら、通告外ということだったのでお答えをいただけなかったもので、もう一度、実はこの場で今日お聞かせをいただこうと思ったんですが、今先ほどのちょっとすごい残念な感覚がありますので、これも市長もこの前主催された総合教育会議の中で、あらかじめの大綱等々は、私も傍聴させてもらったので一緒に見させていただきましたので、ちょっとこの部分は市長の答弁を割愛させていただいて、実際の次の場所に移りたいと思います。

総合教育会議の中で、市長ももちろん主催されていまして同席をされていましたが、教育振興プログラムの見直しも含め、今回協議をされました。ふるさとを愛し、人のつながりを大切にする、創造性豊かな人を目指すことを人間像として掲げられ、来期からも「未来へつながる、人がつながるまち おおかわ」の教育に取り組んでいかれることと思いますが、目標とされるものがあればお示しください。これは担当課からで結構です。

○議長（遠藤博昭）

添田学校教育課長。

○学校教育課長（添田宗孝）

お答えいたします。

目標といたしましては、大川市教育振興プログラムに4つの目標を掲げております。

まず、目標1、「たくましくしなやかに生きる力の育成」といたしまして、基盤の教育であります。

次に、目標2、「ふるさとに誇りと愛着を持ち、生き甲斐と豊かさを実感できる人づくり」といたしまして、人づくりの教育であります。

次に目標3、「共に支え合い高め合う、学びと活動が循環する地域づくり」といたしまして、地域づくりの教育であります。

最後に、目標4、「安全で安心な学びのための環境の確保」といたしまして、教育環境づくりであります。

この4つの目標を掲げ、ふるさとを愛し、人とのつながりを大切にする創造性豊かな人づくりを目指した教育に取り組んでおります。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

今、多分2番目にお示しされたんだと思います。「ふるさとに誇りと愛着を持ち、生き甲斐と豊かさを実感できる人づくり」、いわゆる人づくり教育のことを挙げられました。

少子高齢化社会の中、地方創生に参画、地域貢献できる人材の育成が求められており、大変重要なものだと思います。そんな中、大川市はいち早くふるさと学習とキャリア教育が連動した教育に取り組まれており、その成果がまさに今出てきているのではないかと考えております。

といたしますのが、先月19日に開催されたふるさと大川教育フェスティバルにおいての子どもたちの発表でありました。これまではそれぞれの校区を取り上げて探求してきたものが多く感じられていたわけですが、本年は校区の垣根を越えての発表もあったかに記憶をしております。特に、大川桐薫中学校の生徒さんが発表してくれた中学生からのパブリックコメント、中学1年生の提案は、子どもたちならではの柔軟な発想から生まれる本市の活性化策でありました。大川の匠の人を活用した家具産業の状況を知る・学ぶ授業の提案や、給食のフードロス対策に向けた提案、議会審議の傍聴をすることによって、共に大川の将来を考える提案など、本当に私たちを納得させるようなすばらしい提案の発表でありました。

そこで、質問をいたします。

さきに述べたような中学生からの提案は実現不可能な提案ではないと思いますし、このような提案を実現してあげることによって、子どもたちがこれまで以上にふるさと大川を愛してくれることにつながるものだと思いますが、市としてはどのようにお考えなのか、お答えをお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

藤岡学校教育課主幹指導主事。

○学校教育課主幹指導主事（藤岡忠司）

お答えします。

先月19日に、本年度で3回目となるふるさと大川教育フェスティバルを開催いたしました。これは大川市が目指す、ふるさとを愛し、人とのつながりを大切にする創造性豊かな人づくりの下、各学校で行っているふるさと学習で探求的に学習したことを発信するものです。

本年度は、大川桐薫中校区の1中4小に加え、大川樟風高校にも参加してもらい、発表してもらいました。内容は、古賀政男先生のこと、木の香園との交流、環境保護の取組、センダンの木、市で活躍する外国の方など、多様なテーマで、大川の宝であるヒト・モノ・コトのよさを児童・生徒の皆さんが堂々と発表してくれました。

その中で、大川桐薫中の1年生から、中学生からのパブリックコメントをテーマに、中学生目線で考えたふるさと大川の活性化策を提案してくれました。生徒から出された6つの提言は、大川の木工や人口減、フードロスなど、生徒たちが暮らすふるさと大川のよさや課題に関するものでした。身近な課題に目を向け、関連する情報を収集分析し、生徒なりの解決策を考え出しました。この学習を通して、地域への愛着を育むとともに、地域の未来の担い手としての意識と志を高めるきっかけとなったと考えます。

生徒たちが考えた提言が実現できれば、さらに学習の成就感につながると思いますので、可能なものは、現在行っているふるさと学習を充実させることで努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ありがとうございます。まさにふるさと学習、キャリア教育における成果がうかがえるものだと感じますので、ぜひ今後検討をしていっていただきたいと思います。

それでは、学校教育に関して最後の質問ですが、先日、市長主催の総合教育会議において、教育会議の結びに、教育委員さんや実際に現場で子どもたちの指導に当たっていただいている先生方から、今後の学校教育や教育長像について市長に対し提案がなされました。その提案を受けられ、市長はどのようにお考えなのか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎議員の質問にお答えしたいと思います。

市長が目指す教育方針ということの質問でよろしゅうございますか。

○議長（遠藤博昭）

市長、違います。2番、もう一遍言いますか。

○市長（江藤義行）続

はい。

○議長（遠藤博昭）

じゃ、2番。よく聞いてください、市長。

○2番（宮崎貴仁）

先日の総合教育会議において、教育委員さんや実際に現場で子どもたちの指導に当たっていただいている先生方から、その会議の結びに、今後の学校教育や教育長像について市長に対し提案がなされました。その提案を受けられ、市長はどのようにお考えなのか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長、聞いていますか、質問はちゃんと。市長。

○市長（江藤義行）

まず、学校環境整備、それから、ICTの推進等について。

○議長（遠藤博昭）

違いますよ、答えが。市長がどう思っているかを答えてください。

○市長（江藤義行）続

いや、だからちゃんと。すみません、申し訳ございません。

教育長像ということだと思んですけど、ちょっと私、準備をしてきていないんですよ。ですから、これに対する答えが今のところないので、本当に申し訳ないなと思っています。どうしてこれ準備しなかったの。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ちょっともう長くなると思いますので、次の質問に移らせていただきたいと思います。ぜひ、これは多分私通告もしていたと思いますし、今言った、質問した答えに市長の感想を聞きただけなので、あまり適宜執行部が作る文書が必要ではないのかなと思いますが、ちょっとお答えいただけませんでしたので、次へ移らせていただきます。

次に、高齢者福祉の取組について質問をいたします。

ただ、この高齢者福祉の取組については、先ほど古賀寿典議員のほうからも福祉の強化についてという市長への質問もありました。買物弱者、スポーツ環境整備の質問もあり、市長のほうから御答弁をいただいていたと思いますので、ちょっと重ならない部分だけ質問をさせていただきたいと思います。

全国的に高齢化が進み、本市においても高齢化率が各校区30%を超え、高いところでは45%近くとなる中で、第6次総合計画後期において、高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、介護予防・生活支援を推進し、高齢者に優しいまちづくりを総合的に行うとされています。

そこで、まずお尋ねをいたします。

高齢化率が高く、買物困難者への対応が地域課題となっている2校区において、課題解決に向けて、タクシー会社と地域の商業施設等を連携した外出で介護予防プロジェクトとして、昨年の10月、11月、12月の3か月間で実証実験を行われたと思いますが、この結果と検証内容を教えてください。

○議長（遠藤博昭）

山田福祉事務所長。

○福祉事務所長（山田秀幸）

お答えいたします。

外出で介護予防プロジェクト実証実験は、高齢化率が高く、買物困難者への対応が地域課題となっている川口と大野島地区において、課題解決のため、タクシー会社及び地域の商業施設と連携した実証実験を行い、介護予防効果や運営面における持続可能性等を検証し、事業化に向けた検討を行うものです。

事業の内容は2種類あります。

1つ目は、サポーター付買物支援、らくらく買物としまして、毎週1回、利用者を自宅からタクシーに乗り合いで商業施設へ送り、ボランティアが商業施設内を同行し、買物サポートを行い、買物終了後は迎いのタクシーが到着するまで施設内のベンチなどで会話や軽い体操などを行います。帰宅時は、希望があればボランティアも同乗し、下車後の荷物運搬などを支援するというものです。

2つ目は、川口コミセン元気カフェ送迎支援としまして、毎週1回、対象者を自宅からタクシーに乗り合いで川口コミセンへ送り、元気カフェプログラム終了後、乗り合いで自宅へ送り届けるというものでございます。

対象者としては、市内で最も高齢化率の高い大野島地区、次いで高齢化率が高い川口に居住しており、基本チェックリストに該当する要支援相当の高齢者で、生活支援バスを利用することが困難で、家族からの支援を受けることも困難な方、介護予防の観点から、社会参加の機会を増やし、活動量の維持向上を図る必要のある方で、疾患により重いものを持って歩くことに支障がある方を対象としています。両事業とも1回300円の利用料を設定しています。

それで、利用状況につきましては、令和6年10月から事業を開始しましたが、周知不足もあり、本年1月から利用が開始されました。1月から2月の利用状況は、らくらく買物1名が延べ7回、元気カフェ2名、延べ5回でございます。利用者からは、この料金で買物に行けてありがたいとか、ここに来るのが楽しみ、興奮するといった声をいただいております。買物の場面では、サポーターが袋詰めを手伝い、タクシーが来るまでの時間、とても楽しそうに会話を楽しまれています。元気カフェの参加者も交通手段がなく、閉じ籠もりがちな生活であったのが、毎週出かけて体を動かし、ほかの参加者と会話することで、生活に張り合いが出てきているようでございます。

地域包括支援センターや社会福祉協議会によるニーズ把握では、一定のニーズがあるものの、利用に結びついていない状況もあります。このため、必要な人が安心して気軽に利用で

きる仕組みとなるよう、対象者と想定している人たちも含めた地域での話合いや利用体験会の実施などを行うなど、工夫しながら、次年度も実証実験を継続したいと考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ありがとうございます。1月から始められたということなんですけど、次年度も実証実験を続けられるということですが、どこかで検証をやっぱりしていかないと本事業には移せないと思います。どのくらいの期間、実証実験をされるおつもりか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

山田福祉事務所長。

○福祉事務所長（山田秀幸）

来年度は1年間を予定しております。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

そしたらまた、検証が終わったら委員会にも御報告をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

続いての質問です。

本市では、高齢者の運転免許証自主返納者へのタクシーチケットによる助成制度を導入されていますが、ここ3年の返納者数とタクシーチケットの利用率、利用された方の割合が分かれば教えてください。

○議長（遠藤博昭）

江崎健康課長。

○健康課長（江崎くるみ）

お答えいたします。

高齢者運転免許証自主返納等支援事業は令和4年度から実施をしております。70歳以上の方で運転免許証を自主返納した方、または期限が切れて失効された方に対して、タクシー利用券1万円分、これは500円券の20枚つづりとなっております。それを交付しているとい

う事業でございます。このタクシー利用券は1人につき1回限りの交付とさせていただいております。有効期限は交付の日から2年間ということで、その間の利用ということになるわけなんです。今年度の1月末現在での利用状況について申し上げますと、4年度度の交付者数は101名、このうち1回でも御利用された方は87名、利用率といたしますのは86%ほどになるかと思いますが、そのお支払い率といたしますのは71%ということでございます。

5年度度の交付者数は129名、このうち1回でも御利用された方は100名、利用率は78%、支払い率は55%となります。

6年度度の交付者数は94名、このうち1回でも御利用された方は57名、利用率は61%、支払い率は28%でございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ありがとうございます。タクシーチケットの交付額1万円と先ほどお話をいただきました。ここ最近ではタクシーの初乗り料金は780円に上がっております。簡単にざっくり計算すると、仮にどこかの病院に行って帰る、初乗りだけ使ったとしても、6回か6.5回しか使えない計算になります。年々タクシーの料金は値上がりする中で、タクシーチケットの交付額や、ほかの補助内容、例えば、割引制を使うとか、10%の割引とか、ちょっと長めに使えるような割引制度とかの検討が必要ではないかと思いますが、今後どのようにお考えなのか、お聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

江崎健康課長。

○健康課長（江崎くるみ）

御質問のことについては、今は高齢者運転免許証自主返納支援事業を推進しておりますので、もう少し予算枠がございますので、そちらのほうを推進させていただきたいと思っております。ほかについてはまだ検討しておりません。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

それで、本市では福祉事業として、福祉事業というか、サービス事業として、おおかわ愛のりバス、いわゆる生活支援バスの運行事業等に取り組まれておりますが、まだまだ利用者のニーズに合った改善が必要ではないのかと思いますが、今後、検討課題はどのように認識されているでしょうか、お願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

江崎健康課長。

○健康課長（江崎くるみ）

生活支援バスについてでございますが、運行して12年間になります。その間、高齢化が進みまして、運転免許証を自主返納して車を運転しないとか、できないとか、そういう独り暮らしとか高齢者の世帯が増えております。それ以外にも、足腰が悪くてバスに乗れないとか、バス停が遠いとか、便数を増やしてほしいとか、曜日、時間を変更してほしいとか、高齢者、障がい者に限定しないで利用させてほしいとか、そういう御意見もいただいているところで、そういうこともありますので、今後、移動手段についてはまた検討していく必要があるかと思っております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ありがとうございます。本市において高齢者の交通機関の確保は本当に大事な課題だと思いますので、よろしく願いいたします。

そこで、市長にお尋ねいたします。

市長が配布された市政報告のチラシの中に活動内容があるんですけども、その中に福祉タクシーの民営化を検討とあります。私の認識の中では、本市で市営の福祉タクシーが存在していなかったと思うんですけど、どのようなことなのか、教えていただいてもよろしいですか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

この福祉タクシーというのの名称が間違っていました。買物支援サービス——えっ。（「生活支援サービス」と呼ぶ者あり）生活支援サービスのことでした。いずれあれは、タクシー業者といろいろ話をしているんですけど、いろんな話をした契機で、いずれですよ、いずれ民営化できればなということで、そういうつもりでした。それが間違っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

それは後援会の方に配られているんだろと思いますが、名称の変更をお願いしたいとともに、民営化できるなら本当にそれにこしたことはないと思いますので、ぜひ御検討を続けていただきたいと思います。

それでは、高齢者福祉について、最後の質問であります。

昨今は高齢者を狙った横行する闇バイト関連の強盗事件が各地で発生しているのは皆さん、報道番組等でも御存じのことかと思えます。少子高齢化となり、本市も独り暮らしや高齢者のみの世帯も年々増加傾向にある中で、このような事件の報道を見られた高齢者の方は、不安を抱きながら生活をされているようであります。

このような事件の犯人逮捕の解決の糸口となっているのが防犯カメラであることは皆様も御承知のとおりであります。本市においては公共施設周辺以外の箇所にも市が設置する防犯カメラはないように感じています。

防犯カメラは、防犯力の向上や事件を未然に防ぐ犯罪抑止にもつながることから、最近では多くの市町村が地域見守りカメラの設置や増設に取り組まれております。これは何も高齢者だけの問題ではなく、子どもの見守りに当たっても大変必要性のあるものだと認識をいたしますが、本市において主要道路をはじめ、必要箇所等への防犯カメラの設置は、高齢者が住み慣れた地域で安心・安全な生活を送るために欠かすことができないものだと思いますが、当局のお考えをお聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

島崎地域支援課長。

○地域支援課長（島崎恵一）

お答えいたします。

県内の刑法犯認知件数は近年減少傾向にありましたが、令和4年から増加に転じており、

特にデジタル化の進展に伴いまして、SNS型、投資ロマンス詐欺など、犯罪が増加し、被害も年々増加しております。その中で、近年、SNSを通じて募集する闇バイトなど、緩やかな結びつきで離合集散を繰り返す匿名流動型犯罪グループによる事件が首都圏で相次いでおります。

犯行の手口としては、ドアや窓を破壊して侵入するほか、配達員や訪問販売を装って侵入するケースなどが報告されています。特に、一軒家にお住まいの高齢者が狙われやすい傾向にあるようです。その対策として、犯罪者が被害者の固定電話に電話する実態が見られることから、自動録音機能付きの電話機の設置や留守番電話の設定などの取組が推進されています。そのほか、防犯カメラやセンサーライトの設置、ドアや窓の鍵の強化のような物理的な対策や、近隣の方とのコミュニケーションを積極的に行うなどの対策に加え、日頃から地域の防犯パトロールなどの取組が重要となります。

防犯対策として、警察や防犯協会による高齢者向けの防犯教室などが行われているほか、市としましては、各行政区や町内会へ省エネ型防犯灯の設置補助や、各地域での防犯パトロールに対し市の青色回転灯装備車の貸出しや、各町内会、小・中学校への防犯活動にのぼりやベスト、帽子などの防犯資機材を配布し、地域の安全・安心に努めているところでございます。

議員お尋ねのとおり、防犯カメラの重要性が増しているところでございますけれども、犯罪を未然に防ぐには、市民の皆様の防犯意識を高めていただくとともに、各地域で行われます防犯パトロールや児童の登下校時の見守り活動などの地域での防犯活動が最も重要と考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

防犯カメラの設置はそこまで重要じゃないというか、重要視まだされていないようなお考えだと受け止めましたけれども、本当に防犯カメラというと、やっぱりついているだけで犯罪抑止にはつながってくるものだと思いますので、引き続きというか、今後御検討をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、今回の一般室の最後の項目であります、利便性の向上に向けた行政サービスに

おける本市の取組について質問をいたします。

本市は、質の高いサービスの提供を目指し、職員が生き生きと働くことができる職場環境を目指すとされています。先ほど市長のほうからも御答弁がございました。ここ近年は、他市に先駆けて本市はDXの推進にも取り組まれてきているわけですが、住民の生活スタイルやニーズが多様化している中で、DXを生かしたどのような行政サービスに取り組んであるのか、お答えください。

また、今後どのような推進を行っていくのか、取組内容等があれば併せてお答えください。担当課のほうよりお願いいたします。どうぞ、どちらでも。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎貴仁議員の質問にお答えします。

これまで市民向け窓口DXとして、証明書のコンビニ交付やオンライン申請、あるいはキャッシュレス決済の導入などにより、窓口サービスの向上を図ってきました。また、今年度につきましては、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、一部公共施設予約のデジタル化を進め、今後、準備が整った施設から市民の皆様がオンライン予約をできるよう進めてまいります。また、令和7年度に証明書オンライン申請の数を増やす予定としています。

今後につきましては、他自治体ではデジタル技術を活用した窓口受付の待ち時間の短縮や、カウンターなどの配置を見直すなど、申請窓口を分かりやすくするなどの事例も増えていきますので、昨年実施した窓口利用体験調査によって洗い出した窓口の課題を整理し、先進自治体を参考にしながら、引き続き検討してまいりたいというふうに思っております。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

それでは、引き続きお答えをお願いいたします。

ただいまおっしゃったDXの推進が進んでいく中で、その傍らでスマートフォンの保有が必要に、欠かせないものになってきます。スマホを持っていない方や利用の複雑さを懸念している方への、例えば、スマホの購入の助成だったり、スマホ講座の取組などはどのようにされていかれるおつもりか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えします。

スマホの購入に対する補助は今のところ考えておりません。

それと、スマホ操作に対する市民向けの講習といたしまして、民間会社からのお声かけで、無料で防災編のスマホ教室をしていただけることから、現在、地域支援課が区長を通じて募集をしており、一番早い開催で令和7年6月ぐらいに実施できると伺っているところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

県下の市町村においては、行政手続のDX化が進むにおいて助成事業にも取り組んである市町村もたくさん存在いたしますので、今後は本市もそのDXの推進とともに、助成事業についても御検討いただければと思います。

次に、市民サービスの拠点として欠かすことができないのが、先ほどからもお話があっています市役所の職場づくりだと思います。

職員の皆さんには、よりよい市民サービスの向上に向け、様々な困難に立ち向かいながらも日々努力をしていただいておりますことに、この場を借りて感謝を申し上げます。

昨今は、公務員の働き方改革など様々な形で全国的に広がる中、本市においても本年1月から、カスハラ対策の一環も担ってのことか、まずは職員のネームプレート等のフルネーム記載を廃止され、名字のみの平仮名記載とすることに関し、いち早く取り組んでいただき、担当いただいた課の皆さん方にはお礼を申し上げます。

そこで、提案ですが、今後は職員の皆さんの働きやすさや休日確保のためにも、北九州市や熊本市など近隣他市でも導入が始まりましたフレックスタイム制度の導入は重要な取組ではないかと考えますが、いかがお考えでしょうか。現在のお考えがあればお答えください。

○議長（遠藤博昭）

仁田原人事秘書課長。

○人事秘書課長（仁田原敏雄）

フレックスタイム制度についての御質問ということでございます。現在の職員の勤務状況も踏まえまして御説明をさせていただきます。

現在、職員の勤務時間につきましては8時半から17時15分の1日7時間45分と定めておりますけれども、業務の都合、例えば、開館時間の問題などで、一部の施設等で早出、遅出の勤務体制を取っている状況でございます。

また、多様な働き方を推進する制度として導入しておりますのは、育児、または介護を行う職員の早出・遅出勤務制度です。小学校就学の始期に達するまでの子どもを養育する職員、放課後児童クラブ等に通う子どもを送迎する職員、または家族等を介護する職員が、1日の勤務時間の長さ、7時間45分ですけれども、これを変更することなく、始業時刻8時半、終業時刻17時15分を変更して勤務することができる制度となっております。例えば、始業時刻を繰り下げて、子どもを保育園に送ってから出勤をしたり、終業時刻を繰り上げて子どもを迎えに行ったりすることができるという制度でございます。

また、近年のワーク・ライフ・バランスの重要性についての意識が我が国全体で高まっており、価値観やライフスタイルの多様化とともに、働き方に対するニーズも多様化してきています。

こうした状況を踏まえ、職員の柔軟で多様な働き方を実現するとともに、優秀な人材の確保につなげるため、先進自治体の事例を参考としながら、議員おっしゃいますフレックスタイム制度をはじめとするワーク・ライフ・バランス推進のための制度について研究をしてみたいと考えております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ぜひよろしく願いいたします。職員皆さんの働きやすい職場づくりの環境構築が市民サービスに結びつくものと考えますし、市長も12月議会において、市役所内を働きやすく、来て楽しい市役所づくりをしていくと答弁をされておりました。

そこで、市長にお尋ねをいたします。

市長は、働きやすく楽しい市役所づくりを目指してある一方で、先ほどからお話が出てい

ます、2月16日に浜口公民館で開催された市政報告会の中で、市長の後援会幹部の方より、市役所においでになって公務員にはやかましく言ってやってくださいや、少し誤解している公務員の皆さん方がいるようだなど、現在懸命に働いてくれている職員さんへの批判とも取られる言葉を市長の前で発言をされたと思います。

市長の部下でもある職員さんへのこのような言葉を目の前で聞かれており、どのようにお感じになっていたのか、簡単に答弁をお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いや、もしそういう発言が、私はちょっと覚えていないんですけど、発言があれば、非常に遺憾に思っています。絶対いけないことだと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ぜひ言われた方に御注意をお願いしたいと思います。

あと1点お聞かせください。

市長も御存じだと言われていました「財界九州」の2月号の記載の件についてであります。その記事の後半に、「倉重前市長が任命した50代以上の部長級職員を「抵抗勢力」と名指しするなど、攻撃的な言動も目立っている。」と記載があります。この記載については、市長に近い方のSNSの書込みの中でも、このようなパワハラまがいの言動が事実なのかと疑問を呈しておられました。

私は市役所でも、市長がよく言われる民間においても、職員と市長との信頼関係が最も重要だと考えますが、ここに記載の抵抗勢力というような発言をされたことは事実ですか。市長、御答弁をお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それは私の言葉として書いてあるんですか。（「だと思います、はい。言われたか言われ

ていないか」と呼ぶ者あり) いや、言っていないです、そんなことは。そもそも「財界九州」が間違っているから、一応釈明が来ました、これについてはですね。いずれ皆さん方に公開をできれば公開したいなと思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

とおっしゃられるんだろうなと思って事前にお聞きいたしました、実は12月議会、ここに議事録があるんですけど、これは議長の答弁ですよ。50代の人とか、ひょっとしたら先生方が非常に抵抗勢力になるかもしれないという御発言をされております。

これは全くうそだと「財界九州」のことを今言われましたけれども、12月の議会で抵抗勢力の発言をされているわけですね。多分、議事録の訂正も取消しもされていません。このことはきちんと市長が発言されたこととしてこの議事録に載っていたのを今回確認したので、改めて質問をさせていただきました。

それでは、次の質問へと移らせていただきます。

現在、全国的に自治体や議会で話題となっているハラスメント対策についてであります。

今、様々な自治体でパワハラやカスハラが問題視されています。一昨日もニュースで、筑紫野市議会にて議員同士間によるパワハラ認定がニュースとなっており、見られた方も多いかと思います。パワハラ的発言をした77歳の議員の方は取材で、自分は言った覚えがないと私もよく耳にする言葉を、言語道断な発言もされておりました。

このハラスメントについては、今や様々なハラスメントが存在するわけですが、まずは市長、このハラスメントについてはどのように理解をされているのか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いや、それはよくないことですよ、それは。どのように理解、そういうふうに思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

とお聞きしましたのも、私は12月議会の一般質問の中で、市長も77歳、私も50歳になるわけですが、過去私たちが普通に話していた言葉さえもハラスメントになるような時代を迎えましたとお話をさせていただきました。

もちろん、ハラスメントは受け取った側の意思で成立するわけですが、さきの抵抗勢力もそうでありますし、これは市民の方からしっかりとお伝えくださいと言われましたので、あえて申し上げますが、12月議会の一般質問中に川野議員に対し、この本会議場で、川野議員の顔が怖い、本当に怖いです、あなた、眼鏡を外すといいかもと、まさにパワハラと取られかねない発言をされたわけです。これは実は、今回、初日に議事録をお配りいただいたときに削除されてあるかなと思ったら、この言葉は全く削除をされてありませんでした。このことは実は、その議会が終わった後、中継を見られた方から、県のハラスメント条例の策定に当たった方だったんですけれども、後日御指摘を受けました。

市長は先日の総合教育会議の中でも、教育現場に携わられている先生を前にして、教師の学生の教育から改めないかというような発言もなさいました。まさか職員の方にはこのような発言はなされていないと思いますが、市長が言われる職員が働きやすい職場づくりの構築をするのであれば、みやま市をはじめ、多くの自治体で取組が始まっている市役所におけるカスハラ、パワハラへの対策である条例の制定や、カスハラ対策の一環となる電話のナンバーディスプレイの導入等は喫緊の課題だと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

今、パワハラとかカスハラとか様々な問題が生じていまして、どんなふうに対応するかというのは弁護士も含めて一応今検討に入っています。そして、私宛てに手紙も来ているんですよね。ですから、この問題について、市役所内でもいろいろ起こっているような状況なので、これの解決に向けて私自身がやっぱり動かなければいけないだろうということを思っています。今要綱だけはあるんですけど、条例化に向けてどういう手続を踏めばいいかというのはこれから課題だなということで、様々な人に御相談しながら、それに向けて、条例化に向けて、今条例化していませんから、向けて動いてまいりたいというふうに思っています。どのような方法でやるのかというのはこれからの検討課題です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

先ほども言いましたように、私たちが過去に使っていた言葉が、今日、冒頭私が話しました内藤議員の言葉もそうですけれども、過去に使っていて当たり前のように思っていた言葉が、今本当に使ったら駄目というか、使うことができないと言ったほうがいいのか、不適切な言葉となっています。それはやっぱり時代の流れだと思いますので、そこは順応し、対応していくべきだと思いますし、今、パワハラ、カスハラの条例制定に向けて取り組んでいただけるということですが、それはやっぱり議会、私たちもそうだと思います。これは早急に、この前それこそ、八女の箕原市長の講演をほぼほぼの議員が聞かせていただきましたけど、パワハラに対する講義でした。この議会もやっぱり早急にそういうパワハラ対策、先ほど言いました議員と議員同士、議員と執行部というか職員の皆さん、それと議員と有権者である市民の皆さん方のパワハラ対策というか、ハラスメント対策は早急に取り組んでいかなくちゃいけない課題だと思っております。

それでは、もう時間があと一、二分だと思いますので、最後の御質問をさせていただきます。

市長、市長の仕事って何ですか。今思っていることをお聞かせいただければ結構です。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私が今、市長に就任して4か月余りになります。市長の仕事がこんなに忙しいもんだとは思いませんでした。特に、副市長もいないし、教育長もいないし、様々な判断が求められるところで、こんなに忙しくて、時には判断が間違ふんじゃないかなというぐらいに忙しいです。これは本当に私の、本当、副市長とか、いわゆる以前助役と言われた方ね、副市長とか、私が何か忙しいとき、ちょっとこれをしとってと言えるような人が近くにいれば、私自身もすごく充実した仕事ができるんじゃないかなと思っています。

私は、市長の一番大きな仕事というのは、大川市政、大川市をよくすることなんです。もうただ1本、もうそれだけなんです。様々な手段をどういう格好で取るかというのは議員

の皆さんと協力しながらもちろんやっていかにやいかんし、職員の皆さんとも協力していかにやいかんし、あるいは一般の市民の方とも協力をしていかなければいけないというふうに思っています。それは本当に大川市をよくするためです。

ですから、私が間違ったやり方をやれば、ぜひ議員の皆さんからもそれは間違っているよというふうに言ってもらいたいし、しかし、お願いしたいのは、民意が出たんだったらノーサイドでいきたいと思っています。ぜひその民意に沿って、ぜひ議員の皆さん方も協力をお願いしたいと。そしたら市政もうまくいくんじゃないかなということで、私ももうこの年になっているんですけど、反省すべきところは反省します。私も完璧な人間じゃないから間違いもすると思います、間違った言動もすると思います。それは皆さんから指摘を受けながら反省して、そして、未来の子どもたちのために残すべきところは残してあげないと、やっぱり負担を大きくしたらよくないと思うんですよね。だから、未来、大川の市政がどのようになるか、そして、財政がどういう方向に向かっているかというのをきちんと理解しながら将来の政策の方向性を決めていきたいというふうに思っています。

どうぞ議員の皆さんにおかれましては、私に対する忠告と、それから協力を併せてお願いいたします。よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

じゃ、これをもちまして私の一般質問を終わります。（「議長、一傍聴人ですけど、大野島の住民です。教育問題について、ちょっと質問、お時間いただけませんか」と傍聴席より呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

じゃ、本会議が終わった後にお願ひできませんか。一旦……。 （「いや、あの……」と傍聴席よりと呼ぶ者あり） いや、お聞きになっていいんですけども、一旦本会議は、ちょっと傍聴席からの意見は求められませんので。（「はい、それなら、おられるように言ってください」と傍聴席より呼ぶ者あり） はい、分かりました。

以上で本日の一般質問を終わります。

なお、次の本会議は明日午前9時から開くことになっておりますので、念のため申し添えます。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後 4 時24分 散会